

1780迄 (1631件)

1771年-13:00|トンガ| |||<即位>トンガ 主長(トゥイ・カノホ・オル)「マエリアウキ」(1期目~1777年)
1771年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Paulus Jacob Valkckenaer」(~1778年)
1771年-08:00|マレーシア| |||<即位>パタニ王国国王「スルタン・ムハンマド(ラジヤ・アーマット)」(~1785年)
1771年-07:00|ラオス| |||<死去>ルアンパバーン王国国王「ソティカ・クオメ」
1771年-07:00|ラオス| |||<即位>ルアンパバーン王国国王「スリニャ・ウォンサ2世」(~1788. 5)
1771年-07:00|ラオス| |||ルアンパバーン王国がビエンチャン王国を攻撃
1771年-05:30|インド| |||<就任>アウグ国統治者「ナーレーヤ」(~1785年没)
1771年-05:30|インド| |||<就任>アサカル国ラジャ「カラン・ゴピナート・パワルタ・パトナイク」(~1821年)
1771年-05:30|インド/アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン・カシミール総督「ラム・カーン」(~6ヶ月)⇒「アミール・カーン・ジヤウ・アンジャー」(~1776年)
1771年-05:30|インド| |||<就任>カシュマル国ラジャ「ミフル・シン」(~1786年没)
1771年-05:30|インド| |||<就任>カラハンティ国ラジャ「ブルソタム・デオ」(~1796年)
1771年-05:30|インド| |||<就任>クランドワト国統治者(ラ)「カントラオ・ダダ・サヒブ・パトワラン」(~17710303没)
1771年-05:30|インド| |||<就任>ソネール国ラジャ「ハ・シン・デオリ」(~1786年没)
1771年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ウダール国ラジャ「ハミルシンジ2世」(~1777年)
1771年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「ネティアヌト・マルドラージ・ハリヤンダン」(~1774年)
1771年-05:30|インド| |||<就任>ミラージ国統治者(ラ)「ウ・アマン・ラウ」(~1775年没)
1771年-05:00|ガザフスタン| |||<死去>中ジューズ・ハーン「アヒルマンベト・ハーン」
1771年-05:00|ガザフスタン| |||<就任>小ジューズ・ハーン「ヌリ」アブル=ハイルの長男(~1786年)
1771年-05:00|ガザフスタン| |||<就任>中ジューズ・ハーン「アヒライ・カーン」(~1781年5月没)
1771年-05:00|ウスベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第42代ハン「アブルカス(アブドゥル・アズィーズ)」カイフの子(同年)
1771年-04:00|ジョージア| |||<就任>カリア公「マミ4世」(3回目~1778年)
1771年-03:00|カンタ| |||<就任>パグウェリ統治者(オムカマ)「メンハ・キベティ」(~1798年頃)
1771年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクコ・ワリス(総督)「Catalcali Ali Pasha」(~同年)
1771年-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||エジプト太守のアリー・ベイがダマスカスを占領
1771年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ガーンジー島管理人「Samuel Bonamy」
1771年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー島管理人「William Le Marchant」(~18001119死去)
1771年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<死去>ヴァージン諸島副知事「ジョン・ハーセル」
1771年 04:00|アンティグア・バブーバダ| |||<就任>アンティグア大統領「トマス・ジャベリス」
1771年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「John スミス」(~1776年)
1771年 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督代行「クロード・アンヌ・ギ・ト・ミウ」(~1772年)
1771年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島副知事「ジョン・ファヒー」(~1774年)
1771年 04:00|サン・バルテルミー/フランス| |||<就任>フランス領サン・バルテルミー島司令官「Pierre Bernier」(~1774年)
1771年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領東フロリダ植民地総督「ジョン・モートリー」(~1774年)
1771年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペンシルベニア植民地総督「リチャード・ベン」(~1773年)
1771年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「ペルナベ・デ・ラ・トル・トラシエラ」(2回目~1773年)
1771年 10:00|ボリネシア/フランス| |||<死去>ライアアとタア統治者「Taraoari`i Tamatoa2世 fa`o」
1771年 10:00|ボリネシア/フランス| |||<就任>ライアアとタア統治者「Vete`a ra`i Tamatoa3世」(~18310710死去)
1771年1月-02:00|ウクライナ| |||<死去>クリミア汗国ハン「カフラン2世ギレイ」
1771年1月-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハン「セリム3世ギレイ」(2期目~1771. 7)
1771年1月2日-09:00|日本|大阪府高槻市|明和7年11月17日|<死去>摂津高槻藩36000石「永井直珍」(29歳)⇒翌年1月16日、長男「永井直進」が継ぐ(⇒文化6(1809)年8月23日、隠居)
1771年1月5日 00:00|イギリス| |||<死去>ペットフォード公「ジョン・ラッセル」
1771年1月5日 00:00|イギリス| |||<就任>ペットフォード公「フランス・ラッセル」先代の孫(~18020302死去)
1771年1月8日 03:00|ウルクアイ/スペイン| |||<就任>モンテビデオ総督「Jose Joaquin de Viana」(2期目~1773. 2死去)
1771年1月9日-09:00|日本|京都府京都市|明和7年11月24日|<譲位>117代「後桜町天皇」
1771年1月9日-09:00|日本|京都府京都市|明和7年11月24日|<踐祚>118代「後桃園天皇」/明和8年4月28日即位式
1771年1月17日-05:30|インド| |||<就任>コタ国支配者(マハラ)「ウメイド・シン1世」(~18191119没)
1771年1月20日-09:00|日本| ||明和7年12月5日|<死去>初代錦屋惣次(不明)長唄三味線方
1771年1月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|明和7年12月16日|松山城下町大火、950軒余を焼く
1771年2月-02:00|ルマニア/ロシア| |||<就任>モルダヴィア総督「アレクサンドル・ヴァシリエヴィチ・リムスキー・コルコフ」(モルダヴィアのデイグァンのロシア大統領~17740928)
1771年2月10日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|明和7年12月26日|宇和島家中長屋より出火、210軒焼失
1771年2月12日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王「アドルフ・フレデリック」60歳(誕生1710年)
1771年2月12日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ゲスタフ3世」(~17920329死去46歳)
1771年2月14日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|明和7年12月30日|<死去>安藤信尹(54歳)前美濃加納藩主
1771年2月15日-09:00|日本|北海道|明和8年|エトロフアイヌらはロシア人をおそい21人を殺害、ロシア人はウリッポ島から退去
1771年2月15日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興32年|大越ビンデン省タイン(西山)のグエン・ヴァン・ニヤク(阮文岳)、グエン・ヴァン・フエ(阮文恵)、グエン・ヴァン・ルウ(阮文侶)の3兄弟が蜂起し西山党の乱がおこる

1780迄 (1631件)

1771年2月18日-09:00|日本| ||明和8年1月4日|<死去>宮瀬竜門(53歳)漢詩人
 1771年2月19日-01:00|フランス| ||フランスの天文学者シャルル・メイエが橋田銀河M49発見
 1771年3月3日-05:30|インド| ||<就任>クラント・ワト 国統治者(ラオ)「ラガナトラオ1世ダダ・サヒブ・パトワラン」(~1801年没)
 1771年3月3日-09:00|日本|愛知県田原市|明和8年1月17日|<死去>大垣新田藩1万石「戸田氏之」(38歳)⇒長男「戸田氏養」が継ぐ(⇒天明5(1785)年4月29日、死去)
 1771年3月11日-09:00|日本| ||明和8年1月25日|混浴禁止令が出される
 1771年3月14日-09:00|日本|大阪府大阪市|明和8年1月28日|<初演>近松半二、松田ばく、栄善平、近松東南、三好松洛(後見)「妹背山婦女庭訓」竹本座
 1771年3月17日-09:00|日本| ||明和8年2月2日|<死去>8代千宗室(53歳)茶人、裏千家家元
 1771年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・バティスト・エンジェル」
 1771年4月4日 04:30|スペイン| ||<就任>スペイン領ベネチア総督「Felipe de Font de Viela y Ondiano」(~10.21)
 1771年4月8日-09:00|日本|愛知県刈谷市|明和8年2月24日|<死去>土井利信(44歳)前三河刈谷藩主
 1771年4月10日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|明和8年2月26日|<死去>有馬氏久(73歳)前伊勢西条藩主
 1771年4月15日 00:00|イギリス| ||英国ジョージ・フリーストリーがブラジル産ゴムの消し去る性質を発見(消しゴム)
 1771年4月16日-01:00|イタリア| ||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「ジョヴァンニ・パチタ・カンビアツリ」(~17730416)
 1771年4月16日-01:00|スペイン/エカトル| ||ティリロ・ロ・イ・カラの農民が反乱。コレヒョールの部隊は農民8人を虐殺したたかいを鎮圧
 1771年4月16日 04:00|フォークランド/イギリス| ||<就任>イギリス領西フォークランド 海軍担当官「John Stott」(~9.13)
 1771年4月16日 04:00|トミカ共和国/スペイン| ||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「ソコ侯爵ル・ソラノ・イ・ボテ・カスコ・イ・デ・イアス」(~1779年)
 1771年4月16日 04:00|フォークランド/イギリス| ||英国、船団を送り、再び西フォークランド 島を確保
 1771年4月21日 00:00|イギリス| ||<死去>4代プリマス伯「アザール・リス・ウィンザー」
 1771年4月21日 00:00|イギリス| ||<就任>5代プリマス伯「アザール・ヒックマン・ウィンザー」(~17990612死去)
 1771年4月21日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|明和8年3月7日|<死去>因幡鹿奴藩3万石「池田延俊」(18歳)⇒養子「池田澄時」が継ぐ(⇒天明5(1785)年7月21日、死去)
 1771年4月24日-01:00|日本|沖縄県八重山郡|明和8年3月10日|<明和8年八重山地震津波「明和の大津波」>辰の刻(午前8時ごろ)、石垣島南東沖合約40kmを震源とするマグニチュード7.4の地震が、八重山諸島と宮古諸島、与那国島を襲った/津波が三度にわたって人びとを襲った/10~30mもする高さの津波が島々を襲い、中でも石垣島の大浜、宮良、白保、伊原間、安良の各村がほぼ全滅するなど、全域で人口の約32%、9393人が死亡行方不明となり住家全壊2176戸、同浸水1003戸、船の流失98隻のほか16.3平方kmという広大な田畑が流されて耕作が出来なくなり飢饉と疫病が広がり、津波後の100年間で更に人口が7000人も減少した
 1771年4月26日-09:00|日本|和歌山県田辺市|明和8年3月12日|<死去>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤寛長」(25歳)⇒7月11日、養子「安藤次猷(直時)」が継ぐ(⇒享和元(1801)年5月9日、隠居)
 1771年4月29日-09:00|日本|東京都江東区|明和8年3月15日|<大相撲>明和8年3月場所[江戸深川三十三間堂](~8日間)優勝(西大関)釋迦ヶ嶽、6勝1敗1休
 1771年5月1日-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ヨゼフ・マリア・グラーフ・アウアースペルク」(~17740706)
 1771年5月9日 09:00|日本|福井県福井市|明和8年3月25日|<福井明和8年の大火>暮六つ時(18時ごろ)、三上町から出火し南は境町あたりまで焼き、西は大工町の北まで、北は加賀口門の際まで焼いて暁七つ時(午前4時ごろ)過ぎに鎮火/表御堂近辺の寺院や拝領屋敷174軒を焼き被災合計は、士分の侍屋敷80軒、扶持(給料)を受けている下級侍の家191軒、町家711軒、土蔵24棟、寺社33か所を焼失
 1771年5月13日-09:00|日本| ||明和8年3月29日|<死去>初代富士田吉次(58歳)長唄唄方
 1771年5月14日 00:00|イギリス| ||<死去>9代キンカーディン伯・5代エルギン伯「チャールズ・ブルース」
 1771年5月14日 00:00|イギリス| ||<就任>10代キンカーディン伯・6代エルギン伯「ウィリアム・ロバート・ブルース」先代の長男(~7.15死去)
 1771年5月14日-09:00|日本|石川県金沢市|明和8年4月|<交替>加賀藩102万5千石「前田重教」隠居⇒異母弟の「前田治脩」が継ぐ(~享和2(1802)年、隠居)
 1771年5月16日 06:00|アメリカ| ||(~17日)ノース・カロライナ境界農民のレギオン運動がおこる
 1771年5月18日-09:00|日本| ||明和8年4月5日|倭約令を発令/役人に給する食事をはじめ事務用品、城中調度類に至るまでの細部まで節約を規定
 1771年5月20日 06:00|グアテマラ/スペイン| ||<就任>スペイン領グアテマラ暫定総督・総司令官・大統領「フアン・ヌニョ・ゴンサレス・フステロ・イ・ベシジャセニョール」(~17730612)
 1771年5月21日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ジャッパリ伯「アントニー・アシュリー＝ケーパー」
 1771年5月21日 00:00|イギリス| ||<就任>5代ジャッパリ伯「アントニー・アシュリー＝ケーパー」(~18110504死去)
 1771年5月25日-04:00|ロシア| ||<即位>カラムイク・ハン国暫定ハン「ケニヤズ」のアレクセイ・フョードロヴィチ・ドントコフ(~10.31)
 1771年5月25日-09:00|日本|滋賀県野洲市|明和8年4月12日|<死去>近江三上藩1万石「遠藤胤将」(60歳)⇒弟「遠藤胤忠」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年2月20日、隠居)
 1771年6月-04:00|ロシア/ウクライナ| ||ロシア軍がクリミア半島を占領
 1771年6月1日-09:00|日本| ||明和8年4月19日|<死去>3代津打治兵衛(不明)歌舞伎作者
 1771年6月5日-09:00|日本| ||明和8年4月23日|<死去>初代黒沢琴古(62歳)尺八琴古流家元
 1771年6月6日-02:00|シリア・アラブ/エジプト| ||<就任>ダマスカス・リス(エジプト司令官)「Abu l Dhahab」(~18日)
 1771年6月6日-02:00|シリア・アラブ/エジプト| ||エジプトのマムルーク軍がダマスカスに駐屯(~18日)

1780迄 (1631件)

1771年6月8日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ハリファックス伯「ジョージ・モンタギュー＝ダンク」断絶
1771年6月10日-09:00|日本|岐阜県海津市|明和8年4月28日|<死去>美濃高須藩3万石「松平義敏」(38歳)⇒長男「松平義柄」が継ぐ(⇒安永6(1777)年1月25日、本家尾張藩主「徳川宗睦」の養嗣子となり「徳川治行」と改名)
1771年6月14日-09:00|日本|山形県米沢市|明和8年5月2日|米沢藩主上杉鷹山、儒学者細井平洲を招き興譲館再興
1771年7月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>クリミア・ロシア司令官「Knyaz' Vasiliy Mikhaylovich Dolgorukov」(1期目~10月)
1771年7月-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハン「サヒブ 2世ギレイ」(~1775. 4)
1771年7月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||クリミアをロシアが占領(~1774. 9)
1771年7月 06:00|アメリカ| |||不輸入協定が崩壊
1771年7月2日-09:00|日本|東京都|明和8年5月20日|幕府は、農民が大挙して江戸の領主屋敷へ門訴することを厳禁し、首謀者にたいする遠島などの刑罰を定める
1771年7月11日-09:00|日本|福井県鯖江市|明和8年5月29日|<死去>越前鯖江藩5万石「間部詮央」(34歳)⇒7月22日、弟「間部詮茂」が継ぐ(⇒天明6(1786)年6月7日、死去)
1771年7月12日 00:00|イギリス| |||クックが南太平洋探検航海から帰港
1771年7月13日 04:00|グレートブリテン/イギリス| |||<就任>グレートブリテン・総督・最高司令官代行「ユリッス・フィッツモリス」(2回目~11. 1)
1771年7月14日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密内閣大臣「ヨハン・フリートリヒ・ストルエンベール」(~17720117没)
1771年7月15日 00:00|イギリス| |||<死去>10代キンカーディン伯・6代エルギン伯「ウィリアム・ロバート・ブルース」
1771年7月15日 00:00|イギリス| |||<就任>11代キンカーディン伯・7代エルギン伯「トマス・ブルース」先代の次男(~18411114死去)
1771年7月15日-09:00|日本|東京都千代田区|明和8年6月4日|<死去>徳川宗武(57歳)田安德川家初代当主⇒五男の治察が継いだ
1771年7月21日-09:00|日本|広島県福山市|明和8年6月10日|品治郡新市村出火、家数269軒焼失
1771年7月24日-09:00|日本|茨城県常陸太田市|明和8年6月13日|<死去>中山政信(38歳)常陸太田藩主、水戸藩家老⇒養子の信敬が継いだ
1771年7月25日-09:00|日本|三重県桑名市|明和8年6月14日|<交替>伊勢桑名藩10万石「松平忠刻」隠居⇒次男「松平忠啓」が継ぐ(⇒天明6(1786)年12月10日、死去)
1771年7月30日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの詩人トマス・グレイ/54歳(誕生17161226)
1771年8月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Louis Francois de Dion」(⇒17720318知事~17730414)
1771年8月7日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|明和8年6月27日|<死去>駿河小島藩1万石「松平昌信」(44歳)⇒8月29日、婿養子「松平信義」が継ぐ(⇒寛政12(1800)年7月20日、隠居)
1771年8月12日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ 領ヶブ 植民地司令官代行(オランダ 東インド 会社)「ファン・フラッテンベルグ男爵ヨハム・アンメ・ファン・フラッテンベルグ」(⇒17740518、司令官~17850214)
1771年8月12日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||クリミアはロシア保護領
1771年8月14日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官代行「デ・イエゴ・ホセ・ナポレオン・ガルス・デ・バリアダレス」(1回目~11. 18)
1771年8月14日-09:00|日本|愛媛県大洲市|明和8年7月4日|<死去>伊予新谷藩1万石「加藤泰宣」(35歳)⇒長男「加藤泰賢」が継ぐ(⇒文化7(1810)年3月10日、隠居)
1771年8月14日-09:00|日本|福井県|明和8年7月4日|福井城下石場中立矢町で火事、町家187軒焼失
1771年8月19日-09:00|日本|兵庫県加東市|明和8年7月9日|<死去>播磨三草藩1万石「丹羽氏栄」(56歳)⇒養子「丹羽氏福」が継ぐ(⇒寛政8(1796)年2月6日、隠居)
1771年8月28日-09:00|日本|香川県高松市|明和8年7月18日|<死去>讃岐高松藩12万石「松平頼恭」(61歳)⇒8月27日、長男「松平頼真」が継ぐ(⇒安永9(1780)年3月5日、死去)
1771年8月30日-09:00|日本|佐賀県唐津市|明和8年7月20日|<虹の松原一揆>肥前国唐津藩で発生した一揆/唐津城に近い虹の松原に集結した農民が新税の撤回を要求、藩にこれを認めさせた
1771年9月-04:00|ロシア| |||モスクワでペスト一揆がおこる
1771年9月6日-09:00|日本|東京都|明和8年7月27日|江戸で、船中での賭博が禁じられる。船の貸し主も厳罰に
1771年9月9日-09:00|日本| |||明和8年8月|吉益東洞「薬徴」を著し、陰陽五行説を排して新たに薬効を規定
1771年9月9日-09:00|日本| |||明和8年8月|池大雅・与謝蕪村「十便十宣画冊」完成
1771年9月13日 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領西フォークランド 海軍担当官「John Burr大佐」(~17730229)
1771年9月15日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Mariano Tobias」(~17740615)
1771年9月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サスカワナ植民地総督「チャールズ・グレヴィル・モンタギュー」(~17730306)
1771年9月17日-09:00|日本| |||明和8年8月9日|<死去>炭太祇(63歳)俳人
1771年9月23日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「アントニオ・マリア・デ・ブカレリ・イ・ウルス・イノストロ・ラ・ラ・ベガ」(~17790409没)
1771年10月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>クリミア・ロシア司令官「Knyaz' Fyodor Fyodorovich Shcherbatov」(~1773年)
1771年10月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Mustafa Agha」(~11月)
1771年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ゴジ」 「アンジョロ・オルトラニ」
1771年10月7日-09:00|日本|滋賀県大津市|明和8年8月29日|<死去>近江膳所藩6万石「本多康伴」(32歳)⇒長男「本多康匡」が継ぐ(⇒天明元(1781)年12月20日、死去)
1771年10月8日-08:00|中国| |||清・乾隆36年9月|トルコ 部が清に降る

1780迄 (1631件)

1771年10月21日-01:00|トイッ| |||<死去>パ-テン=パ-テン辺境伯「アウグスト・ゲオルク」
1771年10月21日-01:00|トイッ| |||<就任>パ-テン辺境伯「カール・フリードリヒ」(⇒18030427パ-テン選帝侯⇒18060725パ-テン大公~18110610死去)
1771年10月21日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Francisco de Arce」(~17720225)
1771年10月22日-01:00|ベルギー-| |||<死去>リエージュ大司教「オットモン伯爵シャルル・ニコラ・アレクサンドル」
1771年10月22日-01:00|ベルギー-| |||<就任>リエージュ大司教「シャルル・ダミアン・ブーースト・ワルデック」(~17720314)
1771年10月24日-01:00|ベルギー-| |||<就任>フイヨン公「ゴットフロワ・シャルル・アンリ」(~17921203没)
1771年10月24日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏「フェルディナント・アントン・ファンカー・フォン・フンケンベルク」(~17750608)
1771年10月31日-04:00|ロシア| |||<廃止>カムイク・ハン国(アストラハン総督による直接統治)
1771年11月-05:30|インド-| |||<就任>ファルハート国支配者(サワ)「ディラール・ヒマト・カン・ムザファル・ジヤン」(~1796年没)
1771年11月1日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ総督・最高司令官「ウィリアム・レイボーン・レイボーン」(~17750416没)
1771年11月4日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス(総督)「Muhammad Pasha al-Azm」(1期目~1772. 6)
1771年11月4日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|明和8年9月28日|<死去>山城淀藩10200石「稲葉正益」(54歳)⇒長男「稲葉正弘」が継ぐ(⇒安永2(1773)年9月12日、27歳で死去)
1771年11月5日-09:00|日本|岩手県陸前高田市|明和8年9月29日|覚林日如陸前長渡島に事光庵を創す
1771年11月7日-09:00|日本|東京都江東区|明和8年10月|升屋宗八が深川に高級料理店「枡屋」を開く
1771年11月11日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルル司教ヨアキン・サンティヤン・イ・ウアルデ・イ・エスロ」(~17790301)
1771年11月17日 00:00|カリヤ諸島| |||<死去>フェルペントウ島主「Francisco Bautista Benitez de Lugo Arias de Saavedra」
1771年11月17日 00:00|カリヤ諸島| |||<就任>フェルペントウ島主「Francisco Bautista2世 Benitez de Lugo Arias de Saavedra y Ponte」(~18060708死去)
1771年11月18日-02:00|ルマニア/ロシア| |||<就任>ワラキア総督・領主「アント・レイ・イワノヴィッチ・メーター」(ワラキアのディウ・アンのロシア大統領) (~1774年9月)
1771年11月18日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「ラートレ侯爵フェリペ・デ・フォンテ・ス・イエラ・イ・オランダ」(~17770612)
1771年11月24日-09:00|日本|岐阜県山県市|明和8年10月18日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道揚」(19歳)⇒12月12日、養子「本庄道利」が継ぐ(⇒享和元(1801)年6月21日、隠居)
1771年11月25日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェストモラント伯「トマス・フェイン」
1771年11月25日 00:00|イギリス| |||<就任>ウェストモラント伯「ジョン・フェイン」先代の子(~17740425死去)
1771年11月25日-09:00|日本| ||明和8年10月19日|<刊行>国学者、本居宣長「直毘霊」/日本古来の姿への復帰を説く
1771年11月28日 00:00|イギリス| |||<死去>2代シャンドス公・2代カーナヴァン侯「ヘンリー・ブリッジス」
1771年11月28日 00:00|イギリス| |||<就任>3代シャンドス公・3代カーナヴァン侯「ジェームズ・ブリッジス」先代の息子(~17890929死去断絶)
1771年11月28日-09:00|日本|東京都江東区|明和8年10月22日|<大相撲>明和8年10月場所[江戸深川八幡宮](~8日間)優勝(西前4)戸田川、7勝1敗
1771年12月6日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆36年11月|朝鮮、申聞鼓を再度設置
1771年12月11日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ムアッザート・メフメト・パシャ」(2期目~17740804)
1771年12月30日-09:00|日本| ||明和8年11月25日|<死去>飯島珈涼尼(76歳)俳人
1772年-07:00|ラオス/タイ| |||シエンクアーンはタイの宗主国下(~1835年)
1772年-07:00|ラオス/タイ| |||ルアンパバーン(ランサン)はタイの宗主国下(~1795年)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>カチャリ国ラジャ「クリシュナチャンドラ・ナヤン・ハヌサ」(~1813年)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>コッホ・ヒール国ラジャ「ダレントラ・ナヤン」(1回目)⇒「ビジェントラ・ナヤン」(~1774年没)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>シャイナ国ラジャ「アジヤブ・シン」(~1782年没)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>シヴァガンガ国ラジャ「ヴェル・ナヤル」(~1790年)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>バグガール国統治者(タクル・サーヒブ)「ワツィムジ・アケラジ」(~1816年没)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>モルガイ国統治者(タクル・サーヒブ)「ワクジ・イ・ラワジ」(~1783年没)
1772年-05:30|インド-| |||<就任>ラムナト国摂政「セトゥパティ」(~1780年)
1772年-05:30|インド-| |||ジャイプールの下にラウ国(ティカ)設立
1772年-05:00|パキスタン| |||<死去>カル朝君主「Mian Ghulam Shah Kalhoro」
1772年-05:00|カザフスタン| |||<即位>ハ薩克汗・ハン「ボラト」アブルマンハトの子(~1809年)
1772年-05:00|パキスタン| |||<即位>カル朝君主「Mian Sarfraz Kalhoro (Khudayar Khan)」(~1783年)
1772年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第43代ハン「アルタウ・ガーズィー」アブル・ガーズィー3世の兄弟(~同年)⇒第44代ハン「アブト・ウッラー」(~同年)⇒<復位>第45代ハン「アグム(アブト・ウッラー)」(2期目~1773年)
1772年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>バクー汗国ハン「マリク・ムハンマト・ハン」(~1784年死去)
1772年-04:00|セイシェル/フランス| |||<就任>フランス領セイシェル司令官「ジョゼフ・フランソワ・ウジェーヌ・ベソング・ヤミン・アンセルム」(~1775年)
1772年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ヴェキル・オスマン・パシャ」(~1773年、死去)
1772年-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「ヨハン・ハインリッヒ・シック」(~17870119)
1772年-02:00|エジプト| |||アリー・ベイがアブー・アルザハフとの抗争に敗れる
1772年-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン領メリダ総督「Miguel Fernandez de Saavedra」

1780迄 (1631件)

1772年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「メフメト・アシフ・ハッシャ」(1回目~1774年)
1772年-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ルイ6世アンリ」(~18300830死去)
1772年-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンのシェーレが酸素を発見
1772年 00:00|トコ| |||<就任>ア林統治者(アフ・タカ)「セホ・ン」(~1812年)
1772年 00:00|フェロ諸島| |||<就任>フェロ諸島首席大臣「Jacob Bentzon Hveding」(~1786年)
1772年 00:00|セカール| |||<就任>フタ・ト・ロ統治者(デ・ナケ・サティギ)「ホ・カール・スレ」(~2ヶ月)⇒「マカン・ウル」(~半日)⇒「スレー・ブド・ウ」(~1776年没)
1772年 00:00|ポルトガル| |||公教育法が公布され、479の初等学校が設立された
1772年 00:00|イギリス| |||イギリスのサ・フォードが窒素を発見
1772年 00:00|シエラレオネ/フランス| |||フランス人商人がブ・ンス川河口にあるガンビ・ア島に拠点を置く
1772年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Jan van der Biest2世」(~1782年死去)
1772年1月8日-09:00|日本|群馬県高崎市|明和8年12月4日|<交替>上野吉井藩1万石「松平信有」隠居⇒養子「松平信明」が継ぐ(⇒安永4(1775)年9月19日、31歳で死去)
1772年1月11日-09:00|日本| ||明和8年12月7日|<死去>黒柳召波(45歳)俳人
1772年1月13日-02:00|南アフリカ/フランス| |||フランス人大尉マルク=ジョセフ・マリオン・デュ・フレヌがフリゲート艦ラ・マスカリンに乗船し、テッレ・ド・ラ・エスペランス(マリオン)とシュレ・ド・ラ・カウ・エリス(エドワード王子)と名付けられた諸島を再発見
1772年1月14日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ノーティントン伯「ロバート・ヘンリー」
1772年1月14日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ノーティントン伯「ロバート・ヘンリー」先代の息子(~17860705死去廃絶)
1772年1月15日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ総督代行「デ・ラ・フェロー」(~4.30)
1772年1月16日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク摂政「女王ユリアン・フォン・ブラウンシュヴァイク・グオルフフェン・ユッテル」(~17840414)
1772年1月18日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国枢密院議長「トート・ティル・カウ・ノ伯爵オットー」(~17850910)
1772年1月24日-01:00|フランス| |||マルク=ジョセフ・マリオン・デュ・フレヌによって知れ諸島発見し、フランスが領有宣言
1772年2月1日 04:00|アンティグア・バ・ブーダ/イギリス| |||<就任>リーワード・カリブ諸島総司令官・総督「ラルフ・ペイン卿」(1回目~1775年)
1772年2月4日-09:00|日本|岡山県真庭市|明和9年|<交替>美作勝山藩23000石「三浦明次」隠居⇒養子「三浦矩次」が継ぐ(⇒安永9(1780)年3月21日、34歳で死去)
1772年2月4日-09:00|日本|東京都|明和9年1月|<刊行>御家人木室卯雲「鹿の子餅」/関西の軽口本から脱却した江戸小噺本の体裁ができる
1772年2月4日-08:00|中国| ||清・乾隆37年1月|清でウルム城を建設
1772年2月10日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<死去>リヒテンシュタイン公「ジヨセフ・ヴァンツェル」
1772年2月10日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン公「フランツ・ジヨセフ1世」(~17810818没)
1772年2月12日-01:00|フランス| |||ケルゲレン諸島は、イグ・ジヨセフ・ド・ケルゲレン・トマレックによって発見されフランス領宣言
1772年2月18日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「フレデリック・ローレ・ド・カーニ」(~1773年11月没)
1772年2月18日-09:00|日本|静岡県牧之原市|明和9年1月15日|<加増>相良藩25000石「田沼意次」⇒3万石(⇒安永6(1777)年4月21日、37000石に加増)
1772年2月18日-09:00|日本|東京都千代田区|明和9年1月15日|<就任>老中格「田沼意次」→老中(~天明6年8月27日)
1772年2月25日 04:30|ベネズエラ/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネズエラ総督「Jose Carlos de Aguero Gonzalez」(~17770617)
1772年2月25日-09:00|日本|大阪府和泉市|明和9年1月22日|<死去>和泉国伯太藩13500石「渡辺信綱」(46歳)⇒次男「渡辺伊綱」が継ぐ(⇒天明3(1783)年4月18日、隠居)
1772年2月28日-09:00|日本|熊本県宇土市|明和9年1月25日|<交替>肥後宇土藩3万石「細川興文」隠居⇒三男「細川立禮」が継ぐ(⇒天明7(1787)年9月19日、宗家の熊本藩を継ぐ)
1772年3月1日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロ総督「Ulrich Wilhelm von Roepstorff」(~17730731)
1772年3月6日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督「アウグスティン・デ・ジャウレギ・イ・アルデコア」(⇒1778年、チリ総督・司令官~17800706)
1772年3月9日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Vital Auguste de Gregoire」(~17760315)
1772年3月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ゴータ=アルテンブルク公「フリートリヒ3世」
1772年3月10日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ゴータ=アルテンブルク公「エルスト2世」(~18040420死去)
1772年3月14日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ大司教「グエルプ・リュック伯爵フランソワ・シャルル」(~17840430死去)
1772年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「セバスティアノ・オノフリ」「ジュゼッペ・ベルトニ」
1772年4月1日-09:00|日本|茨城県水戸市|明和9年2月29日|<水戸明和3年の大火>(~30日)下町ほぼ全焼、郊外の村々にも火の手が
1772年4月1日 03:00|日本|東京都|明和9年2月29日|<江戸明和9年「目黒行人坂の大火」>午の刻(午前12時頃)下目黒村行人坂にある大円寺に願人坊主(依頼人に代わり願掛けをする乞食坊主)の真秀が盗みを働こうと忍び入り、寺の灰小屋(回収業者に売る落ち葉の灰や火鉢、線香立ての灰などを溜めておく小屋)に火をつけたが火の回りが早く、一物も取れずに逃げ出した/大円寺から出火した炎は、麻布、芝から江戸城郭内へ、そこからさらに京橋、日本橋、小川町、駿河町から外神田と神田明神へ、また本郷から湯島聖堂まで進み、さらに御徒町、浅草、下谷と江戸の中心街をあっという間になめ尽くし、箕輪から千住まで達した/いったん収まったが、夕方酉の刻(18時頃)になり本郷の炎が丸山田町の道具屋と八家で勢いを取り戻し、火の手は北西の方面へと進み、森川、追分

1780迄 (1631件)

、駒込方面を焼失、北方の千駄木、根岸までなめ尽くした/翌日、猛火は大伝馬町から南へと馬喰町、小網町、住吉町へと進み、ふたたび駿河町、日本橋、京橋が焼けたが、未の刻(14時頃)鎮火/江戸の街のほとんどが焼かれてその数934か町、町家の焼失戸数は数えきれず、大名屋敷169か所、寺と神社382か所焼失/1万4700人死亡、4000余人行方不明/中村座、市村座、焼失

- 1772年4月11日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金相福」(~8.29)
- 1772年4月15日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリウ総督「Jose Carrion de Andrade」(~1777年)
- 1772年4月28日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス東インド会社ベンガル知事「ウォレン・ヘステイングズ」(⇒17731020ベンガル総督)
- 1772年4月30日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミゴ 総督「ヴァリエール侯爵ルイ・フロラン」(~17750415没)
- 1772年5月1日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト《歌劇「スチーオの夢」》
- 1772年5月2日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相代行「ゲラフ・ニコラ・イワノヴィッチ・パニン」(~17830411)
- 1772年5月8日-09:00|日本|福島県相馬市|明和9年4月6日|<死去>相馬尊胤(76歳)前陸奥相馬中村藩主
- 1772年5月12日-09:00|日本|東京都新宿区|明和9年4月9日|江戸内藤新宿を再興し甲州街道の宿駅となす
- 1772年5月12日-09:00|日本|新潟県新発田市|明和9年4月9日|<開校>新発田藩 講堂(後の藩校、二の丸御用屋敷内)
- 1772年5月17日 01:00|日本|山形県酒田市|明和9年4月15日|<酒田明和9年の大火「片町火事:藤十郎火事」>(~16日)朝四つ(午前10時)過ぎ、片町の藤十郎の家宅から出火、本町通りから川端通りへと進み、日和山下まで延焼し翌日暁七時半(午前5時ごろ)鎮火/寺町通りと鍛冶町の末だけ残るといふ具合で、酒田の街のほとんどを焼き尽くした/被害は焼失した町家2182軒の内、本家2042軒、名子(使用人)の家138軒、寺社門前の家8軒、寺院1か所、消火のために取り壊した家7軒、切り潰した家17軒/そのほかに土蔵124棟を焼失、その多くは米問屋の蔵々で米穀6~7万俵が灰となった
- 1772年5月25日-09:00|日本|大阪府岸和田市|明和9年4月23日|<交替>和泉岸和田藩53000石「岡部長住」隠居⇒弟「岡部長修」が継ぐ(⇒安永5(1776)年8月18日、隠居)
- 1772年5月29日-01:00|スウェーデン| |||<就任>セーデルマンラント 公「カール」(~18090606)アドルフ・フレドリクの息子
- 1772年6月-03:00|ペルー/ロシア| |||<就任>モザリョフ、プスコフ(1776年まで)、ホラツク(1776年から)のロシア総督(モザリョフ)「クリフ・ザ・カール・グ・リコ・リエ・ツ・チ・エル・ヌイヨフ」(~1782年2月)
- 1772年6月 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ暫定総督「ニコラス・デ・カストロ」(2回目)
- 1772年6月 06:00|アメリカ| |||ヴァージニア議会在急進愛国党の連絡機関、「通信委員会」設置
- 1772年6月3日 03:00|日本| ||明和9年5月3日|陸前・陸中で地震(M6.8~7.4)花巻城で所々破損、江戸でも有感、死者12人
- 1772年6月4日-05:00|パキスタン| |||<死去>バハワルブル国ナワブ・アミール「モハラク・ハーン2世」
- 1772年6月4日-05:00|パキスタン| |||<就任>バハワルブル国ナワブ・アミール「モハマト・バハワル・ハーン2世」(~18090813没)
- 1772年6月5日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ドゥッラーニー帝国シャー「スレイマンシャー」(~8月)
- 1772年6月6日-05:30|インド| |||<就任>ジャファラバード 国タタール兼ジャングラ国ワジル「アブド・アル・ラヒム・カーン」(~1784年没)
- 1772年6月9日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ロード・アイランドで密輸船を追跡中のイギリス関船「スピアー」号が座礁した際、住民に焼き討ちされた
- 1772年6月10日 00:00|イギリス| |||ヒール商会倒産の影響でロンドンとスコットランドで大恐慌が起こる
- 1772年6月15日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールト=コースト総督代行「ニールス・アーバン・アストラップ」(~177706245)
- 1772年7月2日-09:00|日本|滋賀県長浜市|明和9年6月2日|<死去>近江宮川藩13000石「堀田正邦」(39歳)⇒7月25日、長男「堀田正穀」が継ぐ(⇒文化12(1815)年2月6日、隠居)
- 1772年7月13日-09:00|日本|岐阜県中津川市|明和9年6月13日|<死去>遠山友央(68歳)前美濃苗木藩主
- 1772年7月20日-09:00|日本|岐阜県中津川市|明和9年6月20日|<死去>伏見宮貞行親王(13歳)皇族
- 1772年7月22日-09:00|日本|東京都荒川区|明和9年6月22日|明和の大火放火犯坊主の武州熊谷無宿の真秀市中引き回しの上、小塚原で火刑に処される
- 1772年7月24日-09:00|日本|東京都|明和9年6月24日|<死去>3代市川團蔵(54歳)歌舞伎役者
- 1772年7月28日-09:00|日本|新潟県長岡市|明和9年6月28日|<死去>牧野忠周(52歳)前越後長岡藩主
- 1772年7月30日-09:00|日本|福井県福井市|明和9年7月1日|足羽郡勝見村から出火し福井城下へ延焼、町家など200軒焼失
- 1772年8月-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ドゥッラーニー帝国シャー「ティムール・シャー」(~17930519没)、対立シャー(カンダハール)「スレイマンシャー」(~同年)
- 1772年8月5日-01:00|スロバキア/ハンガリー| |||ジツフ・スガがポーランド 第一次分割(17730930、ポーランドによって承認)によって正式にハンガリーに併合
- 1772年8月5日-01:00|オーストリア/ハンガリー/ウクライナ| |||ポーランド 分割によってオーストリア=ハンガリー帝国の領土となった
- 1772年8月5日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||ポーランド 分割により西プロイセン、エルブント、ネツェを獲得
- 1772年8月5日-01:00|オーストリア/ドイツ/ポーランド/ロシア| ||ロシア暦7月25日|ペテルブルクで、プロイセン、オーストリア、ロシアが第1次ポーランド 分割条約に調印
- 1772年8月5日-01:00|オーストリア/ポーランド| |||マリア・テレジア、第1次ポーランド 分割で世襲領オーストリアに併合した地域にガリツィア・ロドメリア王国を創設(~1780年)
- 1772年8月11日-09:00|日本|兵庫県姫路市|明和9年7月13日|<死去>播磨姫路藩15万石「酒井忠恭」(63歳)⇒8月27日、長男「酒井忠以」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年7月17日、36歳で死去)
- 1772年8月19日-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンで、国王グスタフ3世がクーデターを起こし、国会から権利を奪って絶対王

1780迄 (1631件)

政をしく

1772年8月21日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントビンセント(グレナダに從属)副総督「ハレタイン・モリス」(~1776年)

1772年8月23日-04:00|モーリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督「テルネー騎士団シャルル・アンリ・ルイ・ダルク」(~17761202)

1772年8月23日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「アグスティン・フェルナンド・デ・ビネト・イ・フェルナンデス・デ・バルデビエソ」(~17780201)

1772年8月27日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ハースト伯「アレクサンダー・ハースト」(~17750916死去)

1772年8月29日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「申晦」(~9. 16)

1772年8月30日-09:00|日本| ||明和9年8月2日|関東から東海地方で大風雨。三河特に甚大。永代橋流出

1772年9月2日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ウィリアム・Spry」

1772年9月2日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Samuel Rous」(2期目~17730608)

1772年9月7日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「オスマン・ハッシャト・パシャ」(~17731011)

1772年9月8日-01:00|スウェーデン| |||<就任>エステルエートランド公「フレドリク・アドルフ」(~18031212死去)

1772年9月10日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ホウイス伯「ヘンリー・アーサー・ハーバート」

1772年9月10日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ホウイス伯「ジョージ・エドワード・ヘンリー・アーサー・ハーバート」(~18010116死去ホウイス伯爵廃絶)

1772年9月17日 00:00|イギリス| |||<死去>3代リッチフィールド伯「ジョージ・ヘンリー・リー卿」

1772年9月17日 00:00|イギリス| |||<就任>4代リッチフィールド伯「ロバート・リー卿」(~17761104死去)

1772年9月17日-09:00|日本|香川県|明和9年8月20日|(~21日)大雨洪水により、高松藩領では崩壊家屋1万9000余戸、破船大小142艘、死者46人、斃死牛馬74頭の被害が出る。丸亀藩領でも、家屋の倒壊、池々の決壊などの被害をうける

1772年9月18日-09:00|日本| ||明和9年8月下旬|瀬戸内から近畿にかけて大風雨。祇園悪王子社倒壊

1772年9月19日-09:00|日本|東京都千代田区|明和9年8月22日|<就任>関白「近衛内前」(~安永7年2月8日)

1772年9月27日-09:00|日本|東京都中央区|明和9年9月|中村座、再開場、榎席開設

1772年9月28日-01:00|ノルウェー| |||<就任>ノルウェー総督「ハインリヒ・ヴァイルヘルム・フース」(~10. 15)

1772年9月28日-09:00|日本|福井県坂井市|明和9年9月2日|<死去>越前丸岡藩5万石「有馬允純」(26歳)⇒11月22日、長男「有馬誉純」が継ぐ(⇒文政13(1830)年4月23日、隠居)

1772年9月29日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金相福」(~10. 30)

1772年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「バルダッサーレ・ジャンギ」 「フランチェスコ・デ・イ・リガ・イ・ガザーリ」

1772年10月3日-09:00|日本| ||明和9年9月7日|幕府が新たに南錬鋸二朱銀を発行

1772年10月4日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリツァ総督「Johann Anton Graf von Pergen」(~17740124)

1772年10月13日 00:00|イギリス| |||<死去>3代アルベマール伯「ジョージ・ケッペル」

1772年10月13日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島知事「George Keppel」

1772年10月13日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アルベマール伯「ウィリアム・チャールズ・ケッペル」先代の息子(~18491030死去)

1772年10月15日-01:00|ノルウェー| |||<就任>ノルウェー総督「ヘッセン方伯カール」(~18140204)

1772年10月23日-09:00|日本|京都府京都市東山区|明和9年9月27日|京都三十三間堂通矢の「半堂大矢数」、太田松之助(13歳)が総矢数13, 046中、通矢11, 700を記録

1772年10月24日-05:30|インド| |||<死去>カラリ国マハラジャ「トゥルサム・ハル」

1772年10月24日-05:30|インド| |||<即位>カラリ国マハラジャ「マニク・ハル」(~1804年)

1772年10月30日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「韓翼朴」(~11. 16)

1772年11月2日 06:00|アメリカ| |||ボストンの独立派のサミュエル・アダムスが、植民地側の団結のため、通信委員会を結成

1772年11月4日-09:00|日本|茨城県行方市|明和9年10月10日|<死去>常陸麻生藩1万石「新庄直侯」(46歳)⇒甥「新庄直規」が継ぐ(⇒享和3(1803)年10月20日、隠居)

1772年11月5日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス(総督)「Hafiz Mustafa Pasha Bustanji」(~1773. 8)

1772年11月6日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島知事「Henry Seymour Conway」(~17950729死去)

1772年11月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金相福」(~12. 16)

1772年11月18日-05:30|インド| |||<死去>マラーター王国宰相「マダウ・ラーオ1世」

1772年11月21日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・デ・ランカスター」(~17791205)

1772年11月25日-09:00|日本|東京都台東区|明和9年11月1日|江戸寛永寺焼失

1772年11月28日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|明和9年11月4日|幕府が、亀田藩が1753年以来雄物川を通る船に課してきた税を禁止

1772年11月28日-09:00|日本|東京都墨田区|安永1年11月4日|<大相撲>安永1年11月場所[江戸本所回向院](~8日間)優勝(西小结)達ヶ関、6勝0敗2休

1772年11月30日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ハーコート伯爵サイモン・ハーコート」(~17770125没)

1772年12月-05:30|インド| |||<就任>ガルワール国ラジャ「ラット・シャー」(~1780年8月没)

1772年12月10日-09:00|日本| ||安永1年11月16日|「安永」に改元

1772年12月11日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ総督代行「ジョン・ダリング」(1回目~17740105)

1772年12月13日-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Narayan-Rao」(~17730830死去)

1772年12月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「申晦」(~17730218)

1780迄 (1631件)

1773年-08:00|マレーシア| |||<就任>スガリ・スンビラン統治者(ヤン・デ・イ・ペルトアン・ベ・サル)「スルタン・マフムド・イブ・ニ・スルタン・アフドゥル・ジャリル」建国(〜1795年没)

1773年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマド・Israil」(〜1778年死去)

1773年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボン・クスパン君主「Sultan Sepuh V Sapiuddin」(〜1786年)

1773年-08:00|インドネシア| |||<即位>パテン王国スルタン「アフ・ール・Mofakhir・ムハンマド・アリウッディーン1世」(〜1799年)

1773年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「クガ・リンチェン」(〜1776年)

1773年-05:45|ネパール| |||ネパール国王プリトビ・ナラン・シャーセナが地方のチョウダンディ王国を、続いてビジヤワール王国を併合、シッキムの一部まで征服

1773年-05:30|インド| |||<就任>アンバリア王国統治者(タクル・サーヒブ)「ハルジ」(〜1796年)

1773年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「レイニエ・ファン・ヴリッセンゲン」(〜1780年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>キューラ国ラジャ「フ・ラカシュ・チャンド」(〜1790年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>シルムル国ラジャ「シ・ヤタット・フ・ラカシュ」(〜1789年没)

1773年-05:30|インド| |||<就任>シロヒ国統治者(ラオ)「タクハット・シン」(〜1781年没)、摂政「ジ・ヤガット・シン」(〜1781年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>シユバル国統治者(ラ)「ハ・ラス・チャンド」(〜1802年没)

1773年-05:30|インド| |||<就任>ナルグント国統治者(ラオ)「ウ・エンカタラオ」(1回目〜1785年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>ハロダ国統治者(セナ・カス・ケル)「コウ・イント・ラオ・ゲ・クワール」(2回目〜1774年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>ブンディ国統治者(ラ・ラジャ)「ウメイト・シン」(2回目〜1804年)

1773年-05:30|インド| |||<就任>ベジヤ国統治者(ターケル)「マン・チャンド」(〜1817年没)

1773年-05:30|インド| |||<就任>ラトム国ラジャ「ハ・ダム・シン」(〜1800年没)

1773年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第46代ハン「ヤデ・イガル2世」(1期目〜1775年)カラカルパク王族出身

1773年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カーブル首相(ワジール・イ・アザム)「サルタール・ラヒム・ダット・カーン・スルタン・ムハンマド・ハ・ラクザイ(王室事務局長)」(〜1774年)

1773年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチヴァン汗国ハン「ウ・エリ・クーリー・ハン」(〜1781年)

1773年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>イリス・スルタン「ムハンマド・ベク3世」

1773年-03:30|イラン| |||<死去>サファヴィー朝シャー「イスマーイール3世」

1773年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「カラ・ハリル・パシャ」(〜1774年)

1773年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>クリミア・ロシア司令官「Knyaz' Vasilii Mikhaylovich Dolgorukov」(2期目〜1774.9)

1773年-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・スーム総督「ギ・デオン・サロモン・デ・ンツ」(〜17840816没)

1773年-01:00|カメルーン| |||<即位>マンダラ・スルタン国スルタン「フ・カ・ア・ジャマ」(〜1828年)

1773年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ| |||アンティグア、フエゴ火山の爆発により壊滅。ラ・エルミタ溪谷に首都再建

1773年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督「ニコラス・キノ」(〜1774年5月没)

1773年 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||カメルーンによる大規模な反乱起こる。イギリスはカラグア大西洋岸のモスク族を動員してこれを弾圧

1773年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベネチア植民地総督「ジョン・ペン」(〜1776年)

1773年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「ラファエル・ベ・ナビ・デ・ス」⇒「フランシスコ・アントニオ・デ・アルタナ・イ・ゲハラ」(〜1774年)

1773年 10:00|ハワイ| |||<即位>オアフ島国王「Kaneoneo」(〜1783年)

1773年-05:30|インド| |||アルコットのナワブが宗主権を行使し、タンジールを占領(〜1776年)

1773年1月7日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「フェルディナント・スピノラ」(〜1.9)

1773年1月17日 00:00|南極/イギリス| |||クックが南緯71度まで南下し、ヨーロッパ人として初めて南極圏に到達

1773年1月18日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|安永1年12月26日|<初演>人形浄瑠璃「艶容女舞衣」<酒屋>(竹本三郎兵衛・豊竹応律の合作)豊竹座

1773年1月20日-05:30|インド/イギリス| |||<昇格>イギリス東インド会社ベンガル知事「ウォレン・ヘスティングス」⇒ベンガル総督(〜17850201)

1773年1月20日-09:00|日本| ||安永1年12月28日|<死去>熊代熊斐(61歳)画家

1773年1月23日 00:00|イギリス/中国| ||清・乾隆38年|イギリス東インド会社がアヘン貿易に参入し、中国へ輸出開始

1773年1月23日 04:00|フォークランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォークランド諸島暫定総督「Domingo Chauria」(〜17740105)

1773年1月23日-09:00|日本| ||安永2年1月|<刊行>建部綾足「本朝水滸伝」前編

1773年1月24日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「マヌエル・ピント・ダ・フォンセカ」

1773年1月26日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ピエール・フランコ・グマリティ」(〜17750126)

1773年1月26日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ジョアンニ・バプティスタ・ダフリット」(〜28日)

1773年1月28日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ランシスコ・ヒメネス・デ・テハダ」(〜17751109没)

1773年2月 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<死去>モンテビデオ総督「Jose Joaquin de Viana」

1773年2月 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>モンテビデオ総督「Joaquin del Pino Sanchez de Rojas Romero y Negrere」(〜17900802)

1773年2月5日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「スル・フン・マサド」(〜17880121)

1773年2月17日-05:30|インド| |||<就任>コルハーブル国摂政「ド・ウルガバ・イ・マハラジ」(〜17790718没)

1773年2月18日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「韓翼朴」(〜22日)

1773年2月20日-01:00|イタリア| |||<死去>サルデーニャ国王「カルロ・エマヌエーレ3世」[17010427生〜]享年71

1780迄 (1631件)

1773年2月20日-01:00|フランス| |||<即位>サウジアド公「ウァット・リオ・アメー・オ3世」(~17961016死去)
1773年2月20日-01:00|イタリア| |||<即位>サルデーニャ国王・サウジアド公「ウァット・リオ・アメー・オ3世」カルロ・エマヌエーレ3世とポリッセン・タッシャ・ローテンブルグの息子(~17961016死去70歳)
1773年2月21日-08:00|中国| ||清・乾隆38年2月|清が四庫全書館を開く
1773年2月22日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金相福」(~5. 4)
1773年2月28日 04:00|フォークランド/イギリス| |||<就任>イギリス領西フォークランド 海軍担当官「Samuel Wittewrong Clayton 中佐」(~17740520)
1773年3月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Uthman Pasha al Wakil」(~1774. 7)
1773年3月6日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・フル2世」(~17750618)
1773年3月8日-09:00|日本|新潟県糸魚川市|安永2年2月16日|<死去>越後糸魚川藩1万石「松平堅房」(40歳)⇒七男「松平直紹」が継ぐ(⇒文化3(1806)年11月28日、隠居)
1773年3月9日-05:30|インド| |||<就任>ウダイトール国統治者(マハラ)「ハミル・シン2世」(~17780106没)
1773年3月9日-09:00|日本|東京都|安永2年2月17日|<死去>初代並木正三。心臓発作のため(44歳)歌舞伎・狂言作者
1773年3月12日 06:00|アメリカ| |||ウァージニア植民地議会が、独立の実現に向けて通信委員会を結成
1773年3月31日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード 知事「フアン・デ・デ・イオス・ヴァルデス・イ・ヤルザ」(~17761130)
1773年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コスタンティーノ・ホネリ」「ジョヴァンニ・アントニオ・マルベリ」
1773年4月5日-05:30|インド| |||コホ・ビハル国はイギリスの保護領
1773年4月11日-09:00|日本|東京都江東区|安永2年3月20日|<大相撲>安永2年3月場所[江戸深川八幡宮](~8日間)優勝(東関脇)釋迦ヶ嶽, 6勝0敗1分1休
1773年4月14日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Edouard Hilaire Louis de Tilly」(~17751229)
1773年4月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アラン伯「アーサー・ゴア」
1773年4月17日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アラン伯「アーサー・サンダー・ス・ゴア」(~18091008死去)
1773年4月21日-09:00|日本|東京都|安永2年3月末|<疫病(感染症)の大流行>江戸中にて5月迄、凡そ19万人疫死(疫病がなんの病気なのか不明)、6月に入り、西国にも大流行
1773年4月22日 05:00|コロネア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 副王「ギリョール侯爵マヌエル・デ・ギリョール・イ・ホータル・デ・ウアルト・イ・エドゥアイン」(~17760210)
1773年4月29日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<死去>セント・マス島・セントジョン島総督「Jens Nielsen Kragh」
1773年4月30日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督代理「Georg Host」(~12. 30)
1773年5月 00:00|イギリス/インド| |||イギリスが東インド会社規制法を制定し、インド総督府を設置
1773年5月4日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「韓翼朴」(~6. 4)
1773年5月4日-09:00|日本|東京都|安永2年閏3月13日|<死去>2代瀬川菊之丞(33歳)歌舞伎役者
1773年5月10日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリス、東インド会社の植民地での茶の独占販売権を認める茶法(茶条例)を発効
1773年5月11日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|安永2年閏3月20日|<死去>伊勢南林崎藩1万石「有馬氏房」(17歳)⇒5月14日、養子「有馬氏恕」が継ぐ(⇒天明元(1781)年11月28日、上総五井藩1万石に陣屋移転)
1773年5月20日-01:00|フランス| |||フランス「ルイ15世広場」(現在8区の「コンコルド広場」)に「ルイ15世の騎馬像」が完成
1773年5月21日-05:30|インド| |||<就任>ナガール国摂政「ムン・シ1世」(~17880519没)
1773年5月21日-09:00|日本| ||安永2年4月|<完成>三浦梅園「価原」(商品経済における価格について説明した経済世論)
1773年5月21日-09:00|日本|岐阜県|安永2年4月1日|飛騨の幕府領3郡の農民が、新検地令に反対して一揆を起こす(大原騒動・安永騒動)
1773年5月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永2年4月6日|<初演>人形浄瑠璃「伊達娘戀緋鹿子」(作・管専助)堀江座「八百屋お七」の原型
1773年6月1日-01:00|デンマーク/ロシア| |||ロシア暦5月21日|ロシアとデンマーク間に「永世同盟」が締結される
1773年6月3日 06:00|グアテマラ| |||グアテマラ・サンチャゴ 地震、死者2万
1773年6月4日-09:00|日本|京都府京都市東山区|安永2年4月15日|京都三十三間堂通矢の「半堂千射」で、片見佐源次(7歳)が847総矢数1,000中)を記録
1773年6月5日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金相福」(~17740809)
1773年6月8日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Edward ヘイ」(~17791024死去)
1773年6月12日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「マルティン・デ・マヨガ・イ・フェレル」(~17790404)
1773年6月14日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「ジョン・フェルナンデス・デ・ホバティージャ・イ・グラーティ」(1回目~1778年)
1773年6月17日-08:00|マレーシア| |||<死去>ペラ・スルタン「マフムド2世シャー・イブン・アル=マフム・スルタン・ムハンマド・シャー・アミヌッラー」
1773年6月17日-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン「アラジン・マンスール・シャー・イスカンダル・ムダ・ハリファット・ウラフマン・スロン・イブン・アルマフム・スルタン・ムハンマド・シャー・アミナラ」(~1792年9月没)
1773年6月18日 00:00|イギリス| |||<死去>11代ロズ伯「ジョン・レスリー」
1773年6月18日 00:00|イギリス| |||<就任>12代ロズ女伯「ジェーン・エリザベス・レスリー」先代の妹(~18100602死去)

1780迄 (1631件)

1773年6月28日-09:00|日本|静岡県沼津市|安永2年5月9日|<死去>駿河松永13000石「大久保教倫」(23歳)⇒養子「大久保教翹」が継ぐ(⇒天明3(1783)年10月6日、相模荻野山中藩13000石に陣屋移転)

1773年7月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>オランダ伯「ハール」(~12.14)ロシア皇帝「パヴェル1世」

1773年7月1日-01:00|ドイツ| |||<退位>ルシタイン公「ハール・ヴェル・ペトロヴィチ」(ロシア皇帝「パヴェル1世」)デンマーク王領「オランダ」伯領の割譲と引き替えに、ルシタインにおける共同統治者の地位を放棄

1773年7月1日-01:00|ドイツ| |||<退任>オランダ伯「クリスチャン10世」

1773年7月4日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|安永2年5月15日|津和野藩主7代亀井矩貞公が津和野藩の安穩鎮護と領民の安寧を祈願するために三本松城(津和野城)の表鬼門にあたる東北端の太鼓谷の峰に津和野太鼓谷稲成神社を京都の伏見稲荷大社から勧請/島根県

1773年7月6日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯・ブルック伯「フランス・グレイ」

1773年7月6日 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯・ブルック伯「ジョージ・グレイ」先代の息子(~18160502死去)

1773年7月12日-09:00|日本|静岡県藤枝市|安永2年5月23日|<交替>駿河田中藩4万石「本多正珍」隠居⇒次男「本多正供」が継ぐ(⇒安永6(1777)年6月10日、死去)

1773年7月18日 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ総督代行「ウィリアム・スチュート」(1回目~1774年)

1773年7月20日-09:00|日本| ||安永2年6月|<刊行>木内石亭「雲根志」前編

1773年7月20日-09:00|日本|鹿児島大学|安永2年6月|薩摩藩校造士館設立

1773年7月20日-08:00|中国| ||清・乾隆38年6月|清の温福が木果木で僧格桑の軍に襲撃され敗死

1773年7月21日-01:00|ハンガリー| ||ハンガリーでイスラム教が禁止

1773年7月24日 05:00|日本|福島県会津若松市|安永2年6月5日|<会津若松安永2年の大火>八つ時(14時ごろ)、愛宕町にある酒屋長左衛門の借家で、堅三日町の治右衛門の家から出火、新町が215軒、甲賀町と博労町が78軒、大町が338軒、後町にいたっては739軒も焼け、馬場町246軒、西黒川も28軒焼けた/その外、宿屋敷町講所(町人向けの教育所)の奉公人の家4軒、寺が20か所、高礼場、火の見櫓、土蔵など26か所、辻番所22か所が全焼、半焼の家が2軒と防火のため打ち壊した家が24軒/合計住家と寺1670軒が全半焼/夜九つ時(午前0時ごろ)鎮火

1773年7月29日-09:00|日本|大分県大分市|安永2年6月10日|<死去>松平近形(51歳)前豊後府内藩主

1773年7月31日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島知事「Charles Gabriel Sebastien」(1期目~17780915)

1773年7月31日 04:00|米領「アーゴン」諸島/デンマーク| |||<就任>セントクリスチアン総督「Henrik Ludvig Ernst von Schimmelmann」(1期目~10.25)

1773年8月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Ahmad Agha」(~10月)

1773年8月6日-09:00|日本|富山県富山市|安永2年6月18日|富山藩校広徳館開講

1773年8月18日-09:00|日本| ||安永2年7月|<刊行>朋誠堂喜三二(絵:恋川春町)、洒落本「当世風俗通」

1773年8月23日-05:30|インド| |||<即位>アワド王「アサフ・ウダウラ」(~17970921)

1773年8月23日-09:00|日本|福島県田村郡三春町|安永2年7月6日|<死去>秋田延季(53歳)前陸奥三春藩主

1773年8月26日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|安永2年7月9日|<死去>鳥取西館新田藩2万石「池田定得」(20歳)病死⇒養子「池田定常」が継ぐ(⇒享和2(1802)年11月、隠居)

1773年8月30日-05:30|インド| |||<死去>マラーター王国宰相「Narayan-Rao」

1773年9月-02:00|ウクライナ/ポーランド/オーストリア| |||ガリシアは、オーストリアとポーランドの条約によって正式にオーストリアに割譲

1773年9月7日-05:30|インド/イギリス| |||アワドとイギリスの間に「アーラン」条約(「ベナレス条約」)締結/アワド領にイギリス東インド会社の軍隊が駐留することとなり、その費用月額21万ルーピーはすべてアワド側の負担とされた

1773年9月8日-09:00|日本|三重県鳥羽市|安永2年7月22日|<交替>志摩鳥羽藩3万石「稲垣昭央」隠居⇒長男「稲垣長以」が継ぐ(⇒寛政6(1794)年11月11日、隠居)

1773年9月12日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|安永2年7月26日|<死去>肥前蓮池藩52625石「鍋島直寛」水腫のため(28歳)⇒翌年8月7日、長男「鍋島直温」が継ぐ(⇒文化13(1816)年4月4日、隠居)

1773年9月13日 00:00|イギリス| |||<退任>オマール公「ルイ・シャルル」公爵位売却

1773年9月17日-05:30|インド| |||ムハンマド・アリー・ハーンはタンジャーゴール・マラーター王国を併合、ウラジヤージュ-2世と家族は投獄された(タンジャーゴール包囲戦)

1773年9月17日-04:00|ロシア| ||ロシア暦9月6日|ヤイツキー・ゴロドク近郊の村でドン・コサック出身のエリヤン・プガチョフ(33)が率いる民衆が反乱を起こす

1773年9月18日-03:00|ベラルーシ/ポーランド/リトアニア| |||ポーランド・リトアニアからによって東ベラルーシが併合される

1773年9月24日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ギョウエイ伯「アレクサンダー・ステュアート」

1773年9月24日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ギョウエイ伯「ジョン・ステュアート」(~18061103死去)

1773年9月29日-09:00|日本|青森県八戸市|安永2年8月13日|<死去>南部信興(49歳)前陸奥八戸藩主

1773年10月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Muhammad Pasha al-Azm」(2期目~17830416)

1773年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マネンティ」「ポンペイ・ゾリ」

1773年10月2日-13:00|トンガ/イギリス| |||英国のジェームズ・クックがトンガを再発見し、フレンドリー諸島と命名

1773年10月2日-09:00|日本|福島県福島市|安永2年8月16日|<死去>陸奥福島藩3万石「板倉勝行」(22歳)⇒養子「板倉勝矩」が継ぐ(⇒安永4年12月26日(17760117)、死去)

1773年10月11日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ダゲスタニ・アリ・パシャ」(1回目~17750125)

1773年10月13日-01:00|フランス| |||フランスの天文学者ジャック・メシエが「子持ち銀河」発見

1773年10月20日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領ベンガル総督(イギリス東インド会社)「ウォレン・ヘイステインクス」(~17850201)

1773年10月27日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|安永2年9月12日|<死去>山城淀藩102000石「稲葉正弘」(27歳)

1780迄(1631件)

⇒養子「稲葉正謚」が継ぐ(⇒文化3(1806)年8月24日、58歳で死去)

1773年10月28日 04:00|米領グァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロ7総督「Peter Clausen」(3期目~17840624死去)

1773年11月 04:00|セントシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントシア副総督「アレクサンダー・ボティエド・ケルシー」(~1776年)

1773年11月9日-09:00|日本|京都府京都市|安永2年9月25日|<死去>吉益東洞(72歳)漢方医/「万病一毒説」を唱えた

1773年11月16日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|安永2年10月3日|<交替>大和国郡山藩15万1200石「柳沢信鴻」隠居⇒長男「柳沢保光」が継ぐ(⇒文化8(1811)年、隠居)

1773年11月19日 00:00|イギリス| |||<死去>初代リンスター公・初代キルデア侯・初代オファリー伯「ジェームズ・フィッツジェラルド」

1773年11月19日 00:00|イギリス| |||<就任>2代リンスター公・2代キルデア侯・2代オファリー伯「ウィリアム・フィッツジェラルド」(~18041020死去)

1773年11月28日-09:00|日本|福島県いわき市|安永2年10月15日|<死去>本多忠如(63歳)前陸奥泉藩主

1773年11月30日 04:00|英領グァージン諸島/イギリス| |||英領バージン諸島(トルマ島、アホダ島、バージンゴルト島、ヨストヴァンタウ島、ピーター、ノマン島、グア島、ジンジャー島、ソルト島)

1773年12月 00:00|南極/イギリス| |||英国のジェームス・クック船長は陸地を見ることなく大陸を一周(~1775年1月)

1773年12月5日-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Raghunath-Rao」(~1774年)

1773年12月6日-09:00|日本| ||安永2年10月23日|幕府が各地神事での素人相僕の木戸銭徴収横行をとがめ、職業相撲以外の木戸銭を禁じる

1773年12月12日-09:00|日本|東京都墨田区|安永2年10月29日|<大相撲>安永2年10月場所[江戸本所一ツ目八幡宮](~8日間)優勝(東小結)雲井川、3勝0敗1無勝負4休

1773年12月12日-09:00|日本|山口県周南市|安永2年10月29日|<死去>毛利広豊(65歳)前周防徳山藩主

1773年12月14日-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「フリートリヒ・アウグスト」スウェーデン王「アドルフ・フレドリク」の弟(⇒1774年オルデンブルク公「フリートリヒ・アウグスト1世」~17850706死去)

1773年12月14日-08:00|中国| ||清・乾隆38年11月|清の阿桂が小金川の反乱を鎮定

1773年12月15日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Jean Guillaume de Steinauer」(~17761015)

1773年12月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ボストン茶会事件/ボストン港に停泊していたイギリス船で開かれた茶会で、インディアンに変装した植民地人が東インド会社の茶箱342箱を海中に投げ捨てる

1773年12月17日-05:00|モルティイグ| |||<就任>モルティイグ 摂政「ジャムス・アドディン・ムハマト・イスカンダル」(~22日)

1773年12月22日-05:00|モルティイグ| |||<即位>モルティイグ・スルタン「ジャムス・アッディン2世・ムハマト・アレクサンダー」(~1774年5月)

1773年12月25日 10:00|日本|愛知県名古屋市中区|安永2年11月12日|<名古屋安永2年「玄海非人小屋の大火」>六ツ半頃(19時ごろ)玄海乞食小屋と出火、1000軒ほどの集落がわずか4軒を残しただけで、そのほかは残らず焼失、五つ半過(21時過ぎごろ)鎮火

1773年12月30日 04:00|米領グァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Thomas de Malleville」(~17960907)

1774年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Harun Shah」(~1781年)

1774年-07:00|タイ| |||<就任>マンラーイ朝ランナー知事「プラー・チャーバーン(プンマー)」(~1781年)

1774年-06:30|ミャンマー| |||ビルマでモン族の反乱がおこる

1774年-05:30|インド| |||<就任>ウアラ国統治者(タル・サヒブ)「ナトゥハ・イ・ウイザ」(~1798年没)

1774年-05:30|インド| |||<就任>カンクウ国ラジャ「テグ・チャントラ」(~1775年没)

1774年-05:30|インド| |||<就任>コッホ・ヒール国ラジャ「ダレントラ・ナヤン」(2回目~1775年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>コタグ国ラジャ「リンガラジャ1世」(~1780年没)

1774年-05:30|インド| |||<就任>サント国統治者(ラ)「シフシジ・バダナンシ」(~1803年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>タルチャー国ラジャ「ニマイ・チャラン・チャンパティ・ヒラール・ハリヤンダン」(~1778年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>ダランプール国ラジャ「ナランデヴァ1世・グマン・シン」(~1777年没)、摂政「マハニ・バイン・クシヤル・クンヴァーバ」(1回目~1777年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>チャンデーリ国ラジャ「ハティ・シン」(~1778年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>ニルギーリ国ラジャ「サルバスワール・マルトラージ・ハリヤンダン」(~1778年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>バスター国ラジャ「タリヤ・デオ」(1回目)⇒「アジュマール・シン・デオ」(~1777年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>パロダ国統治者(セ・カス・ケル)「サジ・ラ・イ・ゲークワル」(2回目~1792年)、摂政「ファティ・シン1世・ラ・ゲークワル」(2回目~1779年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>ファルタン国統治者(ナイク)「マロジ・ラ・ニハールカル3世」(~1777年)

1774年-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Madhav-Rao2世」(~17951027死去)

1774年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カーブル首相(ワジール・イ・アザム)「ペインター・カーン・モハマト・ザイ・サルワス・ハーン」(~1793年)

1774年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャマク汗国ハーン「アガジ・ハーン」(~1786年)

1774年-04:00|アゼルバイジャン| |||ナフバンはダゲスタンのカジ・ムクに占領され、カーンはザリヤンに移住(~1776年)

1774年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブシ統治者(オムカマ)「ムメスラ」(~1791年頃)

1774年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Ibrahim Pashazade Mehmed Pasha」(~1775年)

1774年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ハチ・イブラヒム・パシャ」(~1775年)

1774年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||スペツはオスマン帝国の一部

1774年-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「フランス王ルイ16世」(~1792年)

1774年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「ムスタファ・パシャ・ブシャティ」(~1778年死去)

1774年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「オスマン・パシャ」(~1775年)

1780迄 (1631件)

1774年-01:00|ドイツ| |||<即位>オランダ王「フリードリヒ・アウグスト」⇒オランダ王「フリードリヒ・アウグスト1世」(~17850706死去)

1774年-01:00|アルバニア| |||<即位>オスマン帝国「Ahmet Kurt Pasha」(~1787年死去)

1774年-01:00|スペイン| |||カンボ・マヌが「民衆的工業振興論」を刊

1774年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官代行「アントニオ・ウァズ・デ・アラウ」(~1780年)

1774年 03:00|ブラジル| |||ブラジルでコーヒー栽培が始まる

1774年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領東フロリダ植民地総督「パトリック・トニン」(~1784年)

1774年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「メルチョル・デ・メナス」(~1777年)

1774年 06:00|アメリカ| |||ホイント・プレーザントの戦いで植民者がショニー族を撃破

1774年1月5日 04:00|フォークランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォークランド諸島総督「Francisco Gil Lemos」(~17770201)

1774年1月5日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サンティアゴ総督「バジル・キース卿」(~17770615没)

1774年1月5日-09:00|日本|島根県安来市|安永2年11月23日|<交替>出雲広瀬藩3万石「松平近貞」隠居⇒養子「松平直義」が継ぐ(⇒享和3(1803)年10月22日、死去)

1774年1月8日-09:00|日本|長野県飯山市|安永2年11月26日|<安永飯山騒動>信濃・飯山藩領の農民が、不作と御用金過重賦課に反対して強訴

1774年1月13日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「フィリッポ・デ・パラダレス・ソトマイオル」(~17740924)

1774年1月17日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウー国王「サンダ・トゥマ」(~17770505)

1774年1月21日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国第26代スルタン「ムスタファ3世」

1774年1月21日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第27代スルタン「アブデュルハミト1世」先代の弟、23代アハメト3世の子(~17890407死去)

1774年1月24日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリツ総督「Andreas Graf von Hadik」(~5月)

1774年1月24日 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督「ウィリアム・マリス」(~1774年8月)

1774年2月1日-05:30|インド| |||<即位>アワド王「アサフ・ウダウラ」(~17970921)

1774年2月5日-09:00|日本|香川県高松市|安永2年12月25日|高松天神前より失火、旅籠町・中ノ村・中新町・上ノ村・東浜村・田町・東横町に延焼し、人家641軒、寺1か寺、倉庫13か所焼失

1774年2月11日-09:00|日本| ||安永3年|<完成>俳人松露庵烏明「婦多つ乃文」

1774年2月28日-09:00|日本| ||安永3年1月18日|<死去>観世元章(53歳)猿楽師

1774年3月16日-09:00|日本|長野県飯山市|安永3年2月5日|<死去>信濃飯山藩35000石「本多助盈」(57歳)⇒3月29日、嫡孫「本多助受」が継ぐ(⇒文化3(1806)年7月23日、隠居)

1774年3月17日 04:00|チリ/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉が訪れイースター島と名付けた

1774年3月26日-05:30|インド/イギリス| |||イギリスがカルカッタに最高法院を設置

1774年3月31日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリス議会がボストン港法を可決、茶会事件の損害弁償まで港を閉鎖

1774年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ガエターノ・ベルツィ」「アントニオ・カビッジオニ」

1774年4月19日-01:00|オーストリア| |||<初演>クリストフ・ウィリアム・グリュック《歌劇「オーリッド」のイフィジェーニ》

1774年4月23日-05:30|インド| |||ラプーン国は破壊され、国の大部分はアワドに併合された

1774年4月25日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェストモラント伯「ジョン・フェイン」

1774年4月25日 00:00|イギリス| |||<就任>ウェストモラント伯「ジョン・フェイン」先代の子(~18411215死去)

1774年4月25日-09:00|日本| ||安永3年3月15日|京要法寺本堂落成

1774年4月28日-09:00|日本| ||安永3年3月18日|<死去>建部綾足(56歳)俳人、小説家、国学者、画家

1774年4月29日-09:00|日本| ||安永3年3月19日|<死去>桃井直由(51歳)剣術家、鏡新明智流の祖

1774年5月-05:00|モルデイフ| |||<即位>モルデイフ・スルタン「ムイッス・アッデイン・ムハンマド・イスカンダル」(~17790913没)

1774年5月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリツ総督「Heinrich Joseph Graf von Auersperg」(~1780.6)

1774年5月 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ暫定総督「フランシスコ・バラス」⇒総督「ペドロ・カルボネル・ピント・ビーゴ・イ・コレラ」(~1779年11月)

1774年5月2日-09:00|日本|新潟県胎内市|安永3年3月22日|<死去>越後黒川藩1万石「柳沢保卓」(48歳)⇒長男「柳沢信有」が継ぐ(⇒寛政9(1797)年3月23日、死去)

1774年5月10日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王「ルイ15世」天然痘が原因で/64歳(誕生17100215)

1774年5月10日-01:00|フランス| |||<即位>フランス国王(ブルボン朝)「ルイ16世末王」ルイ15世の孫(~17920810)

1774年5月11日-09:00|日本|東京都中央区|安永3年4月|<初演>「鎌髪」四代目市川團十郎、中村座

1774年5月17日-01:00|ベナン| |||<死去>ダホメ王国国王「テゲ・ベス・アグアイ」

1774年5月17日-01:00|ベナン| |||<即位>ダホメ王国国王「ケングラ・グアンサ」(~17890417没)

1774年5月17日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「トマス・ゲイジ」(~17751011)

1774年5月17日-09:00|日本|東京都中央区|安永3年4月7日|<初演>「其面影二人枕久」<二人枕久>市村座

1774年5月18日 00:00|イギリス| |||<死去>3代リーヴランド公・2代ササントン公「ウィリアム・フィッツロイ」

1774年5月20日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリス議会がマサチューセッツ統治法、裁判官法を制定

1774年5月20日 04:00|フォークランド/スペイン/イギリス| |||英国、島の防衛が財政的に困難となり、いったん島を放棄、ポート・エグモントへの英国人帰還が認められる。ただしスペイン領であることを承認させられる。東フォークランドには引き続きスペイン人が居留

1774年5月23日-09:00|日本|東京都江東区|安永3年4月13日|<大相撲>安永3年4月場所[江戸深川八幡宮](~8日間)優勝(西前1)達ヶ関、6勝0敗2休

1780迄 (1631件)

1774年5月26日-09:00|日本|京都府京都市東山区|安永3年4月16日|京都三十三間堂通矢の「半堂大矢数」、野呂定吉が通矢11,715本(総矢数11,965本)を記録
1774年5月29日-05:30|インド| |||<就任>シャープラ国統治者(タークル)「ヒム・シン」(~17960519没)
1774年6月2日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリス議会がマサチューセッツ軍隊宿営条例を制定
1774年6月15日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島暫定知事「Antonio Apodaca」(~17760606)
1774年6月16日 10:00|クック諸島/イギリス| |||イギリスの司令官ジェームズ・クックがアバラウをパーマストン島と名付けた
1774年6月21日 11:00|ニュエ/イギリス| |||HMSレリュションでイギリスの司令官ジェームズ・クックがニュエを訪れ、サバーシアラントと名付けた
1774年6月22日 00:00|イギリス/カナダ/アメリカ| |||イギリス議会で、アメリカ植民地への弾圧立法のヘック法が成立
1774年7月3日-12:00|フィジー/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉によってヴァトア島再発見
1774年7月7日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|安永3年5月29日|<交替>播磨三日月藩15000石「森俊春」隠居⇒長男「森俊韶」が継ぐ(⇒寛政5(1793)年11月10日、隠居)
1774年7月16日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|安永3年6月8日|<移封>肥前島原藩77000石「戸田忠寛」⇒下野宇都宮藩77000石(⇒天明2(1782)年9月、河内・播磨国内77000石に移封)
1774年7月16日-09:00|日本|長崎県島原市|安永3年6月8日|<交替>下野宇都宮藩65900石「松平忠恕」⇒肥前島原藩65000石(⇒寛政4(1792)年4月27日、死去)
1774年7月17日-11:00|バヌアツ/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉が訪れ、ニューブリディーズと名付けられた
1774年7月21日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||ナクソス・キクラデス諸島のオスマン帝国の支配が回復(ロシアは17750603に撤退)
1774年7月21日-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシア暦7月10日|アゾフはキエフ・カイラ条約によりオスマン帝国からロシアに割譲された
1774年7月21日-02:00|ブルガリア/ロシア/トルコ| |||ロシア暦7月10日|キエフ・カイラ条約が結ばれ、第1次ロシア・トルコ戦争が終結
1774年7月31日-09:00|日本| |||安永3年6月23日|<安永3年近畿地方暴風雨、高潮>備後より播州、摂州、近江まで大風と高潮/大坂道頓堀筋、水八尺(2.4m)上がり、死人1600人ほど、船四百艘ほど破船/兵庫では海岸の防潮堤を乗り越え大船が乗り込み、京都は大風にて、京中の瓦を吹き落とす/大風雨にて桂川出水、堤崩れる。淀城川水あふれ、石垣をはじめ民家まで破壊
1774年8月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「サミュエル・フレクナー・フライヘル・フォン・ブルケンタル」(17771112まで政府大統領~17870109)
1774年8月 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督「マティアス・マクナマ」(~1775年11月)
1774年8月1日 00:00|イギリス| |||イギリス:化学者プリーストリーが酸素の単離に成功
1774年8月4日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「イェット・メフメト・ハッシャ」(1期目~17750706)
1774年8月9日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「韓翼奉」(~16日)
1774年8月15日-05:30|インド| |||<就任>デウス国ジャ「サダシフ・ラオ1世」(~17901202没)
1774年8月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「申晦」(~17750727)
1774年8月24日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣「Jacques Turgot」(~17760512)
1774年8月31日-02:00|ウクライナ/オーストリア| |||ブコヴィナはオーストリアに占領される
1774年9月-01:00|ドイツ| |||ゲーテが「若きウェルテルの悩み」を刊
1774年9月4日-11:00|ニューカレドニア/イギリス| |||ニューカレドニアがイギリスのジェームズ・クック大尉によって発見され、名前が付けられた
1774年9月4日-09:00|日本| |||安永3年7月29日|<死去>冷泉為村(63歳)権大納言、歌人
1774年9月5日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「Peyton Randolph」(1期目~10.22)無所属
1774年9月5日 06:00|アメリカ| |||フィラデルフィアで、第1回大陸会議が開催される(~10.26)
1774年9月5日 11:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安永3年7月30日|<鹿児島安永3年の大火「南林寺門前火事」>(~8月1日)夜、下町の南林寺門前の家屋から出火、翌日までに、菩薩下小路から船津寺までの下町の半分に延焼、被災、大屋敷1か所、寺門前、町家554軒
1774年9月6日-09:00|日本| |||安永3年8月|<刊行>杉田玄白・前野良沢・中川淳庵・石川玄常・桂川甫周、訳「解体新書」
1774年9月6日-09:00|日本| |||安永3年8月|<刊行>本木良永「転地二球用法」
1774年9月6日-08:00|中国| |||清・乾隆39年8月|清の山東で王倫の清水教の反乱がおこる
1774年9月16日-09:00|日本|東京都|安永3年8月11日|<死去>鶴賀新内(62歳、正徳3(1713)年生)/新内節で一世を風靡した
1774年9月19日-09:00|日本| |||安永3年8月14日|<死去>二条淳子(62歳)有栖川宮職仁親王の妃
1774年9月22日-01:00|バチカン| |||<死去>第249代ローマ教皇「クレメンス14世」[17051031生~]享年68
1774年9月24日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「ホセ・ペドロ・ダ・カマ」(~17790526)
1774年9月24日-09:00|日本| |||安永3年8月19日|<完成>世良田村(尾島町)の毛呂権蔵「上野国志」
1774年9月25日 00:00|イギリス| |||<死去>15代モントン伯「ショルト・チャールズ・ダグラス」
1774年9月25日 00:00|イギリス| |||<就任>16代モントン伯「ジョージ・ダグラス」(~18270717死去)
1774年9月28日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ゲリゴール・アレクサンドル・ギカ」(2回目~17771001)
1774年9月28日-09:00|日本|岡山県新見市|安永3年8月23日|<死去>備中新見藩18000石「関政辰」(18歳)⇒兄「関長誠」が継ぐ(⇒寛政7(1795)年11月24日、隠居)
1774年10月 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「モンフォール・ブラウン」(1回目~17760304/17760304~17760923アメリカの捕虜)
1774年10月1日-09:00|日本| |||幕府が宮中つきの役人など数十人を横領の罪で捕らえ、翌日処罰

1780迄 (1631件)

1774年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ベッルツィ」「フランチェスコ・アントニオ・ガザーリ」
 1774年10月6日-09:00|日本| ||安永3年9月2日|<死去>2代中村七三郎(72歳)歌舞伎役者
 1774年10月6日-09:00|日本|福岡県朝倉市|安永3年9月2日|<死去>筑前秋月藩5万石「黒田長恵」(21歳)⇒「黒田長堅」が継ぐ(⇒天明4(1784)年2月10日、死去)
 1774年10月10日-11:30|ノースフォーク島/イギリス| |||HMSレゾリューションでジェームズ・クックによって再発見され、ノースフォーク公爵夫人のメアリー・ワードにちなんでノースフォーク島と名付けられた
 1774年10月10日 06:00|アメリカ| |||ダンモア卿戦争、ヴァージニア民兵、ネイティブ・アメリカ人を征伐
 1774年10月12日-09:00|日本|東京都千代田区|安永3年9月8日|<死去>徳川治察(22歳)田安德川家2代当主
 1774年10月13日-05:30|インド| |||ランポール国(ジャギル)はヒルコットの一部分から形成され、アワド(アワド)に従属
 1774年10月18日 06:00|アメリカ| |||イギリスとの輸入禁止・輸出禁止策を実施するための大陸連盟結成
 1774年10月22日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「Henry Middleton」(~26日)無所属
 1774年10月30日-08:00|中国| ||清・乾隆39年9月26日|舒赫徳が、清の山東で起こった清水教の反乱を鎮圧
 1774年11月4日-09:00|日本|広島県広島市|安永3年10月1日|広島水主町出火、水主屋敷84軒、町家27軒(94竈)焼失
 1774年11月5日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アッソル公・4代ティリバーデイン侯・7代ティリバーデイン伯・4代ストラステ=ストラステール伯「ジョン・マレー」(⇒17860818兼初代ストレンジ伯~18300929死去)
 1774年11月9日-08:00|フィリピン| |||フィリピンで教区司祭の在俗化を推進する勅令が發布
 1774年11月13日-09:00|日本|東京都江東区|安永3年10月10日|<大相撲>安永3年10月場所[江戸深川八幡宮](~8日間)優勝(西前3)稲川、6勝0敗1預1休
 1774年11月15日 04:00|トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミニカ総督「トマス・シャーリー卿」(~1778年)
 1774年11月17日-09:00|日本|福井県坂井市|安永3年10月14日|三国湊で大火、町家786軒など焼失
 1774年11月20日-09:00|日本|東京都台東区|安永3年10月17日|隅田川に大川橋(吾妻橋)が架設される
 1774年12月-01:00|ベナン| |||<就任>サウィニファ国統治者「アガバミ」(~1775年)
 1774年12月2日-05:30|インド| |||<就任>ジュナガド国支配者(ナワブ)「モハメド・ハミド・ハンジ-1世」(~18110226没)
 1774年12月3日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|安永3年11月|伊勢崎藩、文武学校学習堂を開設
 1774年12月16日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの宮廷医で経済学者フランソワ・ケネ(1694-、80歳)農民の税金軽減と穀物輸出の自由化などを主張した、
 1774年12月20日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永3年11月18日|<死去>3代芳澤あやめ(55歳)歌舞伎役者
 1774年12月24日-13:30|キリバス/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉によって再発見され、クリスマス島と名付けられた
 1774年12月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永3年11月22日|<初演>「櫻鐙恨鮫鞘」<鰻谷>(作・八民平七)豊竹座
 1774年12月26日-01:00|イタリヤ| |||ベネチア、サン・ペテロ劇場炎上
 1774年12月27日-09:00|日本|香川県さぬき市|安永3年11月22日|高松藩領志度浦大火、324戸延焼
 1775年-08:00|モンゴル| |||<就任>化身ラ「ルガサンチュフデングアンチュク」(ジェフツタンバ4世)(~1813年没)
 1775年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Bernardus van Pleuren」(~1785年)
 1775年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチ王国スルタン「スレイマン・シャー」(~1781年)
 1775年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンダナオ・スルタン「ムハンマド・Paharuddin」(~1780年)
 1775年-08:00|マレーシア| |||サハは正式にスールスルタン主権下に置かれた(1881年からはイギリスの統治下~19460715)
 1775年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「アンソノ2世」(~1779年8月没)
 1775年-07:00|タイ| |||<即位>ラムハーン国主「カーウイラ」(~1781年)
 1775年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー国主(チャオ)「カウイラ」(~1813年)
 1775年-07:00|タイ| |||ラムハーンはタイの宗主国の下で復元
 1775年-05:30|インド| |||<就任>オランダ国ラジャ「バーティ・チャント」(~1776年)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>カンガラ国ラジャ「サンサル・チャント」2世(~1810年)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>コッホ・ヒール国ラジャ「ダイルジエントラ・ナヤン」(2回目~17831203)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>ジャソ国統治者(デュワン)「チェット・シン」(~1786年)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>タスハラ国ラジャ「マクダ・デオ・バニ」(~1795年)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>ナリシプル国ラジャ「ニマイ・チャラン・ハリチャンド・ン・モハトラ」(~1798年)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>ミラージ国統治者(ラオ)「パントウラン・ラオ」(~1777年没)
 1775年-05:30|インド| |||<就任>ラージガル国支配者(ラワット)「ハミル・シン」(~1790年)
 1775年-05:30|インド| |||<即位>カンカ国統治者(マハラジャデイレージ)「デイレージ・シン・デオ」(~不明)⇒「ラム・ラジ・シン・デオ」(~不明)⇒「シャム・シン・デオ」(~1802年)
 1775年-05:00|パキスタン| |||<就任>チラル国統治者(ミフタル)「シャー・ファジル」(~1778年)
 1775年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第47代ハン「アブル・ファイズ」カイフの子(~1779年死去)
 1775年-04:30|アフガニスタン| |||アフガニスタンのティムール・シャーがカーブルに遷都
 1775年-04:00|セイシェル/フランス| |||<就任>フランス領セイシェル司令官「ジャン=バティスト・ル・ルー・ド・ケルメペン」(~1777年)
 1775年-04:00|UAE| |||<即位>ウム・アル・カワイン統治者(ハキム)「Sheikh Majid Al Mu`alla」⇒「Sheikh Rashid1世 ibn Majid Mu`alla」(~1816年)
 1775年-03:30|イラン/イラク| |||キャリム・ハーンがバグダッドを包囲攻撃し占領
 1775年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッドのベイ及びワリス「アブデイ・ハッシャ」⇒「アブトラ・ハッシャ」(~1777年)
 1775年-03:00|スーダン| |||<就任>フンジュ・スルタン国摂政「バディ・ワラト・ラジャブ」(~1780年)
 1775年-03:00|カンタラ| |||<就任>ブソコラ統治者(オムバイト)「マイランギ・ガ・キョアラ」(~1800年)
 1775年-03:00|スーダン| |||<即位>コルトファン・スルタン国スルタン「ハシム・イブン・イサウィ・アル・ムサッハ・アウイ」独立回復(~1782年)
 1775年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Abdolla Pasha」(~1777年)

1780迄 (1631件)

1775年-02:00|シリア・アラブ /トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Osman Pashazade Mehmed Pasha」(~同年)⇒「Ali Pasha」(~12月)

1775年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「イェット・メフメト・ハッシャ」(~17780715)

1775年-02:00|モザンビーク| |||<就任>キタンゴニア首長「トワリ・ヒンジャ」(~1804年頃)

1775年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ・ワリス(総督)「アリ・ハッシャ」(~1778年)

1775年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク=ビューティンゲン伯「エルンスト・ガズミール2世」(~1801年)

1775年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「セイード・ハサン・ハッシャ」(~1776年)

1775年-01:00|ニジェール| |||<就任>ダマガラム国統治者(サルキン・ダマガラム)「アサファ・タン・タニム」(~1782年没)

1775年-01:00|ベナン| |||<即位>アジヤチ・イェのフォン王国国王「アイクハ」(~1783年)

1775年 00:00|トーゴ| |||<就任>アグバナンギン統治者(メ)「ホ」(~1800年)

1775年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「イサオ・ザビエル・バイヤン」(4.8まで代行~1790年)

1775年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ヴァージン諸島副総督「ジョン・Nugent」(~1782年)

1775年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>ヴァージン諸島副知事「John Nugent」(~1782年)

1775年 04:00|サン・マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルタン副王代理「Rene Camille」

1775年 04:00|アンティグア・バボバ・グアダ /イギリス| |||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督代行「クレイスター・クリストファー・グレートヘッド」(~17770421)

1775年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「アグスティン・ペレス・キハ」(~1779年)

1775年1月-01:00|アルバニア| |||<死去>スカリ・ハッシャ国ハッシャ「Mehmed Bushati」

1775年1月-01:00|アルバニア| |||<即位>スカリ・ハッシャ国ハッシャ「Kara Mahmud Bushati」(~17960922死去)

1775年1月2日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興35年12月|大越でフランス軍がフエ(順化)に侵入、グエン・フック・トン(阮福淳)はクアンナム(広南)に逃げる

1775年1月10日-09:00|日本|長野県松本市|安永3年12月9日|<交替>信濃松本藩6万石「松平光和」隠居⇒弟「松平光悌」が継ぐ(⇒天明6(1786)年6月21日、死去)

1775年1月11日-05:45|ネーデル| |||<死去>ネーデル国王「フリット・イ・ナヤ・シャ」52歳

1775年1月11日-05:45|ネーデル| |||<即位>ネーデル国王「シンハ・フ・ラタッ・シャー・デーヴァ」(~17771117没)

1775年1月15日-09:00|日本|栃木県足利市|安永3年12月14日|<死去>下野足利藩11000石「戸田忠言」(48歳)⇒翌年2月8日、八男「戸田忠喬」が継ぐ(⇒文政4(1821)年4月7日、隠居)

1775年1月17日 02:00|英領SG・SS諸島/イギリス| |||サト・ジョージア島は、最初に訪れたジェームズ・クック大尉によって英国領宣言、ジョージ3世のジョージア島と名付けた

1775年1月19日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>セント・ユースティウス島司令官「Jan de Windt, Jr.」

1775年1月19日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島暫定司令官「Abraham Heyliger」(~1776年)

1775年1月25日-01:00|ポスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポスニア総督「シラファ・メフメト・ハッシャ」(2回目~17770520)

1775年1月26日-05:30|インド| |||<就任>アフド国統治者(ナワブ、ワシール・アル・マリク)「アサフ・アト・ダウラ・モハメド・ヤヒヤ・カーン・アマニ」(~17970921没)

1775年1月31日-09:00|日本| ||安永4年|<完成>三浦梅園「玄語」8巻

1775年1月31日-09:00|日本| ||安永4年|<完成>長久保赤水「日本輿地路程全図」

1775年1月31日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興36年|<譲位>広南国王「定王阮福淳」(~1777.8殺害される)

1775年1月31日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興36年|<即位>広南国王「新政王阮福暘」(~1777.8殺害される)

1775年1月31日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ブリン・オ・ギウスティニアニ」(~17770131)

1775年1月31日-09:00|日本| ||安永4年1月|<刊行>恋川春町「金々先生栄花夢」(黄表紙の始め)

1775年1月31日-09:00|日本|東京都中央区|安永4年1月|<初演>「垣衣戀写絵」<双面水照月>「隅田川続悌」の原型/江戸中村座

1775年2月3日-02:00|ルマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「アレクサンダー・ジョン・イブ・シラントイス」(1回目~17820214)

1775年2月6日-03:00|エチオピア| |||<就任>シェワ支配君主「テオドロス・アムハ・イヤサ」(~18070730没)

1775年2月6日 02:00|英領SG・SS諸島/イギリス| |||ジェームズ・クックはサント・イツ諸島グループを発見し、最初の主であるサント・イツ伯爵ジョン・モンタギューにちなんで、サント・イツランドと名付けた

1775年2月14日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>東インド諸島(ランカバル)デンマーク領総督(ギョバーン)「デ・ウイット・ブラン」(~17790117)

1775年2月15日-07:00|タイ| |||<即位>ナン王国「ウイトゥン」(~1778年)トンブリー王・タークシンの指命

1775年2月15日-01:00|バチカン| |||<就任>第250代ローマ教皇「ピウス6世」(~17990829死去)

1775年2月17日-09:00|日本|沖縄県|安永4年1月18日|<死去>屋嘉比朝寄(60歳)琉球の音楽家

1775年3月-01:00|ポーランド| |||ポーランドで常設会議が設立

1775年3月2日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興36年2月|大越でグエン・ヴァン・ニャック軍は阮氏に従うことを誓ったうえで、広南に侵政/一説にグエン・フック・トンは船でジャパイン(嘉定)に逃走しようとしたが船が沈没して死亡、他は捕虜となる

1775年3月4日-09:00|日本|愛媛県西条市|安永4年2月3日|<交替>伊予西条藩33000石「松平頼淳」紀伊国紀州藩を相続⇒甥「松平頼謙」が継ぐ(⇒寛政7(1795)年8月7日、隠居)

1775年3月4日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|安永4年2月3日|<交替>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川重倫」隠居⇒叔父「徳川治貞」が継ぐ(⇒寛政元(1789)年10月26日、死去)

1775年3月8日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「ジョージ・グラーフ・ブラン」(~17920929没)

1775年3月9日-09:00|日本|栃木県大田原市|安永4年2月3日|<交替>下野大田原藩11400石「大田原友清」隠居⇒次男「大田原庸清」が継ぐ(⇒享和2(1802)年8月5日、死去)

1780迄 (1631件)

1775年3月17日-05:30|インド| |||インドで、第1次マラーター戦争が始まる
1775年3月17日-09:00|日本|長崎県平戸市|安永4年2月16日|<交替>肥前平戸藩61700石「松浦誠信」隠居⇒嫡孫「松浦清」が継ぐ(⇒文化3(1806)年11月、隠居)
1775年3月25日 03:00|ウルク/イ/ポルトガル| |||<就任>サラメント新植民地ポルトガル総督「Francisco Jose da Rocha」(~1770603)
1775年3月29日-09:00|日本|東京都|安永4年2月28日|<死去>七代目中村勘三郎
1775年3月31日-09:00|日本| ||安永4年3月|<刊行>向井去来、俳論書「去来抄」
1775年4月-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「テヴレト4世ギレイ」(3期目~17770304)
1775年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ゴジ」 「アンジエロ・オルトラニ」
1775年4月10日-02:00|ラトヴィア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リトアニア総督「ヤン・タデウシュ・ザイェルク」(~1778年)
1775年4月13日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「グラーフ・イワン・アントレーウ・イチ・オスターマン」(17961120まで副首相~17970502)
1775年4月16日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ 総督・最高司令官代行「ウィリアム・ヤング 卿」(~17760503)
1775年4月19日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリスがボストンを占領(~17760317)
1775年4月19日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、レキシントン・コンコードの戦いが起こる/独立戦争が開始される
1775年4月21日-09:00|日本|東京都江東区|安永4年3月22日|<大相撲>安永4年3月場所[江戸深川八幡宮](~4日間) 優勝(西小結)達ヶ関、4戦全勝
1775年4月23日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト《歌劇「羊飼いの王様」》
1775年4月30日-01:00|フランス| |||フランス農産物不作のため穀物価格が上昇し、「小麦粉戦争」と呼ばれる食糧騒擾が各地に起こりパリにも波及
1775年5月1日 06:00|カナダ/アメリカ| |||アメリカ独立戦争、植民地側の遠征隊がカナダへの重要地点であるタイコンデロガ砦を占領
1775年5月2日-09:00|日本|東京都|安永4年4月3日|<死去>初代中山新九郎(74歳) 歌舞伎役者
1775年5月4日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永4年4月5日|<初演>「競伊勢物語」(作・奈河亀輔)中の芝居
1775年5月7日-02:00|ルーマニア/ウクライナ/オーストリア/トルコ| |||オスマン帝国が、トランシルヴァニア北部のウゴウイ地方をオーストリアに割譲
1775年5月7日 00:00|日本|福井県大野市|安永4年4月8日|<越前大野安永4年の大火「太郎兵衛火事」大野史上最大
の大火>朝、五つ半過ぎ(午前9時過ぎ)、大野城南東の野口村太郎兵衛宅より出火、城下は数町を残すのみとなり
ほとんど焼失し、城下北部の中荒井村も大半が焼けた/炎は城内にまで侵入し、本丸の天守閣をはじめ会所(藩
が領内の物産を専売品として生産管理及び販売した役所)及び長屋(藩士の詰め所)から御作事(普請担当奉行
等詰め所、資材倉庫)も焼け、果ては武器庫や煙硝蔵(火薬庫)までもに炎が侵入、三の丸から内堀をへだてた武
家屋敷街の柳町まで全焼/翌日巳刻(午前10時ごろ)鎮火/町家の被害は、本家(土地所有の家)580軒、地名子(借
地人の家)73軒、借屋889軒、奉公人(商家の雇人の家)6軒の合計1548軒、土蔵247棟、寺院20か所、庵3軒、が焼失
1775年5月9日-09:00|日本|愛媛県大洲市|安永4年4月10日|大洲如法寺焼失
1775年5月10日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「Peyton Randolph」(2期目~24日)無所属
1775年5月10日 06:00|アメリカ| |||第2回大陸会議がフィラデルフィアに招集される
1775年5月10日 06:00|アメリカ| |||独立軍遠征隊、カナダへの重要地点であるタイコンデロガ砦を占領
1775年5月12日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミッシェル 総督代行「レイノード・ウイリグニエ・ド・バジェン=フランソワ」(1回
目~8.16)
1775年5月18日-05:30|インド| |||<就任>ナガプール国統治者(セーサーヒブ・スパー)「ラグジ2世」(~18160322没)
1775年5月21日-05:30|インド/イギリス| |||ハナース国はイギリス領インドの一部(~19101109)
1775年5月22日 00:00|イギリス| |||ジェームス・ワットが蒸気機関の特許を取得
1775年5月24日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「John Hancock」(~17771029)無所属
1775年6月6日 04:00|サン・バルテルミー/フランス| |||<就任>フランス領サン・バルテルミー島司令官「Alexandre Rene d'Agneau-Douv
ille」(~1784.1)
1775年6月8日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏代行「ミシェル・フランツ・ヨーゼフ アンブロン」(~8.31)
1775年6月10日-02:00|エジプト/シリア/アラブ| |||エジプトのアブー・アルザハブがシリア遠征中に没
1775年6月14日 06:00|アメリカ| |||大陸会議がアメリカ連合軍(植民地軍)を組織
1775年6月17日 06:00|アメリカ/イギリス| |||アメリカ、独立戦争、バンカー・ヒルの戦いで植民地軍がイギリス軍に大打撃を与える
1775年6月18日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・キャンベル」(~9.15)
1775年6月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ=ウジゲン侯「Charles」
1775年6月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ=ウジゲン侯「Charles William」(~18030517死去)
1775年6月21日-09:00|日本| ||安永4年5月24日|幕府が銀および銀箔の私売買を禁止
1775年6月22日-09:00|日本|山形県山形市|安永4年5月25日|<死去>秋元涼朝(59歳)前出羽山形藩主
1775年6月28日-08:00|中国| ||清・乾隆40年6月|清が広西商民の国境での自由貿易を禁止
1775年7月6日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「モリ・テルグ・イシュメット・パシャ」(~17771205)
1775年7月14日-09:00|日本|福岡県福岡市|安永4年6月17日|<死去>黒田継高(73歳)前筑前福岡藩主
1775年7月29日-09:00|日本|京都府京都市|安永4年7月3日|大丸屋4代・正太郎、乱心して人7人を殺傷し、自分も悶
死/大丸屋騒動
1775年8月2日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「韓翼」(~17760124)
1775年8月11日-05:30|インド| |||<就任>パタナール国摂政「ランジット・シン」(~17780328)
1775年8月16日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミッシェル 総督「エリー・伯爵グイクトル・テレーズ・シャルパンティエ」(~177612
13没)

1780迄 (1631件)

1775年8月19日-09:00|日本|長野県松本市|安永4年7月24日|<死去>松平光和(32歳)前信濃松本藩主
1775年8月24日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安永4年7月29日|<死去>池田政弼(35歳)備中生涯藩主⇒息子の政房が跡を継いだ
1775年8月24日-09:00|日本|山口県下関市|安永4年7月29日|<交替>長門清末藩1万石「毛利政苗」隠居⇒七男「毛利匡邦」が継ぐ(⇒文化15(1818)年3月4日、隠居)
1775年9月-05:30|インド| |||<就任>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウ・イラティ・カリカル)「ラマヴァルマ8世」(~17900816没)
1775年9月 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Eugenio Fernandez de Alvarado y Perales Hurtado y Colomo」(~1779年)
1775年9月1日-01:00|リベントウ| |||<就任>リベントウ王室廷吏「フランツ・ミヒエル・ハインリッヒ・ギルム・フォン・ローゼンegg」(~17890120)
1775年9月4日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルマフディ・アッハス」
1775年9月6日-09:00|日本|長崎県対馬市|安永4年8月12日|<死去>宗義蕃(59歳)前対馬府中藩主
1775年9月13日-09:00|日本|千葉県館山市|安永4年8月19日|<死去>安房国北条藩15000石「水野忠見」(46歳)⇒長男「水野忠韶」が継ぐ(⇒文政10(1827)年8月19日、上総鶴牧藩15000石に陣屋移転)
1775年9月15日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルマフディ・アリ1世」アルマフディ・アッハスの息子(~18091025死去)
1775年9月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ヘンリー・ローレンス」(~1776年)
1775年9月16日 00:00|イギリス| |||<死去>初代バースト伯「アレクサンダー・バースト」
1775年9月16日 00:00|イギリス| |||<就任>2代バースト伯「ヘンリー・バースト」先代の息子(~17940806死去)
1775年9月21日-09:00|日本|福井県福井市|安永4年8月27日|福井城下で大火、城内三の丸櫓・町家717軒など焼失
1775年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・バティスト・エンジェル」
1775年10月2日-09:00|日本|石川県白山市|安永4年9月8日|<死去>加賀千代女(73歳、元禄16(1703)年生)俳人・書家
1775年10月13日 00:00|イギリス| |||<死去>5代アントリム伯「アレクサンダー・マクドナル」
1775年10月13日 00:00|イギリス| |||<就任>6代アントリム伯「ランダル・ウィリアム・マクドナル」(⇒17850619アントリム伯再叙爵⇒17890818アントリム侯~17910725死去)
1775年10月13日 06:00|アメリカ| |||大陸会議、漁船の武装化を指令、アメリカ最初の海軍となる
1775年10月13日-09:00|日本|群馬県高崎市|安永4年9月19日|<死去>上野吉井藩1万石「松平信明」(31歳)⇒養子「松平信成」が継ぐ(⇒寛政12(1800)年2月13日、隠居)
1775年10月17日-09:00|日本|佐賀県唐津市|安永4年9月23日|<交替>肥前唐津藩6万石「水野忠任」隠居⇒養子「水野忠鼎」が継ぐ(⇒文化2(1805)年9月5日、隠居)
1775年10月19日-09:00|日本|東京都中央区|安永4年9月25日|<初演>人形浄瑠璃「戀娘昔八丈」[作・松貫四(曲亭馬琴)]江戸外記座
1775年10月21日-09:00|日本|福井県小浜市|安永4年9月27日|<死去>酒井忠用(54歳)前若狭小浜藩主、元寺社奉行・大坂城代・京都所司代
1775年10月23日-09:00|日本|京都府南丹市|安永4年9月29日|<死去>丹波園部藩24000石「小出英常」(33歳)⇒11月24日、長男「小出英たけ」が継ぐ(⇒文政4(1821)年5月10日、死去)
1775年10月24日-09:00|日本|大分県杵築市|安永4年10月|妙経寺庭園作庭
1775年10月26日-05:30|インド| |||<就任>パルタガト国統治者(マハラット)「サント・シン」(~18440105没)
1775年11月 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督代行「トマス・シャープレス」(~12月)
1775年11月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツ・ツヴァイブリュッケン公「クリスティアン4世」
1775年11月5日-01:00|ドイツ| |||<即位>プファルツ・ツヴァイブリュッケン公「カール3世・アウグスト・クリスティアン」(~17950401死去48歳)
1775年11月9日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「ランスコ・ヒメネス・デ・テハダ」
1775年11月9日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「フェルディナント・ロッセルミニ」(~12日)
1775年11月9日-09:00|日本|東京都江東区|安永4年10月17日|<大相撲>安永4年10月場所[江戸深川八幡宮](~9日間)優勝(西前3)稲川, 6勝1敗1無勝負1休
1775年11月12日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「エミニュエル・デ・ロアン・ボルデック」(~17970713没)
1775年11月13日 06:00|カナダ/アメリカ| |||アメリカ軍、モントリオールに無血入城
1775年11月23日-05:30|インド| |||<就任>アルワル国統治者(ジョーラジャ)「ワラタップ・シン」建国(~17910926没)
1775年11月29日 06:00|アメリカ| |||大陸会議、外交を担当する秘密通信委員会を設置
1775年12月 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督「ジョセフ・ウォール」(~17760808)
1775年12月3日-09:00|日本|岐阜県郡上市|安永4年11月11日|<交替>美濃郡上藩48000石「青山幸道」隠居⇒長男「青山幸完」が継ぐ(⇒文化5(1808)年11月8日、死去)
1775年12月8日-02:00|ラトヴィア| |||<就任>ケルラント・ゼムガレ公国政府議長「ヨハン・エルンスト・フォン・クロップマン」(⇒1776年首相・会長代行~1786年)
1775年12月28日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド総督「Petrus Albertus van der Parra」
1775年12月28日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Jeremias van Riemsdijk」(~17771003死去)
1775年12月29日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事「Bache Elzear Alexandre」(~1782年)
1775年12月31日 06:00|カナダ/アメリカ/イギリス| |||アーノルド、モンゴメリーのアメリカ軍、ケベック急襲するも失敗
1776年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「カエターノ・デ・レモス・テレ・デ・メネズ」(~1779年)
1776年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンクーレン大統領府総督「ロバート・ヘイ」(~同年)⇒「ウィリアム・Broff」(~1780年死)

1780迄 (1631件)

去)

1776年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハレンバン・スルタン「Sultan Muhammad Bahauddin」(~1803年)
1776年-06:00|プータン| |||<就任>プータン摂政「ジグメ・シンゲ」(~1788年)
1776年-05:30|インド| |||<就任>アウトル 国統治者(パンツ・プ・ラティネイ)「シュリニガ アスラオ・ガンガ・タル」(4回目~17770830)
1776年-05:30|インド| |||<就任>オムカ国ラジャ「ウ・イクラマジット」(1回目~1817年)
1776年-05:30|インド| |||<就任>クタル国統治者(ラナ)「サマル・チャンド」(~1791年没)
1776年-05:30|インド| |||<就任>ジャラウ国統治者(ラオ)「コビント・ラオ1世」建国(~1822年没)
1776年-05:30|インド| |||<就任>パソリ国ラジャ「ヒ・ジェ・ハル」(~1806年没)
1776年-05:00|パキスタン| |||<就任>ラセバウ国ジャム・サハブ「ミール・カーン1世」(~1818年)
1776年-03:00|スーダン| |||<死去>フンジ・スルタン国スルタン「イスマーイル・イブン・ハマーデ4世」
1776年-03:00|エチオピア| |||<即位>カファ帝国カフィ・アティオ「ベシ・ギ・ノチヨ」(~1798年)
1776年-03:00|スーダン| |||<即位>フンジ・スルタン国スルタン「アトラン2世イブン・イスマーイル」(~1789年没)
1776年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Ahmed Izzet Pasha」(1期目~1778.6)
1776年-02:00|コンゴ 民主共和国| |||<即位>カバ 王国ニミ「コトアン・ル・カタムブラ」(~1810年)
1776年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「タマト・メリク・メフメト・ハッシャ」(2回目~1779年)
1776年-01:00|ベナン| |||<就任>サウ・イ・フエタ 国統治者「アカンモウ」(~1802年)
1776年-01:00|リビア| |||<即位>オスマン帝国フザーン・スルタン「アフマト2世アルムスール」(~1780年)
1776年-01:00|スペイン/チリ| |||サンチャゴを中心にペルー副王の専政に対する反乱
1776年-01:00|スペイン| |||スペインがアルカハラ税徴収請負制度を廃止
1776年 00:00|セネガル| |||<就任>フタ・ト・ロ統治者統治者(アルマミ)「アフ・タルカデイル・イブン・ハマディ・トロト・カン」(~1806年6月)
1776年 04:00|アンティグア・バ・プーダ| |||<就任>アンティグア大統領「トマス・ジャービス」
1776年 04:00|アンガラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンガラ副総督「ベンジ・ヤミン・Gumbs3世」(~1782年)
1776年 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「マルク・エティエンヌ・ト・ジュベール」(~17781228)、代行「クロト・アンヌ・キート・ミウ」(~17781228)
1776年 04:00|ホリビア/スペイン| |||<就任>コチャバンバ 総督「フランシスコ・デ・ビエドマ・イ・ナルバエス」(~1780年)
1776年 05:00|ケイマン諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ケイマン諸島主任判事「ウィリアム・Bodden1世」(~17890423死去)
1776年-05:30|インド| |||<就任>サントール国はマニラに併合(~1790年)
1776年1月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「ロバート・ホイト」(1期目~17770525)
1776年1月 06:00|コカラガア| |||<死去>モスクート王「ジョージ1世サミュエル・ロドリック・カントラー」
1776年1月 06:00|コカラガア| |||<即位>モスクート王「ジョージ2世アウグストウス」(~1800年10月没/1778年10月~1779年11月、イギリス人によって中絶)
1776年1月1日 06:00|グアテマラ| |||新首都、ヌエバ・グアテマラ・デ・アスンシオンと命名(現グアテマラ・シティ)。アウティエンシアも移される
1776年1月10日 00:00|イギリス| |||トマス・ペインが「モンセン」刊行
1776年1月14日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<死去>イギリス領ジブラルタル知事「エドワード・コンウォリス」
1776年1月16日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「ロバート・ホイト」(1期目~17770525)
1776年1月17日-09:00|日本|福島県福島市|安永4年12月26日|<死去>陸奥福島藩3万石「板倉勝矩」(34歳)⇒翌年1月25日、次男「板倉勝長」が継ぐ(⇒文化12年4月12日(18150520)、死去)
1776年1月19日-09:00|日本|三重県津市|安永4年12月28日|<交替>伊勢久居藩53000石「藤堂高染」隠居⇒弟「藤堂高興」が継ぐ(⇒安永6(1777)年3月12日、22歳で死去)
1776年1月24日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金尚喆」(~5.6)
1776年2月6日-09:00|日本|愛媛県大洲市|安永4年閏12月17日|大洲城下に大火があり、170軒を焼く
1776年2月10日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 副王「マヌエル・アントニオ・フロレス・マルティネス・イ・ボデギン」(~17820301)
1776年2月13日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ケランガイル伯「ロバート・カトリット」
1776年2月15日-09:00|日本| |安永4年閏12月26日|幕府が、脇道である山崎路を西国大名の参勤交代路として使用することを禁じる
1776年2月16日-09:00|日本|千葉県君津市|安永4年12月|<死去>上総国久留里藩3万石「黒田直純」(71歳)⇒養子「黒田直亨」が継ぐ(⇒天明4(1784)年閏1月17日、死去)
1776年2月17日-01:00|イタリア| |||ギボンが「ローマ帝国衰亡史」刊
1776年2月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ダービー伯「エドワード・スタンレー」
1776年2月22日 00:00|イギリス| |||<就任>ダービー伯「エドワード・Smith-スタンレー」(~18341021死去)
1776年2月27日 06:00|アメリカ| |||(ムアーズ・クリーク・ブリッジの戦い)ノースカロライナで王党派と愛国派が衝突し、愛国派が勝利
1776年3月3日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「運営委員会(ホセ・ド・スレイス・ホルヘス/ニコラウ・フォンセカ・アラウ/ジョージ・ジョン・フレイル・デ・アンドラーデ)」(~17770521)
1776年3月3日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「サミュエル・ニコラス」(~17760317)
1776年3月3日 05:00|バハマ/アメリカ| |||モンテニュー砦(及び翌日ナッソー)をアメリカが占領(~17日)
1776年3月5日-09:00|日本|石川県|安永5年1月16日|加賀国石川郡で米騒動が起こる
1776年3月7日 00:00|イギリス| |||<死去>9代ストラスモア＝キング・ホーン伯「ジョン・ホーズ」
1776年3月7日 00:00|イギリス| |||<就任>10代ストラスモア＝キング・ホーン伯「ジョン・ホーズ」先代の息子(~18200703死去)

1780迄 (1631件)

1776年3月9日 00:00|イギリス| |||アダム・スミスの「諸国民の富」が刊行される
 1776年3月11日-09:00|日本| |||安永5年1月22日|<死去>3代中村宗哲 (78歳) 塗師
 1776年3月15日-05:30|インド| |||サントウル国はマヒスル(マイソール)に併合 (~1790年)
 1776年3月15日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Robert d'Argout」 (~17770503)
 1776年3月15日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督代行「ジョン・ガンビア」 (2回目~1778年7月)
 1776年3月15日-05:30|インド| |||マイソール王国首席大臣ハイダル・アリーはデカン高原南部のマラーター王国マラーター諸侯ゴールパデール家の拠点グッティを占拠
 1776年3月17日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍がボストン攻囲戦に敗れて撤退
 1776年3月18日 00:00|フェロー諸島| |||<就任>フェロー諸島首長(コペンハーゲン)「Henrik Adam Brockenhuus til Jungshoved og Nyso」 (~17870331)
 1776年3月20日-08:00|中国| |||清・乾隆41年2月|清の阿桂の軍が葛拉依を包囲し、沙羅奔らが降伏
 1776年3月24日-09:00|日本|長野県伊那市|安永5年2月5日|<交替>信濃高遠藩33000石「内藤頼由」隠居⇒養子「内藤頼尚」が継ぐ(⇒同年10月25日、死去)
 1776年3月27日-09:00|日本|岡山県岡山市|安永5年2月8日|<死去>池田継政 (75歳) 前備前岡山藩主
 1776年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・シヤンニニ」 「アンティモ・メロニ」
 1776年4月6日 06:00|アメリカ/イギリス| |||大陸会議、アメリカの港をイギリス以外のすべての国に解放
 1776年4月11日-05:30|インド| |||タンジャーウル・マラーター王国はイギリスによって復活し、トラウジャヤージ-2世は復位
 1776年4月12日 06:00|アメリカ| |||ノースカロライナが独立を果たす
 1776年4月16日-03:00|イラク/イラン| |||<就任>パース総督「サディク・カーン・ザント」 (~1779年3月)
 1776年4月16日-03:00|イラク/イラン| |||ペルシャによるパース占領 (~1779年3月)
 1776年4月18日-09:00|日本|東京都中央区|安永5年3月|<初演>歌舞伎「戀娘昔八丈」 中村座
 1776年4月18日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・景興37年3月|大越でグエン・フエ軍がジヤティンに侵攻/グエン・フック・アイン(阮福映)が生き延びる
 1776年4月21日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アゾレス諸島総司令官「Dinis Gregorio de Melo Castro e Mendonca」 (~17931203死去)
 1776年4月22日-09:00|韓国/朝鮮| |||朝鮮・乾隆41年3月5日|<死去>李氏朝鮮国王「英祖」
 1776年4月27日-09:00|韓国/朝鮮| |||朝鮮・乾隆41年3月10日|<即位>李氏朝鮮国王「正祖」 (~18000818死去)
 1776年4月29日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官「Johannes de Graaff」 (~17810203)
 1776年4月30日-09:00|日本|東京都|安永5年3月13日|幕府が、府内往来の際の諸大名の従者の数を制定
 1776年5月3日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ総督・最高司令官「マッカートニー男爵ジョージ・マッカートニー卿」 (~17790706)
 1776年5月6日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金陽澤」 (~9.19)
 1776年5月10日-09:00|日本|東京都|安永5年3月23日|<死去>田村藍水 (59歳) 幕府医官で本草学者/朝鮮種人参の栽培にも功があった
 1776年5月12日-04:00|モリシャス/フランス| |||フランス人商人モリスがモリシャス島に奴隷の供給を開始
 1776年5月14日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣「シモン・ド・フリック・フェルベール」 (~17811121死去)
 1776年5月18日-09:00|日本| |||安永5年4月| (~6月頃) はしか諸国で大流行、成人麻疹で死亡者多く
 1776年5月18日-09:00|日本| |||安永5年4月|<刊行>上田秋成「雨月物語」 (明和5年3月完成)
 1776年5月22日-09:00|日本|三重県桑名市|安永5年4月5日|<死去>伊勢長島藩2万石「増山正賢」 (51歳) ⇒5月晦日、長男「増山正賢」が継ぐ(⇒享和元(1801)年7月5日、48歳で隠居)
 1776年5月29日-01:00|イタリア| |||<即位>トント司教公「Peter Michael Vigil Graf von Thun und Hohenstein」 (~18000117)
 1776年5月30日-09:00|日本|京都府京都市|安永5年4月13日|<死去>池大雅 (54歳、享保8(1723)0508生) 南画家、書家
 1776年6月 06:00|アメリカ| |||アメリカ植民地軍がウァージニアとカロライナでチロキ族を襲撃
 1776年6月2日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Jose Dufresne」 (~17830406)
 1776年6月5日-09:00|日本|山形県米沢市|安永5年4月19日|上杉治憲(鷹山) (26)により、米沢藩の藩校、興譲館が開校
 1776年6月6日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Felipe de Ceraín」 (~17860821)
 1776年6月10日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ビルマ王「シンビュシ」
 1776年6月10日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「シンガ・ミン」 (~17820205)
 1776年6月10日 00:00|イギリス| |||<就任>初代アイルズ・ベリー伯「トマス・ブルデネル＝ブルース」 (~18140419死去)
 1776年6月12日 06:00|アメリカ| |||ウァージニア議会在が最初の人権宣言と憲法を制定し、独立
 1776年6月14日 00:00|イギリス| |||<就任>初代クラレンドン伯「トマス・ウァリアーズ」 (~17861211死去)
 1776年6月19日-09:00|日本|広島県広島市|安永5年5月4日|広島江波島出火、町家105軒、番所・長屋とも焼失
 1776年6月28日 06:00|アメリカ/イギリス| |||チャールストンの戦い/イギリスのヘンリー・クリントン将軍とピーター・パーク提督が軍艦13隻と陸兵3000を率いてサウス・カロライナのチャールストン沖に現れ、チャールストンを占領しようとするが、大陸軍に撃退される
 1776年6月28日-09:00|日本|三重県亀山市|安永5年5月13日|<死去>伊勢亀山藩6万石「石川総純」 (19歳) ⇒養子「石川総博」が継ぐ(⇒寛政8(1796)年5月6日、隠居)
 1776年6月29日 06:00|アメリカ| |||ウァージニア議会、急進的な最初の成文憲法制定
 1776年7月2日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ニューヨークに現われたイギリス艦隊、スタテン島を制圧
 1776年7月4日 06:00|アメリカ| |||大陸会議総会が独立宣言書を採択。ニューヨークだけが保留

1780迄 (1631件)

1776年7月5日-09:00|日本|茨城県土浦市|安永5年5月20日|<死去>常陸土浦藩95000石「土屋篤直」(45歳)⇒長男「土屋寿直」が継ぐ(⇒安永6(1777)年7月19日、死去)
1776年7月5日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|安永5年5月20日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊胤」(30歳)⇒長男「木下俊懋」が継ぐ(⇒文化7(1810)年3月10日、隠居)
1776年7月14日-01:00|フランス| |||<就任>オマル公「ルイ・ジャン・マリ・ド・ブルボン」パントエーガル公(〜17930304死去)
1776年7月14日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|安永5年5月29日|<死去>陸奥棚倉藩6万石「小笠原長恭」(37歳)⇒長男「小笠原長堯」が継ぐ(⇒文化9(1812)年3月24日、隠居)
1776年7月16日-09:00|日本| ||安永5年6月|<死去>2代浜野政随(37歳)装剣金工
1776年7月17日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地セントビンセント総督「バレンタイン・モリス」(〜17790616)
1776年7月17日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「ギョーリョウ侯爵マヌエル・ド・ギョーリョウ・イ・ボタル・ウアルテ・イ・エドザイン」(〜17800721)
1776年7月17日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|安永5年6月2日|<死去>森忠洪(49歳)前播磨赤穂藩主
1776年7月18日 00:00|イギリス| |||<就任>初代リスバーン伯「ウィルモット・ダウソン」(〜18000106死去)
1776年8月1日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ペドロ・アントニオ・デ・セバロ・コルテス・イ・カルデロン」(⇒17771015副王〜17780625)
1776年8月8日 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督代行「ジョージ・フォール」(1回目〜同年)⇒「ウィリアム・レイシー」(〜17780818)
1776年8月9日-01:00|カオチア| |||リカ(フィウメ)とその周辺は、勅令によりセグエリン郡(ジューパニヤ)内の商業地区(地区商業地区)としてカオチアに再編入(10.20発効)
1776年8月14日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永5年7月|<初演>歌舞伎「博多小女郎浪枕」<毛剃>[作・近松門左衛門]当時は「戀港博多諷」浅尾為十郎、大坂小川吉太郎座
1776年8月20日-09:00|日本|栃木県大田原市|安永5年7月7日|<死去>大田原友清(57歳)前下野大田原藩主
1776年8月22日-09:00|日本| ||安永5年7月9日|<死去>原武太夫(80歳)三味線奏者、随筆家
1776年8月25日 00:00|イギリス| |||<死去>ヒューム/65歳(誕生17110426)哲学者、歴史学者、経済学者
1776年8月27日 06:00|アメリカ/イギリス| |||アメリカ独立戦争、ロングアイランドの戦いでアメリカ軍敗退
1776年9月7日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安永5年7月25日|<死去>岡山新田藩15000石「池田政弼」35歳⇒四男「池田政房」が継ぐ(⇒翌年3月11日、死去)
1776年9月9日 06:00|アメリカ| |||アメリカ大陸会議がユナイテッド・ステイツを国名に採択
1776年9月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍がマンハッタンに上陸し、ニューヨーク市を占領(〜17831125)
1776年9月16日-05:30|インド| |||<死去>マイソール国マハラジャ「チャマラジャ8世・ウデ・イヤー」首席大臣「ハイダル・アリー」の命により、ジュリランガハットの宮殿において、風呂の中で首を絞められて殺害される
1776年9月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ハーレムハイムの戦い>大陸軍G・ワシントン直接指揮で初勝利
1776年9月20日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金尚喆」(〜17791107)
1776年9月26日-01:00|フランス/アメリカ| |||大陸会議がフランクリンら第1回外交使節をフランスに派遣
1776年9月27日-05:30|インド| |||<即位>マイソール国マハラジャ「チャマラジャ9世ウデ・イヤー」(〜1786年1月)、摂政「ハイダー・アリー」(2回目〜17821207)
1776年9月30日-09:00|日本|大阪府岸和田市|安永5年8月18日|<交替>和泉岸和田藩53000石「岡部長修」隠居⇒長男「岡部長備」が継ぐ(⇒享和3(1803)年11月5日、死去)
1776年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「フランチェスコ・オノリ」
1776年10月12日-09:00|日本|新潟県新発田市|安永5年9月|新発田藩、医学館を設立する/藩設医学館としては薩摩藩、肥後藩に次いで全国三番目
1776年10月13日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:バルカ島の戦い>(11日〜)米海軍初の水上戦で英国軍に敗北
1776年10月23日-09:00|日本|東京都台東区|安永5年9月12日|浅草寺境内での水茶屋・団子茶屋営業が許可される
1776年10月26日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Francois de Souillac」(〜17790430)
1776年10月28日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ホワイトプレーンズの戦い/ニューヨーク近郊のホワイト・プレーンズでワシントンの率いるアメリカ軍とイギリス軍とが交戦し敗れた
1776年10月30日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「ペドロ・デ・サリア」(1期目〜1778.7)
1776年10月31日 00:00|イギリス| |||<就任>初代マンスフィールド伯「ウィリアム・マレー」(〜17930320死去)
1776年11月4日 00:00|イギリス| |||<死去>4代リッチフィールド伯「ロバート・リー卿」
1776年11月5日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・乾隆41年9月25日|朝鮮、奎章閣を設置
1776年11月15日-01:00|スペイン| |||<死去>オリバーズ公「フェルナント・デ・シルバ・メントーサ・イトレド」
1776年11月15日-01:00|スペイン| |||<就任>第13代アルバ女公・オリバーズ女公「マリア・デ・シルバ・イ・アルバ・レス・デ・イトレド」(〜18020723死去)先代の孫娘
1776年11月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍、ハーレム高地を攻略し、マンハッタン島制圧
1776年11月20日-09:00|日本|三重県津市|安永5年10月10日|<死去>谷川士清(68歳)国学者
1776年11月21日-09:00|日本|東京都江東区|安永5年10月11日|<大相撲>安永5年10月場所[江戸深川八幡宮](〜8日間)優勝(西小結)谷風(達ヶ関より改め)、7勝0敗1無勝負
1776年11月21日-09:00|日本|山梨県南巨摩郡身延町|安永5年10月11日|身延七面山本社全焼
1776年11月25日-09:00|日本|大阪府大阪市西区|安永5年10月15日|<初演>人形浄瑠璃「桂川連理柵」<帯屋>[作・菅専助]北堀江座
1776年11月30日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード知事「マヌエル・ファルクス」(〜17790711)

1780迄 (1631件)

1776年12月2日-04:00|モリス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督「ラ・ブリアンヌの騎士アントワーヌ・ド・ギラン」(~17790428)

1776年12月5日-09:00|日本|長野県伊那市|安永5年10月25日|<死去>信濃高遠藩33000石「内藤頼尚」(25歳)⇒養子「内藤長好」が継ぐ(⇒寛政3年11月5日(17911130)、死去)

1776年12月8日 00:00|イギリス/アメリカ| |||クリントン、ニューポートを攻略

1776年12月11日-09:00|日本|千葉県鎌ヶ谷市|安永5年11月|鎌ヶ谷宿の大国屋(福田)文右衛門が先祖供養のために鎌ヶ谷大仏建立

1776年12月11日-09:00|日本|東京都|安永5年11月|平賀源内、エレキテルを復元

1776年12月11日-09:00|日本|東京都中央区|安永5年11月1日|<初演>「姿花雪黒主」五代目市川團十郎、「だんまり」の始まり/市村座

1776年12月13日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||ジェームズ・クック大尉がイギリス領を主張し、エドワード王子、ケント公爵、ストラサンにちなんでプリンスエドワード諸島と名付けられた

1776年12月14日-07:00|ベトナム| ||安永5年11月4日|<即位>広南国副王「新政王・阮福暘」(~17770919死去)

1776年12月15日-09:00|日本| ||安永5年11月5日|三味線・按摩などの技芸を生業とする盲人すべてが、検校の支配となる

1776年12月23日 13:00|日本|香川県さぬき市|安永5年11月13日|高松藩領津田浦大火, 113戸延焼

1776年12月24日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍がペンシルヴァニア邦に侵入し、大陸会議がホリアイアに避難

1776年12月26日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争: トリントンの戦い>ワシントンの大陸軍がイギリス軍の前進部隊に奇襲攻撃をかけて起死回生の勝利

1776年12月26日-09:00|日本|島根県安来市|安永5年11月16日|<死去>松平直道(53歳)前出雲母里藩主

1776年12月28日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミノー 総督代行「ジャン＝バティスト・ド・テイスト・ド・リランクール」(1回目~17770522)

1777年-13:00|トンガ| |||<交替>トンガ 主長(トウイ・ハイ・ハーカウア)「マハリウアキ」⇒「マリキハアマ」(~17990510死去)

1777年-13:00|トンガ| |||<即位>トンガ 主長(トウイ・カノケ・オル)「トゥフーラヒシ」(~同年)⇒「マリキハアマ」(1回目~同年)⇒「マエリアウキ」(2回目~同年)⇒「トゥイハラファタイ」(~1782年)、「トゥホウマホフオ」(1回目~1781年)

1777年-11:00|ミクロネシア| |||<即位>モル国国王「ラカタツカ」(~1790年没)

1777年-07:00|タイ| |||<就任>ソンケー知事(ブーヤ・ソンケー)「ルアン・インタリ」(~1784年)

1777年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王アンエン(~1796年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>アラカル王国ラジャ「アリ・ラジャ・ビ・ビ・ジュヌマベ2世」(~1819年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>カカ国ラジャ「ハルバト・ラ・バンジ・デオ」(~1812年没)

1777年-05:30|インド| |||<就任>カンヌール国統治者(アリ・ラジャ・ビ・ビ)「ラニ・ジュヌマベ2世・アデ・イ・ビ・ビ」(~1819年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>サンガル国ラジャ「ウー・イシュウ・アサト・サイ」(~1808年没)

1777年-05:30|インド| |||<就任>ダランプール国ラジャ「ソムデヴ・ジー2世アベ・イ・シン」(~1784年没)、摂政「マハリニ・バインジ・クシヤル・クンウアーバ」(2回目~1784年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>チョタ・ウダープール国ラジャ「ヒムシンジ」(~1819年没)

1777年-05:30|インド| |||<就任>バガット国統治者(ラ)「ファテ・ハル」(~1787年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>バスター国ラジャ「ダリャオ・デオ」(2回目~1819年)

1777年-05:30|インド| |||<就任>ハンナ国ラジャ「アニルト・シン」(~1779年没)

1777年-05:30|インド| |||<就任>ファルタン国統治者(ナイク)「ヤン・ラオ・ニハルカル2世」(~18250101)

1777年-05:30|インド| |||<就任>ミラージ国統治者(ラ)「ハリハル・ラオ」(~1782年没)

1777年-05:30|インド| |||<就任>ラムドゥルグ国統治者(ラ)「ラムラオ1世」(~1785年)

1777年-05:30|インド/デンマーク| |||<制定>デンマーク王領インド植民地

1777年-04:00|UAE| |||<死去>シャルジャ統治者(ハキム)「Sheikh Rashid ibn Matar ibn Rahman al-Qasimi」

1777年-04:00|UAE| |||シャルジャ、アラス・アル＝ハイマ統治者(ハキム)「Sheikh Saqr1世 ibn Rashid al-Qasimi」(~1803年死去)

1777年-03:00|ウガンダ| |||<就任>キグル統治者(オムカマ)「ルンケホンゲ」

1777年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「ムスタファ・パシャ」(~1778年)

1777年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Ahmad Pasha」(~1780年)

1777年-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「Friedrich Anton von Heinitz」(~1802年)

1777年-01:00|クロアチア| |||<即位>ホーヒツァ大公「イワン・イェロンチッチ」(~1778年)

1777年 00:00|セネガル| |||<就任>ケール統治者(タンメル)「ヒリマ・ファティム・ペンタ」(~1790年)

1777年 00:00|ガーナ| |||<即位>アシャンティ王オエイ・クワメ・パニン(~1803年)

1777年 04:00|グアドループ/イギリス| |||<就任>マリー・ガランテ特定知事「Pierre Joseph de Neyon de Villiers」(~1779.8)

1777年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「マヌエル・フラデイク・イ・コ・イナ」(3回目~1786年)

1777年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督代理「Francisco Trevre」(~同年)

1777年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ルイジアナ植民地総督「ベルナルド・デ・ガルベス」(~1785年)

1777年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「マヌエル・デ・キロガ」(~1779年)

1777年 06:00|ニカラガア/イギリス| |||ホア族の酋長ヤリシ、イギリスに対し反乱。捕らえられ処刑

1777年 10:00|ポリネシア/フランス| |||<就任>アヒネ統治者「Te ha'a papa I Te 'i'oa tua Teri'i tari'a」(~1790年死去)

1780迄 (1631件)

1777年 10:00|ポリネシア| |||ヒチ島のヒチシギが絶滅
1777年1月1日-01:00|フランス| |||フランスで、はじめての日刊新聞ジユナル・ド・パリが創刊される
1777年1月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争>アッサンpink-クリークの戦い>ニュージャージー州で大陸軍が英国軍に勝利
1777年1月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争>プリンストンの戦い>ワシントン率いるアメリカ軍はイギリス軍に勝利/そしてワシントン軍はイギリス軍に占領されたナッソーホル奪回に成功
1777年1月8日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ギヨーム・レオナルド・ベルコム・セイニョール・ド・ティラク」(1回目~1778年)
1777年1月8日-05:30|インド| |||マイソール王国軍がダーラウアーダ付近の会戦でマラーター軍に勝利
1777年1月10日-01:00|イタリア| |||ベネチア、サン・サルヴァドール劇場で、秘書ピエル・アントニオ・グラコロを笑い物にしたカルロ・ゴツツィの“恋の薬”上演
1777年1月10日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永5年12月|<初演>「伊賀越乗掛合羽」[作・奈河亀輔]大坂中の芝居嵐七三郎座
1777年1月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「トルバッキンガムシャー伯爵ジョン・ハート」(~17801223)
1777年1月26日 13:00|日本|長野県松本市|安永5年12月17日|<松本安永5年大火「綿屋火事」>夜四つ時(22時ごろ)、中町の綿屋隠居屋敷から出火、火元の中町を始め隣接する本町から伊勢町、小池町、飯田町を全焼/川北へ延びた炎は、東町の大半と安原町まで焼失。西へ延びた炎は六九御馬屋(厩)から町役所、郡役所、御預役所、今町木戸まで焼き、大手橋を焼け落として城内まで侵入。城内では、土蔵4か所と外囲いの矢倉9か所を始め大手門と東門の屋根を焼き、大名町から土居尻、柳町及び地蔵清水へと伸びたのち二の丸へ飛び、二の丸では御蔵2棟を全焼した後、飛び火して弥勒院、北馬場の数軒を全焼させるなど、城内の約八丁(約873m)四方を焦土と化した/被害は町家1217軒、城内屋敷57軒、土蔵295棟が全焼
1777年2月1日 04:00|フォークランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォークランド諸島暫定司令官・総督「Ramon de Carassa y Sousa」(~17791122)
1777年2月4日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「ジョセップ・ロメリニ」(~17790204)
1777年2月5日 11:00|日本|京都府京都市左京区|安永5年12月27日|夜、黒谷寺火災
1777年2月8日-08:00|中国| |||清・乾隆42年|<就任>チベット摂政「第1代ツェモンポチェ」(~1786年)
1777年2月8日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・景興38年|西山軍がサイゴン、嘉定(ザティン)を占領し大越阮氏の睿宗、殺され、阮氏滅亡
1777年2月9日-01:00|チュニジア| |||<即位>フサイン朝ベイ「ハムダ」共同統治(~18140915死去54歳)
1777年2月11日-09:00|日本|広島県広島市|安永6年1月4日|安芸郡仁保島丹那出火、家138軒焼失
1777年2月19日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官セ・モニノ、フロリダブラカ伯(~17881214)
1777年2月19日-09:00|日本|長野県|安永6年1月12日|信濃国高井・水内両郡幕領で百姓一揆が起こる
1777年2月24日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「ジョゼ1世改革王」62歳(誕生17140606)
1777年2月24日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ブラガンサ公・ブラジル公・ペイラ公・パルティマス公・ウイラ・ウイザ侯・パルティマス伯・オウラム伯・アライオス伯・ネグァ伯「ホセ・マリア1世女王の長男」(~17880911死去)
1777年2月24日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル女王「マリア1世」(~18160320死去)ジョゼ1世の娘、「ペドロ3世」(~17860525死去)マリア1世の夫、ジョアン5世の子
1777年2月26日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メキシコ総督「Nicolas Quijano」(~11.6)
1777年3月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>クリミア・ロシア司令官「Aleksandr Vasilyevich Suvorov」(1期目~同年)⇒「Knyaz Aleksandr Aleksandrovich Prozorovskiy」(~1778.4)
1777年3月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||クリミアをロシアが占領(~1779.6)
1777年3月4日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「シャヒン・ギレイ」(1期目~1782.7)
1777年3月4日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相「アンジェジョ侯ペドロ・ホセ・デ・ノロニャ・エ・メネセス」(~14日)
1777年3月4日-09:00|日本|岐阜県海津市|安永6年1月25日|<交替>美濃高須藩3万石「松平義柄」本家尾張藩主「徳川宗睦」の養嗣子となり「徳川治行」と改名⇒弟「松平義裕」が継ぐ(⇒寛政7(1795)年9月22日、34歳で死去)
1777年3月8日-09:00|日本|香川県高松市|安永6年1月29日|高松城下中新町より出火、中新町・北横町・南袋町・田町南側・東横町南側・東浜南側焼失、合子池にまでおよび人家535軒、土蔵24か所、町番所4か所焼失
1777年3月14日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相「ビラ・ノヴァ・デ・セルバ」子爵トマス・シャビエル・テレス・ダ・シルヴァ」(~17881215)
1777年3月29日 10:00|クック諸島/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉がマングァを発見
1777年3月31日 10:00|クック諸島/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉がアティウを訪れ、ワケイウとして記録
1777年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「コスタンティーノ・ボネリ」「フランチェスコ・モラッチ」
1777年4月4日 10:00|クック諸島/イギリス| |||イギリスのジェームズ・クック大尉がタケアを発見
1777年4月8日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永6年3月|<初演>歌舞伎「桂川連理柵」嵐座
1777年4月13日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(後期ソモン朝)皇帝「ソモン2世アデ・イゴ」(~17790720)
1777年4月17日 06:00|アメリカ| |||大陸会議、外務委員会を設置
1777年4月18日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安永6年3月11日|<死去>岡山新田藩15000石「池田政房」⇒養子「池田政恭」が継ぐ(⇒文政5(1822)年11月21日、隠居)
1777年4月19日-09:00|日本|三重県津市|安永6年3月12日|<死去>伊勢久居藩53000石「藤堂高興」(22歳)⇒養子「藤堂高衡」が継ぐ(⇒天明元(1781)年10月9日、死去)
1777年4月21日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>リワード・カビエ諸島総司令官・総督「ウィリアム・マシュー・ハート」(~17810127没)

1780迄(1631件)

1777年4月30日 00:00|マン島/イギリス| |||<死去>マン島知事「John Wood」
1777年5月5日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Francois Claude Amour du Chariol」(~1783.3)
1777年5月5日-09:00|日本| ||安永6年3月28日|福引きなどの名目をつけた富突興行が禁止される
1777年5月6日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウカウー国王「サンダ・ウイマ2世」篡奪者(~6.5)
1777年5月13日-09:00|日本|東京都江東区|安永6年4月7日|<大相撲>安永6年4月場所[江戸深川八幡宮](~8日間)
優勝(西前3)稲川,6勝0敗1無勝負1休
1777年5月20日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ダゲ・スタニ・アリ・パ・シャ」(2回目~17780724)
1777年5月21日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「アントニオ・ド・ヴァーレ・デ・ソウザ・メネス」(~1781年)
1777年5月22日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミング総督「アルゲート・伯ハート」(~17800307没)
1777年5月25日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ジョージ・オーガスタス・エリオット」(~17900706死去)
1777年5月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永6年4月20日|<初演>「伽羅先代萩」[作・奈河亀輔]大坂中の芝居
1777年5月27日-09:00|日本|静岡県沼津市|安永6年4月21日|<加増移封>三河大浜藩13000石「水野忠友」⇒駿河沼津藩2万石(⇒天明元(1781)年9月18日、5000石加増され25000石)
1777年5月27日-09:00|日本|静岡県牧之原市|安永6年4月21日|<加増>相良藩3万石「田沼意次」⇒37000石(⇒天明1(1781)年7月15日、47000石に加増)
1777年5月31日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Edward Smith」(~1793年)
1777年6月3日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サラメント新植民地ポルトガル総督「Pedro Antonio de Cevallos Cortez Calderon」(2期目~17771122)
1777年6月5日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウカウー国王「サンダ・タ・イタ」篡奪者(~17821201)
1777年6月12日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「デ・イゴ・セルナ・パ・ロ・イ・ガルス・デ・バリアダレス」(2回目~17820212)
1777年6月13日-09:00|日本|愛知県岡崎市|安永6年5月8日|<死去>三河岡崎藩5万石「本多忠肅」(19歳)⇒養子「本多忠典」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年8月26日、死去)
1777年6月13日-09:00|日本|福井県福井市|安永6年5月8日|福井城下神宮寺町から出火,115軒焼失
1777年6月14日 06:00|アメリカ| |||アメリカ,13邦の星条旗が国旗として制定される
1777年6月15日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サント・ヤコブ総督「ジョン・ダリング」(2回目、17780213まで代行~17811125)
1777年6月16日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデラ総督代理「Gaspar Afonso da Costa Brandao(2期目) + Antonio Botelho Guedes + Francisco F. de Sa Cabral」(~9.15)
1777年6月17日 04:30|ペルー/スペイン| |||<就任>スペイン領ペルー総督「Luis de Unzaga y Amezaga」(~9.8)
1777年6月24日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールド・コースト総督「ヨハン・コンラット・フォン・ヘムセン」(~178012020)
1777年6月28日-09:00|日本| ||安永6年5月23日|農民の江戸での奉公稼ぎが禁止に
1777年7月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Francois Claude Amour du Chariol」(~1783.4)
1777年7月2日 06:00|アメリカ| |||バーモント州初の奴隷廃止
1777年7月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ジョージ・ワシントン、民兵を率いてカスカディア占領
1777年7月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍がタコンデローガ要塞を占領
1777年7月8日 06:00|アメリカ| |||ヴァーモント議会、憲法を制定
1777年7月10日-09:00|日本| ||安永6年6月6日|<死去>初代中村弥八(75歳)歌舞伎囃子方、振付師
1777年7月13日-09:00|日本/ロシア|北海道|安永6年6月9日|ロシア船、蝦夷地に到来して松前氏に通商を要求
1777年7月14日-09:00|日本|京都府京都市|安永6年6月10日|<死去>加藤宇万伎(57歳)国学者、歌人/賀茂真淵門弟
1777年7月14日-09:00|日本|静岡県藤枝市|安永6年6月10日|<死去>駿河田中藩4万石「本多正供」(32歳)⇒長男「本多正温」が継ぐ(⇒寛政12(1800)年7月13日、隠居)
1777年7月18日 00:00|イギリス| |||<死去>4代インクウィン伯「ウィリアム・オブ・ライオン」
1777年7月18日 00:00|イギリス| |||<就任>5代インクウィン伯「マロー・オブ・ライオン」(⇒18001229兼初代セント・侯~18080210死去)
1777年7月22日-09:00|日本| ||安永6年6月18日|<死去>初代中村喜代三郎(57歳)歌舞伎役者
1777年7月27日 06:00|アメリカ/フランス| |||ラファエッタフランス義勇軍がアメリカに渡り独立戦争を支援
1777年8月6日 06:00|アメリカ/イギリス| |||リスカニアの戦い/ニュー・ヨーク州中央部ユティカの北西約12kmに位置するモーク川沿岸のリスカニア村でハーキマーの率いるアメリカ軍がイギリス軍を撃破
1777年8月7日-09:00|日本| ||安永6年7月5日|幕府が朱墨、朱砂の私売買を禁じる
1777年8月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ベントンの戦い>ヴァーモント州南西部の町ベントンでイギリス軍が敗退
1777年8月17日-09:00|日本|東京都|安永6年7月15日|<死去>初代中村桑太郎(54歳)歌舞伎役者
1777年8月21日-09:00|日本|茨城県土浦市|安永6年7月19日|<死去>常陸土浦藩95000石「土屋寿直」(17歳)⇒弟「土屋泰直」が継ぐ(⇒寛政2(1790)年5月12日、死去)
1777年8月24日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan Bautista de Anza」(~1788年)
1777年8月30日-05:30|インド| |||<就任>アウトル国統治者「パンツ・プティニティ」「ハラシュム・オ・シュリニガス」(~18480611没)
1777年8月31日 13:00|日本|東京都大島町|安永6年7月29日|<伊豆大島三原山「安永の大噴火」>伊豆大島三原山の山頂火口、同北側と南東側斜面で有史以来の大爆発/多量の熔岩が北東と南西側の海に流れ込み、山麓からも熔岩が流出して農作物に大損害を与える/山頂火口の熔岩は翌年4月までに厚く積もり現在の中央火口丘を形成/

1780迄 (1631件)

噴火は安永8年初めまで続き、最終的に終結したのは寛政4年

- 1777年9月2日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興38年8月|<死去>広南国王「新政王阮福暘」殺害される
- 1777年9月8日 04:00|ガイアナ/ベネズエラ/スペイン/トリニダード・トバゴ| |||ヌエバ・グラタダからベネズエラ総司令部(ヌエバ・アンダールシア、ガイアナ、ベネズエラ県、メリダラリタ、トリニダードを含む)を分離
- 1777年9月8日 04:30|ベネズエラ/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネズエラ総督兼総司令官「Luis de Unzaga y Amezaga」(~17821210)
- 1777年9月8日 05:00|コロンビア/エクアドル/ベネズエラ/スペイン| |||ヌエバ・グラタダ副王領からベネズエラ総司令官を分離
- 1777年9月11日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ブラント・イワンの戦い>ペンシルベニア州ブラント・イワン・クリークで英国軍が大勝。フィラデルフィア占領へ
- 1777年9月15日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Joao Goncalves da Camara Coutinho」(~17811115)
- 1777年9月15日-09:00|日本|茨城県古河市|安永6年8月14日|<死去>下総古河藩7万石「土井利里」(56歳)⇒10月4日、養子「土井利見」が継ぐ(⇒27日、死去)
- 1777年9月19日-02:00|トルコ| |||<死去>カラ・リア公(両シリア王の推定相続人の称号)「インファント・フィリップ」病死
- 1777年9月19日-01:00|イタリヤ| |||<就任>カラ・リア公(両シリア王の推定相続人の称号)「カルロ・フィリップ」の甥(~17781217死去)
- 1777年9月19日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争>大陸軍、フリーマン農場の戦いでバーゴイン軍に打撃。バーゴイン軍は北方に撤退
- 1777年9月19日-07:00|ベトナム| ||安永6年8月18日|<死去>広南国副王「新政王・阮福暘」
- 1777年9月20日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯・ノーリッチ伯「エドワード・ハワード」
- 1777年9月20日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯「チャールズ・ハワード」先代の又従兄弟(~17860831死去)
- 1777年9月20日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:パリの虐殺>イギリス軍指揮官チャールズ・グレイ少将はパリ酒場近くでウェインの宿営地を急襲、ウェインの部隊は逃走、追跡された。ワシントン酒場の近くでは、イギリス軍がモルウェットの部隊に遭遇しこれも蹴散らした/イギリス軍は被害が戦死4名、アメリカ軍戦死53名、71名がイギリス軍の捕虜
- 1777年9月26日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争>英軍、フィラデルフィアを占領(~17780618)
- 1777年9月28日-09:00|日本|茨城県古河市|安永6年8月27日|<死去>下総古河藩7万石「土井利見」⇒12月20日、養子「土井利厚」が継ぐ(⇒文政5(1822)年3月28日、1万石加増され8万石)
- 1777年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ピエール・アントニオ・レオナルド・ツリ」「ジョヴァンニ・アントニオ・マルベリ」
- 1777年10月1日-01:00|赤道ギニア/ポルトガル/スペイン| |||ポルトガルがアンボボン島をサン・イルデフォンソ条約(17771011批准)によりスペインに割譲(17780311にエル・パルト条約(17780324批准)により確認)
- 1777年10月1日 00:00|ポルトガル/スペイン/ブラジル/パラグアイ/ウルグアイ| |||サン・イルデフォンソ条約締結/ウルグアイ、パラグアイはスペインに帰属/内陸部はブラジル領とすることで妥結
- 1777年10月1日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル/スペイン| |||サラメントの新植民地は正式にポルトガルからスペインに割譲
- 1777年10月1日-09:00|日本|京都府京都市左京区|安永6年9月|与謝蕪村が、金福寺に芭蕉庵を再興
- 1777年10月3日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド総督「Jeremias van Riemsdijk」
- 1777年10月4日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督代理「Reinier de Klerk」(⇒17781009総督~17800901死去)
- 1777年10月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ジャーマンタウンの戦い>ペンシルベニア・ジャーマンタウンでワシントンの奇襲作戦失敗
- 1777年10月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ヒームス高地の戦い>バーゴインの敗色が決定的になる/ニューヨークのクリントン将軍は、バーゴイン支援のためにハドソン川を北上、クリントン砦、モンゴメリー砦を攻略
- 1777年10月7日-09:00|日本| ||安永6年9月7日|幕府が、米相場上昇により幕府領の囲い米制を停止し、大名も任意とする
- 1777年10月10日-09:00|日本| ||安永6年9月10日|安房・相模・伊豆で海が溢れ、民家破損多数。溺死者多数
- 1777年10月13日-09:00|日本| ||安永6年9月13日|<死去>沼波弄山(60歳) 陶工
- 1777年10月15日-01:00|スペイン/アルゼンチン/ポルトガル/パラグアイ| |||スペインがリオ・デ・ラ・プラタ副王職を新設、西インド4副王体制に/このほか、チリ、カラス、グアテマラ、サント・ミンゴに総督庁
- 1777年10月15日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/パラグアイ/ウルグアイ/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ副王「ペドロ・アントニオ・デ・セバロ・コルテス・イ・カルデロン」(~17780626)
- 1777年10月15日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永6年9月15日|<就任>大坂城代「牧野越中守貞長」(~天明1. 閏5. 11)
- 1777年10月15日-09:00|日本|京都府京都市|安永6年9月15日|<就任>京都所司代「久世広明」(⇒1781(天明1年閏5月11日))
- 1777年10月17日 00:00|イギリス/アメリカ| |||アメリカ、独立戦争後、サラトガの戦いでイギリス軍が敗北
- 1777年10月20日-09:00|日本|長野県須坂市|安永6年9月20日|<死去>堀直寛(59歳) 前信濃須坂藩主
- 1777年10月29日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長代理「Charles Thomson」(~11. 1) 無所属
- 1777年11月1日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「Henry Laurens」(~17781209) 無所属
- 1777年11月6日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メロ総督「Bernardo de Tortosa」(~1780年)
- 1777年11月12日-09:00|日本| ||安永6年10月13日|身延山久遠寺が火事にあう
- 1777年11月12日-09:00|日本|東京都江東区|安永6年10月13日|<大相撲>安永6年10月場所[江戸深川八幡宮](~8日間) 優勝(西小结) 谷風, 5勝1敗1分1預
- 1777年11月15日 06:00|アメリカ| |||アメリカ大陸会議で「聯合規約」を採択。北米大陸の植民地を聯合してUnited States of Americaと命名

1780迄 (1631件)

1777年11月17日-05:45|ネーデルラント| |||<死去>ネーデルラント国王「シム・フ・ラッパ・シャー・デ・ヴァ」
 1777年11月17日-05:45|ネーデルラント| |||<即位>ネーデルラント国王「ナ・ハ・ハ・ウル・シャー・デ・ヴァ」2歳(〜17990323)、摂政「マハニ・ラジ・エント・ラ・ラジ・ラクシム・デ・ヴァ」(1回目〜17780831)
 1777年11月20日-09:00|日本| ||安永6年10月21日<死去>住吉広守(73歳)画家
 1777年11月22日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サラメント新植民地スペイン軍司令官「Sebastian de Andrade Palomar」(〜1778年)
 1777年11月24日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・デ・イミトリ・モルジ」(〜17820609)
 1777年11月26日-09:00|日本|茨城県古河市|安永6年10月27日<死去>土井利見(20歳)下総古河藩主⇒養子の利厚が継いだ
 1777年12月5日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ダレン・リ・セ・シャ・ト・メフメト・ハ・シャ」(〜17780901)
 1777年12月7日-09:00|日本|岐阜県中津川市|安永6年11月8日<交替>美濃苗木藩10021石「遠山友清」隠居⇒養子「遠山友随」が継ぐ(⇒寛政4(1792)年12月21日、隠居)
 1777年12月7日-09:00|日本|富山県富山市|安永6年11月8日<交替>越中富山藩10万石「前田利与」隠居⇒養子「前田利久」が継ぐ(⇒天明7(1787)年8月7日、死去)
 1777年12月11日-05:30|インド| |||<就任>マラタ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シャジ 2世アッパ・サーヒブ」(〜18080503没)
 1777年12月12日-05:30|インド| |||<就任>ネーデルラント国支配者(サワ)「ハット・モハト・カン」(〜18071230没)
 1777年12月14日-09:00|日本|東京都|安永6年11月15日<死去>2代中村伝九郎(59歳)歌舞伎役者、座元
 1777年12月17日-01:00|フランス/アメリカ| |||フランスのルイ16世が、アメリカが独立国であることを承認
 1777年12月24日 00:00|イギリス/ニュージーランド| |||イギリスの探検家クックが太平洋の小島に到着。クリスマス島と命名
 1777年12月30日-01:00|トイ/オーストリア| |||<死去>バイエルン選帝侯「マクシミリアン3世ヨーゼフ」[1745年生〜](享年32)
 1777年12月30日-01:00|トイ/オーストリア| |||<統合>バイエルン選帝侯「カール4世フィリップ・テオドル」⇒バイエルン選帝侯「カール2世テオドル」(ユリヒ=クレフェス=ベルク連合公・バイエルン=ノイブルク公「カール・フィリップ・テオドル」〜17990216死去)
 1778年-08:00|フィリピン| |||<死去>スール王国スルタン「ムハンマト・Israil」
 1778年-08:00|マレーシア| |||<死去>セランゴール・スルタン「トゥアンク・サラフデ・イン・シャー・イブニ・アルマルフム・ヤムトゥアン・ムタ・タ・イン・チェラク」
 1778年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Jacob Roeland Thomaszen」(〜1780年死去)
 1778年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマト・Azimuddin2世」(〜1789年)
 1778年-08:00|マレーシア| |||<即位>セランゴール・スルタン「トゥアンク・イブラヒム・シャー・イブニ・アルマルフム・スルタン・サラフデ・イン・シャー」(〜18261027没)
 1778年-08:00|ブルネイ| |||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマト・タジユティン」(〜1807年)
 1778年-07:00|ラオス/タイ| |||シャムがビルン王国を侵略しラングラーン王国を属国化(〜1780年)
 1778年-07:00|ラオス/タイ| |||チャンパーサクはタイの家臣状態(〜19040919)
 1778年-05:30|インド/アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン・カシミール総督「ハジ・カリムタット・カン」(〜1783年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>ウァドラー太守フター・シグ・ラーオ・ガークワート(〜17891226死去)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>カッチ国統治者(ミルザ・マハオ)「ラヤタンジ 3世」(1回目〜1786年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>サンバルプーール国ラジャ「ハルハト・ラ・サイ」(〜1782年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>タルチャー国ラジャ「バギラティ・ヒラール・ハリヤンタン」(〜1846年没)、摂政「ウイグ・ネスワール・ライグル」
 1778年-05:30|インド| |||<就任>タミル国統治者(ラ)「ダレ・シン」(〜1803年没)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>チャンドリ国ラジャ「ラム・チャント」(〜1802年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「ラクシュミカンタ・マルターラジ・ハリヤンタン」(〜1780年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>パガル国統治者(ラ)「ジャガット・シン」(1回目〜1803年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>パル・ラハ国ラジャ「ムニ・パル」(〜1783年)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>ヒラフル国ラジャ「モハン・チャント」(〜1824年没)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>マイハル国統治者(タークル)「ヘニ・シン」建国(〜1788年没)
 1778年-05:30|インド| |||<就任>ワトワン国統治者(タル・サーヒブ)「フリタラジ・チャントランジ」(〜1807年没)
 1778年-05:30|インド| |||<即位>ゴワ・スルタン「I Manawari Karaeng Bontolangkasa」(〜1810年)
 1778年-05:00|パキスタン| |||<就任>チタル国統治者(ミフタル)「モハト・モータラム・シャー2世」(1回目〜1788年)
 1778年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ガンジヤ汗国ハーン「ムハンマト・ハーン」(〜1780年)
 1778年-04:00|ジョージア| |||<就任>ゲリア公「ギオルギ 5世」(3回目〜1788年)
 1778年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>マク汗国ハーン「ホセイ・カン・ハヤット」(〜1822年)
 1778年-03:30|イラン| |||<就任>カンガリ汗国カン「ハッサン・ハーン・カンガリ」(〜1822年)
 1778年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「ハサン・ハ・シャ」(〜1780年)
 1778年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのメッサリフ「ヌマン・ベイ」(〜1779年)
 1778年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレppo・ワリス(総督)「Cerkes Hasan Pasha」(〜同年)⇒「Asaf Mehmed Pasha」(2期目〜1779年)
 1778年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ・ワリス(総督)「ウエール・ハ・シャ」(〜1780年)
 1778年-02:00|南アフリカ/オランダ| |||ケープ植民地とコサ人との境界を、フィッシュ川に設定
 1778年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「アフメト・クルト・ハ・シャ」(〜1787年死去)
 1778年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲメルト司令官「クレメンス・アウグスト男爵バン・フレッテンベルク」(〜1794年)
 1778年-01:00|トイ| |||<就任>ヘッセン=ローテンブルク方伯カール・エマヌエル(〜1806年ウエストファーレン王国に併合)
 1778年-01:00|トイ| |||<就任>ロイス=グライツ侯「ハインリヒ11世」(〜18000628死去)

1780迄 (1631件)

1778年-01:00|アルジェリア| |||<即位>トゥゲルト・スルタン「アブド・アル=カデイル2世」(~1782年)
 1778年-01:00|イタリア| |||<即位>ピオビノ公「Antonio」(~1799年, フランス軍により退位させられる)
 1778年-01:00|クロアチア| |||<即位>ホレツァ大公「アントリヤ・ハリッチ」(~1783年)
 1778年-01:00|スペイン/チリ| |||ペル副王領からはなれ, 刊総督領となる
 1778年 03:00|ウグアイ/スペイン| |||<就任>サラメント新植民地スペイン軍司令官「Pedro Amores」(~11. 30)
 1778年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>サバ島副司令官「Thomas Dinzey」(1期目~1781年)
 1778年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官代理「Pieter Runnels」(~1780年)
 1778年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ジェロニモ・マヌエル・デ・レダス・モリス」(1回目)
 =>「アグスティン・フェルナンド・デ・ビネト・イ・フェルナンデス・デ・バルデビエソ」(~17800702没)
 1778年 05:00|タークス・カイコス諸島/フランス| |||タークス・カイコス諸島をフランスが占領
 1778年 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケック植民地総督「フレデリック・ハルデイマント」(~1786年)
 1778年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第8代総督「アーチボルド・キャンベル」(~1779年)
 1778年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「ドミンゴ・カペロ・イ・ロブレ」(~1786年)
 1778年 10:00|ボリビア/フランス| |||<死去>ボリビア統治者「Te ari`i maeva rua1世」
 1778年 10:00|ボリビア/フランス| |||<就任>ボリビア統治者「Te ari`i noho ra`i Tapoa1世」(~1812年死去)
 1778年1月3日-09:00|日本|新潟県新発田市|安永6年12月5日|新発田藩, 新講堂竣工
 1778年1月6日-05:30|インド| |||<就任>ウダipur国統治者(マハラ)「ヒム・シン」(~18280330没)
 1778年1月10日-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンの植物学者リネ没(17070523~) 19日説植物の分類法について研究
 1778年1月13日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|安永6年12月15日|伊予国吉田町大火, 270軒余を焼く
 1778年1月15日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリアがババイエルンのファルツ選帝侯に南バイエルンを割譲させる協定を結ぶ
 1778年1月17日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永6年12月19日|大阪天満で5000余世帯類焼. 大坂天満宮・川崎東照宮類焼
 1778年1月18日 10:00|ハワイ/イギリス| |||キャプテン・クックがハワイ諸島オアフ島を発見
 1778年1月20日 10:00|ハワイ/イギリス| |||キャプテン・クックがハワイ諸島カウアイ島を発見
 1778年1月24日-01:00|フランス| |||<就任>ベリ公「シャルル・フェルディナント」アルトリバシャル(シャル10世)の子(~18200214死去)
 1778年1月26日 05:00|パナマ/アメリカ| |||U. S. S. フロリダのジョン・ラスベーン大尉の下, ナッソー砦をアメリカが短期間占領(~29日)
 1778年1月28日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督代行「アルビニャック・ダール男爵イ・アレクサンドル・ダールビニャック」(~同年)
 1778年1月28日-07:00|ベトナム| ||大越・泰徳1年1月|<即位>西山朝(大越) 歸仁朝廷国王「泰徳帝阮岳」(~1793. 10死去) 建国, 首都をビンディンのドンパンに定め泰徳と改元(~1788年)
 1778年2月1日-09:00|日本|長崎県対馬市|安永7年1月5日|<死去>対馬府中藩22800石「宗義暢」(38歳) =>3月7日, 四男「宗義功」が継ぐ(=>天明5(1785)年7月8日, 死去)
 1778年2月6日-01:00|フランス/アメリカ| |||アメリカのベンジャミン・フランクリン(72)とフランス外相シャルル・ダヴルグ(61)の間で, アメリカ・フランス間の和親通商条約と同盟条約が成立
 1778年2月9日-01:00|セルビア/トルコ| |||セルビア人の反乱(コチャのクラジナの反乱~9. 7)
 1778年2月12日-09:00|日本|東京都中央区|安永7年1月16日|<初演>人形浄瑠璃「揚屋」江戸外記座
 1778年3月5日-09:00|日本|広島県広島市|安永7年2月7日|仁保島大河浦出火, 165軒焼失
 1778年3月6日-09:00|日本|京都府京都市|安永7年2月8日|<就任>関白「九条尚実」(~安永8年10月29日散官)
 1778年3月7日-09:00|日本|岡山県高梁市|安永7年2月9日|<死去>備中松山藩5万石「板倉勝從」(29歳) =>22日, 弟「板倉勝政」が継ぐ(=>享和元(1801)年3月8日, 隠居)
 1778年3月10日-09:00|日本|東京都|安永7年2月12日|日本橋より出火し, 大火となり, とくに佃島に大きな被害がでる
 1778年3月11日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル/スペイン| |||アノ・ボムとフェルナント・ホーはポルトガルからスペインに割譲
 1778年3月23日-09:00|日本|東京都|安永7年2月25日|<死去>4代市川團十郎(68歳, 1711年生) 歌舞伎役者(2代松本幸四郎, 3代市川海老蔵)
 1778年3月23日-09:00|日本|奈良県奈良市|安永7年2月25日|<交替>大和芝村藩1万石「織田輔宜」隠居 =>弟「織田長教」が継ぐ(=>寛政7(1795)年4月26日, 隠居)
 1778年3月28日-05:30|インド| |||<死去>パトナール国マハラジャ「ケシュリ・シン」
 1778年3月28日-05:30|インド| |||<即位>パトナール国マハラジャ「ランジット・シン」(~18051206)
 1778年3月29日 06:00|カナダ/イギリス| |||クックがカナダのヌートカサントに到達
 1778年4月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>クリミア・ロシア司令官「Aleksandr Vasilyevich Suvorov」(2期目~1779. 6)
 1778年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「バルタザール・レ・ジャンギ」 「フランチェスコ・アントニオ・ガザーリ」(在職中死去) =>アレクサンドロ・マルテッリ
 1778年4月16日-05:30|インド| |||<即位>ジャイプール国マハラジャ「サイ・プラタプ・シン」(~18030801没)
 1778年4月19日-09:00|日本|福井県坂井市|安永7年3月22日|<越前三国湊安永7年の大火>午の刻(午前12時ごろ) 過ぎ, 上新町三番丁のおけやの家から出火, 上(竹田川の上流: 東側)は玉井町から下(同川の下流: 西側)は木場町までの間, 上/上西辺(上流の上西町あたり)と上八町の北の方を一部残しただけで, 総数1283軒を焼失, 湊で残ったのは四日市と岩崎, 玉井の一部110数軒という, 全体の9割以上が焦土と化した
 1778年4月24日-09:00|日本|東京都江東区|安永7年3月27日|<大相撲>安永7年3月場所[江戸深川八幡宮] (~10日間) 優勝(西関脇) 谷風, 9勝0敗1休
 1778年4月28日-09:00|日本|徳島県阿南市|安永7年4月2日|<死去>平島公方「平島義宜」 =>次男「足利義根」が継ぐ(

1780迄(1631件)

⇒文化2(1805)年に京都へ移る⇒文政9年10月8日(18261107)、死去)

1778年4月30日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「フィゲイロ伯ルイス・デ・ウァスコンセロス・エ・スザ」(~17900509)

1778年5月6日-09:00|日本|岩手県盛岡市|安永7年4月10日|<盛岡安永7年の大火>八つ時(14時)過ぎ、城下夕顔瀬片原丁の町家から出火、下台の中居孫右衛門宅に飛び火し、そこから梨子木丁に延焼、上田町赤川、田町、長町、帷子丁、久慈町、材木町を灰とし、さらに大仁王丁、新山堂、平山丁、仁王新丁、三戸丁の裏丁の町々を焼失させた/さらに四ツ屋町から大工町、八日町、本町、油丁を焼き尽くした上、中津川を飛び越え、外加賀野御持筒丁を焼き同川に沿ってさらに北上、山岸組丁、永福寺門前通りと延び、外加賀野組丁、御持筒丁、春木場、浅岸水道口から炎は飛んで浅岸山で山火事を起こしようやく鎮火/焼失数は、町家1594軒、百姓家206軒、諸士家376軒、足軽家190軒、長柄家(長柄組の土屋敷)49軒、小者の家1軒。寺院21か所、修験堂15軒、以上合計2452軒。そのほか城の仕切門75棟、惣門4棟/主な焼失建物は、寺院では東願寺、本誓寺、清養院、龍谷寺、中台院、法明院、高水寺、妙泉寺の大日堂など/そのほか田中百姓家、円子条右衛門宅、下小路丁稲荷御薬園などが焼けた

1778年5月11日 00:00|イギリス| |||<死去>初代チャーム伯「ウィリアム・ピット」

1778年5月11日 00:00|イギリス| |||<就任>2代チャーム伯「ジョージ・ピット」(~18350924死去)

1778年5月30日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの代表的啓蒙思想家ヴァルテール(フランソワ=マリ=アルエ) (1712-、83歳)/主著は「十八世紀の世紀」、「カンテート」など/宗教と宗教家の不合理と偽善を批判(カトリック教会を批判)した

1778年5月31日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|安永7年5月6日|<交替>近江水口藩25000石「加藤明堯」隠居⇒養子「加藤明陳」が継ぐ(⇒寛政11(1799)年9月6日、隠居)

1778年6月6日-02:00|ルーマニア/ハンガリー| |||バナーはハンガリーに編入(1779年発効)

1778年6月11日-01:00|イタリア| |||<初演>ニコ・ヴェーバー・ピッツニ《歌劇「いつわりのふたご」》

1778年6月18日-01:00|オーストリア| |||<初演>ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト《交響曲第31番ニ長調“Paris”》

1778年6月19日-09:00|日本|石川県加賀市|安永7年5月25日|<交替>加賀大聖寺藩7万石「前田利道」隠居⇒次男「前田利精」が継ぐ(⇒天明2(1782)年8月21日、強制隠居)

1778年6月25日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「セルベリ・イ・バルロス」(1回目~17800723)

1778年6月26日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/パラグアイ/ウルグアイ/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ副王「ファン・セルベリ・デ・ベルティス・サルセド」(~17840307)

1778年6月28日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:モンマス战役>大陸軍がイギリス軍を破る

1778年7月-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督「セルバスコ」(~17870922)

1778年7月-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ギヨーム・レオナルド・ベルコム」(2度目~10.18)

1778年7月 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「モンフォール・ブライアン」(2回目~17800328)

1778年7月2日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの代表的啓蒙思想家ジャン=ジャック・ルソー(1712-、66歳)/死後、自伝的作品「告白録」が刊行される

1778年7月3日-01:00|チェコ/ドイツ/スロバキア| |||プロシヤ王フリードリッヒ2世がポーランドに侵入し、ポーランド継承戦争が勃発(~179.5.13)

1778年7月3日 00:00|イギリス| |||<死去>15代エドワード「ジョージ・ヘイ」

1778年7月3日 00:00|イギリス| |||<就任>16代エドワード「ジョージ・ヘイ」(~17980614死去)

1778年7月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:ワイオミングの戦い>英国軍部隊が愛国者軍に勝利、イロコイ族虐殺有り

1778年7月3日-09:00|日本/ロシア|北海道厚岸郡厚岸町|安永7年6月9日|ロシア船が蝦夷地の厚岸に来航し松前氏に通商を要求

1778年7月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||ジョージ・クラーク、民兵を率いてカスカディア占領

1778年7月10日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||イギリス軍がフランス領チェンジャナゴールを占領

1778年7月10日-01:00|フランス/イギリス| |||フランスがイギリスに宣戦布告

1778年7月17日-09:00|日本|岡山県倉敷市|安永7年6月23日|<死去>備中岡田藩10343石「伊東長詮」(43歳)⇒長男「伊東長寛」が継ぐ(⇒嘉永3(1850)年6月11日、死去)

1778年7月17日-09:00|日本|福島県いわき市|安永7年6月23日|<死去>陸奥湯長谷藩15000石「内藤貞幹」(33歳)⇒次男「内藤政広」が継ぐ(⇒天明7(1787)年9月13日、18歳で死去)

1778年7月24日-01:00|ボスニア=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「シラファール=メフメト・パシャ」(3回目~17791021)

1778年7月24日-09:00|日本|京都府|安永7年7月1日|<安永7年京都一円豪雨>比叡山が雷混じりの豪雨によってがけ崩れを起こし、泥流ががけ下の人家を襲い、家は崩潰し600余人が死亡

1778年7月25日 04:00|トニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トニカ総督代行「ウィリアム・スチュワート」(2回目~9.7)

1778年7月25日-09:00|日本|京都府京都市|安永7年7月2日|<安永7年京都一円豪雨>京都大雨で洛中洛外の川々出水/淀大橋破損、道橋破損、家流れ堤・川除破損/加茂川洪水、三条通りの石橋破損/洪水の被害は皇居築地辺、堂上(昇殿する資格のある公家)方の殿舎、門、堀多く崩れる

1778年8月3日-01:00|イタリア| |||ジュゼッペ・ピエルマリニ(44)が建築したミラノのスカラ座がオープン

1778年8月11日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||イギリス軍がフランス領カリカルを占領

1778年8月12日 00:00|イギリス| |||<死去>3代アンカスター=ケステイヴァン公・第6代リンジー=伯「ヘンリー・リンバート」

1778年8月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>アーレンベルク公「カール=マリア=ライムント」

1778年8月17日-01:00|ドイツ| |||<即位>アーレンベルク公「ルートヴィヒ=エンゲルベルト」(~18200307死去)

1778年8月18日 00:00|セネガル/イギリス| |||<就任>イギリス領セネガル副総督代行「ジョージ・フォール」(2回目~17790211)

1778年8月23日-09:00|日本|福岡県大牟田市|安永7年閏7月2日|<死去>立花長熙(59歳)前筑後三池藩主

1778年8月26日-09:00|日本| |||安永7年閏7月5日|<死去>有賀長因(67歳)歌人

1780迄 (1631件)

1778年8月29日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||米仏共同によるニューポート奪回作戦失敗に終わる
 1778年9月-01:00|フランス/イギリス/トミカ共和国| |||フランス海軍がトミカ奪取
 1778年9月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「カラファット・メフメト・パシャ」(~17790821)
 1778年9月2日-05:45|ネパール| |||<就任>ネパール摂政「バハドール・シャ」(1回目~17790620)
 1778年9月8日 04:00|トミカ国/フランス| |||<就任>フランス領トミカ総督「チロ侯爵マリー・シャルル」(~1780年)
 1778年9月8日 04:00|トミカ国/フランス| |||フランスがトミカ支配(~17840110)
 1778年9月14日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島イギリス司令官「John Evans」(~10. 1 1)
 1778年9月14日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス| |||サンピエール島・ミクロン島をイギリスが占領、島民は強制送還される(島はニューファンドランドによって管理)
 1778年9月18日 14:00|日本|熊本県熊本市|安永7年閏7月28日|<熊本安永7年の大火>夜四ツ半(23時)ごろ、極楽寺丁の大河原治郎進の長屋から出火、千反畑から草葉丁、通丁、藪ノ内と次々と延焼、手取から藩の御厩飼料所などにも燃え移り、高田原、鷹匠小路一円を灰にし、御花畑までもに炎が広がった/また外坪井、坪井広丁、六間町後通、歩小路、一本竹、水道丁、御駕町、水道屋敷、白川橋にも類焼し一面灰にした/飛び火で世継宮にも延焼し、翌朝七つ半(午前5時ごろ)、宝町で鎮火/被害は、御中小姓以上の侍屋敷353軒、御切米取(所領がない給料侍)の住家451軒、足軽以下の侍の住家884軒、町家93軒、寺社13か所、蔵8棟、4人死亡
 1778年9月23日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「ムハンマド・シワザイタル・アジリン・ムアッザム・シャー2世」(イブニ・アル=マルフム・スルタン・アブドゥラ=ムアッザム・シャー)
 1778年9月23日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「アブドゥッラー・ムカラム・シャー3世」(イブニ・アル=マルフム・スルタン・ムハンマド・シワザイタル・アジリン・ムアッザム・シャー)(~17970901没)
 1778年10月 06:00|ニカラガ/イギリス| |||<中断>モスクート王国がイギリス人によって中断(~1779年11月)
 1778年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンパツティスタ・ボネリ」(ピエール・フランチェスコ・メロニ)
 1778年10月1日 00:00|イギリス| |||<死去>5代フェーズ・伯「ウinton・シャーリー」
 1778年10月1日 00:00|イギリス| |||<就任>6代フェーズ・伯「ロバート・シャーリー」(~17870418死去)
 1778年10月3日-02:00|ラトビア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リトアニア総督「カスパー・ロザリンスキ」(~17881101没)
 1778年10月11日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島イギリス司令官「Robert Linzee」(~同月)
 1778年10月12日-01:00|スペイン| |||スペインが自由貿易勅令を発布
 1778年10月18日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||イギリス軍がフランス領プーオンデ・イシエリを占領(~17850201)
 1778年10月22日 00:00|イギリス| |||<死去>3代クインズベリー公・4代クインズベリー侯「チャールズ・ダグラス」
 1778年10月22日 00:00|イギリス| |||<就任>4代クインズベリー公「ウィリアム・ダグラス」(~18101223死去)
 1778年10月24日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナント・ホー総督「アルジェル伯爵フェリペ・デ・ロス・サントストロ・イ・フレール」(スペインがフェルナント・ホーを占領(~11. 14))
 1778年10月31日 00:00|イギリス| |||<死去>8代ダント・ハルト・伯「トマス・コラン」
 1778年10月31日 00:00|イギリス| |||<就任>9代ダント・ハルト・伯「アーチボルド・コラン」先代の息子(~18310701死去)
 1778年11月14日-01:00|赤道ギニア/スペイン| |||<就任>フェルナント・ホー総督「ホセ・フアン・デ・リベラ・イ・ペレス・デ・アカル」(~17811230)
 1778年11月28日-09:00|日本|広島県|安永7年10月10日|<安永7年安芸国暴风雨>広島城下の大半が洪水により浸水/広島藩内で12人が死亡、家屋全潰・流失1871戸、同損潰5132戸、田畑の損害は同藩の公表石高の約5割、21万3578石余、堤防の決壊5万2070間余(約95km)、森林の倒木6939本
 1778年11月29日 05:00|エクアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領ギブタル総督・総司令官・大審問院長「ルイス・ガリテ・レオン・イ・ビサロ」(~17841116)
 1778年11月29日-09:00|日本| ||安永7年10月11日|幕府が盲人および処士らの高利貸しを禁じる
 1778年11月30日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サラメント新植民地スペイン軍司令官「Vicente Jimenez」(~1780年)
 1778年12月-04:00|セイシェル/フランス| |||<就任>フランス領セイシェル司令官「シャルル・ルティエド・ロマンヴィル」(~1781年)
 1778年12月 04:00|セントシア/フランス/イギリス| |||イギリス海軍がフランス領のセントシア奪取
 1778年12月10日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「John Jay」(~17790928)無所属
 1778年12月17日-01:00|イタリア| |||<死去>カラブリア公(両シチリア王の推定相続人の称号)「カルロ」
 1778年12月17日-01:00|イタリア| |||<即位>カラブリア公(両シチリア王の推定相続人の称号)「フランシス1世」(~18250104)
 1778年12月25日-03:30|イラン| |||イラン西北部で地震(M6. 2)死者8000人
 1778年12月25日-09:00|日本|東京都江東区|安永7年11月7日|<大相撲>安永7年11月場所[江戸深川八幡宮](~10日間)優勝(東前3)笹ヶ嶋、8勝0敗1無勝負1休
 1778年12月28日 04:00|セントシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントシア副総督「ジェームズ・ケラント」(~17790801)
 1778年12月29日 06:00|アメリカ/イギリス| |||イギリス軍が、ジョージアの首都サヴァナを占領
 1778年12月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン=ローテンブルク方伯「コンスタンティン」
 1778年12月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン=ローテンブルク方伯「カール・エマヌエル」(~1806年ヴュースターレン王国に併合)
 1778年12月31日-01:00|イタリア| |||<死去>グエネツィア共和国ドージェ(元首)「アルヴィンセ・モチニゴ4世」
 1778年12月31日-09:00|日本| ||安永7年11月13日|<死去>吉分大魯(不明)俳人
 1779年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「ロレンソ・デ・フリート・コレイア」(~1782年)
 1779年-08:00|インドネシア| |||<即位>ティモール・スルタン「Gayjira」(摂政~1780年)
 1779年-07:00|ラオス/タイ| |||<即位>グエンチャン王「タイ総督フラー・スパー」(~1780年没)
 1779年-07:00|ラオス| |||<即位>シェンクアーン王「ソウ・フォー」(~1803年)

1780迄 (1631件)

1779年-05:30|インド| |||<就任>サルタラト 国統治者(カーン・サーヒブ)「ムフティヤルハンジ・シェルジヤマハンジ」(~1813年没)

1779年-05:30|インド| |||<就任>ハムラ国ラジヤ「アルジュン・デブ」(~1819年)

1779年-05:30|インド| |||<就任>ハロダ 国摂政「マナジ・ラオ・ゲークワール」(~1792年)

1779年-05:30|インド| |||<就任>パントヴァのギタト 地域からサルタラト 国創設

1779年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒグア・ハン国第47代ハン「アブル・ファイズ」

1779年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<復位>ヒグア・ハン国第48代ハン「ヤーティガール2世」(2期目~1781年)

1779年-04:00|ジョージア| |||<就任>アブハジア公「ケレシュ」(~18080514没)

1779年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのムッサラフ「フユック・スレイマン・パシャ」(2回目~1780年)

1779年-03:00|エチオピア| |||<即位>アサ・スルタン国スルタン「イジュタ・ヒス・イブン・ケタフ・ムハンマド」(~1801年)

1779年-03:00|ケニア| |||<即位>パテ・スルタン国スルタン「Fumo Madi ibn Abi Bakr, Mfalume」(~1809年)

1779年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Ahmed Izzet Pasha」(2期目~1780年)

1779年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ 王国マニコ「アルファ11世」

1779年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「メフメト・アシフ・パシャ」(2度目~1781年)

1779年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコ「ジョセフ1世」(~1785年没)

1779年-01:00|ニジェール| |||<即位>ソンガイ帝国皇帝「ハルガニ」(~1793年)

1779年 00:00|イギリス| |||<就任>クロフトンがミュール紡績機を製作

1779年 00:00|シエラレオネ/フランス/イギリス| |||フランスがブンス島のイギリスの城砦を攻撃

1779年 04:00|アンティグア・バブー・グーダ| |||<就任>アンティグア大統領「エドワード・オットー・ベイヤー」

1779年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「John Dotin」(1期目~1780年)

1779年 04:00|トニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「イシドロ・デ・ペラルタ・イ・ロハス」(~17850926没)

1779年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第9代総督(暫定総督)「ジャック・マカス・フレイグスト」(~同年)⇒第10代総督「ジェームズ・ライト」(~1782年)

1779年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマカア県暫定総督「フランシスコ・アイバ」(~1783年)

1779年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「ホセ・デ・エスタレリア」(~1783年)

1779年 06:00|グアテマラ/イギリス| |||英軍はモテを占領。英国の支援を受けたモスキート族がマティケをふたたび征服

1779年 10:00|ホリネシア/フランス| |||<就任>ケアトニウ「Keatonui」(~1818年死去)

1779年1月 04:00|サン・マルタン/イギリス| |||<就任>フランス領サン・マルタン副王「John Fahie」イギリス司令官(~2. 24)

1779年1月6日-01:00|スペイン| |||<死去>14代メデイナ・シドニア公「ペドロ・デ・アルカンタラ・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・ロハス=パチエロ」

1779年1月6日-01:00|スペイン| |||<就任>15代メデイナ・シドニア公「ホセ・アルバレス・デ・トレド・オリオ・イ・ゴンサガ」(~17960609死去)先代の従兄弟の子

1779年1月14日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「パオロ・レニエール」(~17890213死去)

1779年1月17日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>東インド 諸島(トランケバル)デンマーク領総督「ギュベーン」 「ピーター・ヘルマン・アベスティー」(2度目~17880517)

1779年1月19日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|安永7年11月|<死去>大和高取藩20500石「植村家久」(27歳)⇒翌年、弟「植村家利」が継ぐ(⇒天明5(1785)年8月24日、死去)

1779年1月23日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ライフ・イスマイル・パシャ」(1度目~9月)

1779年1月30日-01:00|イタリア| |||ベネツィアで貴族青年育成のため、アッカデミア・ファルセツィ(後にエリツォ)誕生

1779年1月30日 00:00|セカール/フランス| |||セカールをフランスを奪還

1779年2月11日 00:00|セカール/フランス| |||<就任>フランス領セカール総督「ドゥ・ローズン公爵アルマン・ルイ・ド・ゴントー・ビロン」(~3月)

1779年2月11日 00:00|カンピア/フランス/イギリス| |||イギリス植民地サルイをフランスが占領、フランス領セカールの一部(~17830903)

1779年2月14日 00:00|イギリス/アメリカ| |||イギリスの探検家キャプテン・クックがハワイ島民と衝突し死去/50歳(誕生:17281028)

1779年2月16日-09:00|日本|長野県飯田市|安永8年|<交替>信濃飯田藩2万石「堀親長」隠居⇒長男「堀親忠」が継ぐ(⇒天明4年6月29日(17840814)死去)

1779年2月16日-08:00|中国| ||清・乾隆44年|<死去>ハミ郡ハーン「イシャク」

1779年2月16日-08:00|中国| ||清・乾隆44年|<即位>ハミ郡ハーン「アルダ・シール」(~1813年、死去)

1779年2月24日 04:00|セント・マルティン/フランス| |||フランスがセント・マルティン島のオランダ 領域を占領(~17810205)

1779年2月27日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「ヘルナル・テシエ」(~17830923)

1779年3月 00:00|セカール/フランス| |||<就任>フランス領セカール総督代行「ジャック・ジョセフ・エイリ」(~17810307)

1779年3月-05:30|インド| |||マイソール王国の首席大臣ハイダル・アリーはチトラウルガ・ナヤカ朝を滅ぼした

1779年3月1日-03:30|イラン| |||<死去>ザンド 朝シャー(創始者)「カリム・ハーン」首都シーラーズで/80歳(誕生1699年)

1779年3月3日-01:00|イタリア| |||ベネツィアで領内に公益質屋

1779年3月3日 00:00|イギリス/アメリカ| |||ジョン・アシュ率いる米軍、ブライア・クリークの戦いでイギリス軍に大敗

1779年3月4日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドーージェ「ジャコモ・マリア・フリノーレ」(~17810304)

1779年3月6日-03:30|イラン| |||<就任>ザンド 朝大宰相「モハンマド・サキ・カーン・ザント」(~6. 13)

1779年3月6日-03:30|イラン| |||<即位>ザンド 朝ワキル・アル＝ラーヤ(民衆保護者)「モハンマド・アリ・カーン・ザント」(~6. 19没)、「アボル＝ファス・カーン・ザント」(~8. 22)

1779年3月7日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯・バークシャー伯「ヘンリー・ハワード」

1779年3月11日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||イギリス軍がフランス領マヘを占領

1779年3月18日-09:00|日本| ||安永8年春|<刊行>長久保赤水「改正日本輿地路程全図」

1780迄 (1631件)

1779年3月26日-09:00|日本| ||安永8年2月9日|<死去>河野怒斎 (38歳) 儒学者、漢詩人
 1779年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ゴジ」 「アンジエロ・オルトラニ」
 1779年4月1日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ハントン伯「ウィリアム・スタンホープ」
 1779年4月1日 00:00|イギリス| ||<就任>3代ハントン伯「チャールズ・スタンホープ」先代の息子 (~18290905死去)
 1779年4月4日 06:00|グアテマラ/スペイン| ||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「マティアス・デ・ガルベス・イ・ガヤルド・マドリド・イ・カブレラ」 (5. 14まで代行~17830403)
 1779年4月9日 07:00|メキシコ/スペイン| ||<就任>ヌエバ・イスパニア副王「フランシスコ・ロマー・イ・ロセル (アウグスティンシア大統領)」 (~8. 23)
 1779年4月12日-01:00|フランス/スペイン| ||スペインとフランスがアランフェス秘密条約を結ぶ/アメリカ独立戦争にスペインが参加し成功したときの特権を約束したもの
 1779年4月28日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| ||<就任>マスカリン諸島総督代行「サン・モリス伯ジョセフ・ビジヤール・ド・ムリネ」 (~30日)
 1779年5月1日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| ||<就任>マスカリン諸島総督「スイヤック子爵フランソワ・ド・ペイニエ」 (17800130まで代行~17871103)
 1779年5月2日-09:00|日本|東京都江東区|安永8年3月16日|<大相撲>安永8年3月場所[江戸深川八幡宮] (~10日間) 優勝 (西関脇) 谷風, 9勝0敗1休、18連勝 (前場所は全休)
 1779年5月6日-09:00|日本|山形県上山市|安永8年3月20日|<死去>松平長恒 (64歳) 元出羽上山藩主
 1779年5月8日 00:00|セネガル/イギリス| ||ゴレ島をイギリスが占領 (~17830903、正式にフランスに割譲)
 1779年5月13日-01:00|ドイツ| ||<死去>ロイス=エーベルストルフ伯「Heinrich24世」
 1779年5月13日-01:00|ドイツ| ||<就任>ロイス=エーベルストルフ伯「Heinrich51世」 (⇒1806年ロイス=エーベルストルフ侯~1822年)
 1779年5月13日-01:00|チエコ/ドイツ/オーストリア| ||シュレージエンのテッセンでプロシヤ継承戦争終結のための条約をオーストリアとプロシヤ王国が締結。プロシヤはポメラニアをあきらめる
 1779年5月18日-01:00|オーストリア| ||<初演>クリストフ・ウーリバルト・グリュック《歌劇「タリスのイフィゲニア」》
 1779年5月20日 00:00|カリブ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Joaquin Jose Ibanez Cuevas Valero de Bernabe」 (~1784年)
 1779年5月25日-04:00|レユニオン/フランス| ||<就任>ブルボン島知事代理「Joseph Bigeard de Murinais」 (~17810822)
 1779年5月26日-05:30|インド/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領インド総督「フェデリコ・ギリエルメ・デ・スーザ」 (~17861103)
 1779年5月27日-05:30|インド| ||マイソール王国の首席大臣ハイダル・アリーはカダバのワープを滅ぼす
 1779年5月29日 00:00|イギリス| ||<死去>ラトラント公「ジョン・マース」
 1779年5月29日 00:00|イギリス| ||<就任>ラトラント公「チャールズ・マース」先代の孫 (~17871024死去)
 1779年5月31日-09:00|日本|東京都千代田区|安永8年4月16日|<就任>老中格「阿部正允」 (~安永9年7月6日)
 1779年6月4日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「暫定政権 (ジョアン・ノゲイラ・ダ・クルス) 修道士/デ・イコ・ケレロ・デ・アボイム/ベトロ・ダ・コスタ・ソアレス」 (~17790825)
 1779年6月13日-03:30|イラン| ||<就任>ザンド朝大宰相「モハンマド・サデク・カーン・ザント」 (~8月)
 1779年6月13日-09:00|日本|長崎県平戸市|安永8年4月29日|<死去>松浦誠信 (68歳) 前肥前平戸藩主
 1779年6月14日-09:00|日本|京都府京都市|安永8年5月|心学の普及者手島堵庵が京都に時習舎を開く
 1779年6月16日 04:00|セントビンセント/フランス| ||<就任>フランス領セントビンセント総督「シャル・マリー・ド・トロロン・デュルマン」フランス軍司令官 (~21日)
 1779年6月16日 04:00|セントビンセント/フランス/イギリス| ||フランス海軍がセントヴィンセント奪取 (~17840101)
 1779年6月19日-03:30|イラン| ||<死去>ザンド朝ワキル・アル=ラーヤ (民衆保護者) 「モハンマド・アリ・カーン・ザント」
 1779年6月19日 06:00|アメリカ/イギリス| ||ストフェリーの戦いで英軍、ベンジャミン・リンカン率いる米軍を撃退
 1779年6月20日-05:45|ネパール| ||<就任>ネパール摂政「マハナ・ラジエントラ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ」 (2回目~17850713)
 1779年6月21日-01:00|スペイン/イギリス| ||アメリカ独立戦争、スペイン、米西同盟にもとづきイギリスに対し宣戦布告。オランダもこれに続く
 1779年6月21日 04:00|セントビンセント/フランス| ||<就任>フランス領セントビンセント総督「シロ侯爵マリー・シャル」 (~同年) ⇒ 「アントワヌ・デュモン」 (~1780年12月)
 1779年7月 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ総督「Joao Manuel da Azambuja」 (~1782年死去)
 1779年7月2日-09:00|日本|北海道茅部郡|安永8年5月19日|松前藩茅部で一揆が起こる
 1779年7月5日 04:00|グレナダ/セントビンセント/セントルシア/イギリス| ||<就任>南カリブ海諸島内外総督代理「ジョン・クラム」 (~17800223)
 1779年7月6日 04:00|グレナダ/フランス| ||<就任>グレナダ総督「デュラ伯ジャン=フランソワ」 (~1784年1月)
 1779年7月6日 04:00|グレナダ/フランス/イギリス| ||フランス海軍がセントヴィンセントとグレナダを奪取 (~17840106)
 1779年7月8日 00:00|イギリス| ||<死去>4代アンカスター=ケスティーグン公・第7代リンジー伯「ロバート・バーティ」
 1779年7月8日 00:00|イギリス| ||<就任>5代アンカスター=ケスティーグン公・第8代リンジー伯「ブライアン・バーティ」 (~18090208死去 廃絶)
 1779年7月15日 06:00|アメリカ/イギリス| ||アンソニー・ウェイン、イギリス軍のニューヨーク植民地ストーン・ポイント襲撃に成功
 1779年7月20日-03:00|エチオピア| ||<即位>エチオピア帝国国王 (後期ソモモ朝) 「ギヨルギス1世」 (1回目~17840208)
 1779年7月30日-01:00|クロアチア/ハンガリー| ||政府の廃止により、リエカ (フィウメ) 陥落しハンガリー管轄下
 1779年8月-07:00|カンボジア| ||<死去>カンボジア王国国王「アンノ2世」
 1779年8月-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「アン・エン」 (1回目~1783年)
 1779年8月-03:30|イラン| ||<就任>サファヴィー朝大宰相「ミルザ・ラヒ・イスファハニ」 (~1785年)
 1779年8月 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| ||<就任>トリニダード知事「ラファエル・デルガド」 (軍事知事) (~17810331)

1780迄 (1631件)

1779年8月 04:00|グアドループ/イギリス| |||<就任>マリー・ガランテ特定知事「Auguste Lescuiller Descoudrelles」(~17850627死去)

1779年8月1日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「ウィリアム・メドウス」(~1780年)

1779年8月8日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯・パークシャー伯「ヘンリー・ハワード」(~10日死去)

1779年8月10日-01:00|フランス| |||ルイ16世が農奴廃止令をだす

1779年8月10日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯・パークシャー伯「ヘンリー・ハワード」

1779年8月10日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯・パークシャー伯「トマス・ハワード」(~17830223死去)

1779年8月12日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アンカスター=ケステイヴァン公・第7代リンジー伯「ロバート・バーティ」(~17790708死去)

1779年8月21日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「シラフダル・セイイト・メフメト・パシャ」(~17810220)

1779年8月21日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード 知事「マティン・デ・サラグエリア(市民知事)」(~17810331)

1779年8月22日-03:30|イラン| |||<即位>サント 王朝ワキル・アル=ラーヤ(民衆保護者)「ムハンマド・サディク・カーン・サント」(~17810314没)

1779年8月23日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「マティン・マヨルガ・フェレル」(~17830428没)

1779年8月25日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「運営委員会(デ・イコ・ゲレロ・アホ・イム/フレイ・セルヒオ・トリノ・デ・サン・セルウ・インセント・カタンマア・イ・ヴァスコセルス)」(~12.16)

1779年8月25日-09:00|日本|愛媛県松山市|安永8年7月14日|<死去>伊予松山藩15万「松平定静」(51歳)⇒養子「松平定国」が継ぐ(⇒文化元年6月16日(18040722)、死去)

1779年9月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「イブラヒム・パシャ」(~11月)

1779年9月5日-09:00|日本|群馬県館林市|安永8年7月25日|<死去>上野国館林藩61000石(老中)「松平武元」(67歳)⇒四男「松平武寛」が継ぐ(⇒天明4(1784)年3月26日、死去)

1779年9月11日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|安永8年8月2日|<死去>大久保忠胤(70歳)前下野烏山藩主

1779年9月12日 00:00|イギリス| |||<死去>2代テンフル伯「リチャード・ケレンヴァイル=テンフル」

1779年9月12日 00:00|イギリス| |||<就任>3代テンフル伯・初代ハッキンガム侯「ジョージ・ニュージエント=テンフル=ケレンヴァイル」(⇒17841204ハッキンガム侯⇒17881013兼2代ニュージエント伯~18130211死去)

1779年9月12日-09:00|日本|東京都千代田区|安永8年8月3日|仙台河岸伊達邸での花火を橋の上から見物していた群衆が欄干を押し落とし、死傷者がでる

1779年9月13日-05:00|モルティグ| |||<死去>モルティグ・スルタン「ムイッス・アッデイン・ムハンマド・イスクンダール」

1779年9月13日-05:00|モルティグ| |||<即位>モルティグ・スルタン「ヌール・アッデイン1世アル=ハサン」(~17990602没)

1779年9月15日 06:00|ペリズ/スペイン| |||スペインがセント・ジョージズ・キーを占領(~1782年)

1779年9月16日-09:00|日本|愛媛県西条市|安永8年8月7日|<交替>伊予小松藩1万石「一柳頼寿」隠居⇒次男「一柳頼欽」が継ぐ(⇒寛政8(1796)年8月15日、死去)

1779年9月23日 00:00|イギリス/アメリカ| |||ジョン・ジョーンズ率いるアメリカ艦隊、イングラント沖でイギリス艦隊に勝利

1779年9月27日-09:00|日本|兵庫県姫路市|安永8年8月18日|<死去>建部政民(82歳)前播磨林田藩主

1779年9月28日 06:00|アメリカ| |||<就任>「大陸」議会議長「Samuel Huntington」(~17810302)無所属

1779年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリップ・ベルツィ」「ホンペ・イ・ゾリ」

1779年10月3日-09:00|日本| ||安永8年8月24日|<安永8年東海を中心に関東、東北で暴風雨・洪水>10月3日~4日(8月24日~25日)になると暴風雨となり、羽州米沢、奥州盛岡、同仙台、常陸、下野、上総の各地の河川が氾濫し洪水/東海地方の被害は大きく、三州岡崎では大洪水となり城下近郷の民家ごとごとく漂流し、40万石余の収穫に相当する田畑が水没/尾張では、庄内川の水量が増して上條、志段味、味鋤、比良、大野木にある堤防が決壊し、同川の右岸、南は小田井の堤防まで、東は木津川、西は五条川、北は小牧辺りに至る地域が一面海になり、民家は水没/二つ杵の堤防も決壊し清須から津島に至る道路も全て冠水、天白川の水も氾濫して、熱田、八町囃、鳴海間の往来は途絶し、多くの人も家も流された

1779年10月3日-09:00|日本|兵庫県朝来市|安永8年8月24日|<死去>但馬出石藩58000石「仙石政辰」(57歳)⇒婿養子「仙石久行」が継ぐ(⇒天明5(1785)年9月17日、死去)

1779年10月4日-09:00|日本|東京都|安永8年8月25日|江戸では、神田川が氾濫して和泉橋が落ち、目白下の水道の掛樋の堤が20間(約36m)ほど崩れて、小日向、水道町の道路が5尺(1.5m)ほど冠水

1779年10月9日 06:00|アメリカ/フランス/イギリス| |||サハラの戦いでアメリカ・フランス連合軍がイギリス軍に撃退される

1779年10月21日-01:00|ボスニア=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ムスタファ・パシャ」(~17801115)

1779年10月24日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Edward Hay」

1779年10月24日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Samuel Rous」(3期目~26日)

1779年10月25日-09:00|日本|兵庫県小野市|安永8年9月16日|<交替>播磨小野藩1万石「一柳末栄」隠居⇒長男「一柳末英」が継ぐ(⇒文化元(1804)年7月5日、隠居)

1779年10月26日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「John Dotin」(1期目~17800712)

1779年10月26日-09:00|日本|福島県西白河郡中島村|安永8年9月17日|磐城滑津本法寺焼失

1779年11月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ライフ・イスマイル・パシャ」(2度目~1780年7月)

1779年11月 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督「ラモン・デ・カルバル」(~1785年)

1779年11月1日-09:00|日本| ||安永8年8月24日|<死去>松下烏石(81歳)書家

1779年11月7日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「徐命善」(~17800209)

1779年11月8日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安永8年10月|島津重豪公が天文観測や暦の作成などを行う施設「

1780迄 (1631件)

明時館(別名天文館)を建てる

- 1779年11月8日 05:00|日本|鹿児島県鹿児島市|安永8年10月1日|<桜島「安永大噴火」>未刻ごろ(14時ごろ)になると、南岳南側の中腹から大噴火が始まり、申の刻ごろ(16時ごろ)北東中腹が火を噴き、辺り一帯は噴煙と降灰で闇夜ようになった/翌日早朝から大量の噴石が舞い、続いて火口から火砕流が発生し民家を襲い、多量の溶岩(安永溶岩)が海上に流れた/153人死亡、家屋全・半潰500軒、船舶沈没12隻、米及び雑穀類の被害7万石余/火山灰は遠く土佐から大坂、紀州、伊勢、尾張さらに関東、江戸まで達した
- 1779年11月9日-09:00|日本|京都府京都市|安永8年10月2日|<死去>富士谷成章(42歳)国学者/画家皆川淇園の実弟
- 1779年11月21日-09:00|日本|東京都江東区|安永8年10月14日|<大相撲>安永8年10月場所[江戸深川八幡宮](~10日間)優勝(西関脇)谷風、9勝0敗1分、27連勝
- 1779年11月22日 04:00|フォークランド | |||<就任>スペイン領フォークランド 諸島司令官・総督「Salvador de Medina y Juan」(~17810226)
- 1779年12月3日-09:00|日本|長野県須坂市|安永8年10月26日|<死去>信濃須坂藩10053石「堀直堅」(37歳)⇒弟「堀直郷」が継ぐ(⇒天明4年2月3日(17840323)、死去)
- 1779年12月5日-01:00|アンゴラ/ポルトガル | |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ル・ゴンサロ・ダ・コウチニョ」(~17821219)
- 1779年12月6日-09:00|日本|京都府京都市|安永8年10月29日|<死去>後桃園天皇(22歳、宝暦8(1758)0702生)118代天皇
- 1779年12月7日-09:00|日本|岐阜県郡上市|安永8年10月30日|<死去>青山幸道(55歳)前美濃郡上藩主
- 1779年12月16日-02:00|モザンビーク/ポルトガル | |||<就任>ポルトガル領モザンビーク暫定総督・総司令官「ル・デ・ヴァスコンチェロ・ス・イ・アルメイダ 修道士」(~17810507没)
- 1779年12月17日-05:30|インド/ポルトガル | |||<就任>ポルトガルに買収される
- 1779年12月28日-09:00|日本|東京都|安永8年11月21日|平賀源内が門弟2人の誤殺容疑で投獄
- 1780年-12:00|ウリス・ツナ | |||<死去>ウリス王「Finekata」
- 1780年-12:00|ウリス・ツナ | |||<即位>ウリス王「Manuka」(~1810年)
- 1780年-08:00|インドネシア/イギリス | |||<死去>ベングール大統領府総督「ウィリアム・Broff」
- 1780年-08:00|インドネシア/オランダ | |||<死去>モルッカ諸島オランダ 総督「Jacob Roeland Thomaszen」
- 1780年-08:00|マレーシア | |||<就任>スガ・イ・ウジ・オン統治者(ウダ・ン・ル・ク・スガ・イ・ウジ・オン)「ダ・トゥ・レハ」(~1800年頃)
- 1780年-08:00|インドネシア/イギリス | |||<就任>ベングール大統領府総督「Hew スチュアート」(~1781年)
- 1780年-08:00|インドネシア/オランダ | |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「アレクサンダー・Cornabe」(~1793年)
- 1780年-08:00|インドネシア | |||<即位>シアク第5代スルタン「Muhammad Ali Abdul Jalil Muazzam Shah」(~1782年)
- 1780年-08:00|インドネシア | |||<即位>ティール・スルタン「Patra Alam」(~1783年)
- 1780年-08:00|インドネシア | |||<即位>パカン・スルタン「Skandar Alam」(~1788年)
- 1780年-08:00|インドネシア | |||<即位>パカン・スルタン「Cakraningrat7世」(~1815年)
- 1780年-08:00|フィリピン | |||<即位>マギンダナオ・スルタン「ムハンマド・Amir ul Omra Azimuddin Sikandar Sul Karnain bin Pakir Maulana」(~1805年)
- 1780年-07:00|ラオス/タイ | |||<死去>グエンチャン王「タイ総督フ・ラー・スホー」
- 1780年-07:00|ラオス | |||<即位>グエンチャン王「オンブン」(2回目~1781年11月没)
- 1780年-05:30|インド | |||<死去>シッキム王「ブント・ナムゲル2世」
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>アッサム国ラジャ「スヒット・ンファ・ガ・ウリナシン・ハ・ジ・ユバ・ラジャ」(1回目~1792年)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ウトカラ国ラジャ「ティ・イ・ヤム・ハデ・ウ・ア2世」(~1795年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>カブルタラ国統治者(サルタール)「シ・ヤッサ・シン」建国(~17831020没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ガルワル国ラジャ「ジ・エイクリット・シャー」(~1785年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>コタ・グ・国ラジャ「ウ・イララ・エン・ラ1世・ウダ・イタル」(~18090609没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ジャインティア国ラジャ「ヤトラ・ナヤン・シム・ストンガ」(~1785年)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>チュダ 国統治者(ターケル)「ハティンシ・ガ・ジ・シン」(~1820年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ナゴト 国ラジャ「ラル・シェオラ・シン」(~1818年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ニルギリ国ラジャ「ラティ・カ・ティ・ラ・マタ・ラニ」(~1781年)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>パンスタ 国統治者(ラジャ・サーヒブ)「ウ・イルシム2世」(~1789年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ペリ国統治者(ラ)「ジュガル・フ・ラサト」(~1814年没)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>マルプール国統治者(ラ)「インド・ラシン」(~1796年)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>ラムナト 国ラジャ「ムトウ・ラマリンガ・セトウ・ティ1世」(2回目~1795年)
- 1780年-05:30|インド | |||<即位>シッキム王「テンジ・ン・ナムゲル」(~1793年、死去)
- 1780年-05:30|インド | |||<就任>コタ・グ 国をマヒル(マイソール)が占領(~1788年)
- 1780年-05:00|パキスタン | |||<就任>フンザ 国ミル・タム「ミルザ・カーン2世」(~1790年)
- 1780年-05:00|パキスタン | |||<即位>バルティスタン国王「アザム・カーン」(~1785年)
- 1780年-04:00|アゼルバイジャン | |||<就任>ガンジ・ヤ汗国ハン「イブラヒム・ハリール・ハン」(~1784年)
- 1780年-03:30|イラン | |||<即位>サファヴィー朝対立シャー「アフ・アル=ファス・ムハンマド」(~1786年)
- 1780年-03:00|カンタ | |||<死去>ブ・ガンタ 王国国王「Kyabaggu Kabinuli」
- 1780年-03:00|カンタ | |||<就任>ユキ王国統治者(オムカマ)「ム・ジュイカ」(~1782年頃)
- 1780年-03:00|イラク/トルコ | |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「スレイマン2世アガ 大王」(~1802年)
- 1780年-03:00|イラク/トルコ | |||<就任>ハスラのムテッカリフ「シュレマン・エフェンディ」(~1786年)
- 1780年-03:00|スーダン | |||<就任>フンザ・スルタン国摂政「ラジャブ・ワラト・ムハンマド」(~1786年)

1780迄 (1631件)

1780年-03:00|カンダ | |||<就任>ブガンダ王国首相「Ssendegeya」⇒「Mayembe」⇒「Kagenda」(~1797年)
 1780年-03:00|カンダ | |||<就任>勅統治者(オムカ)「ムン・ナフ・ワ・インベンコ1世」(~1791年頃)
 1780年-03:00|イメン | |||<即位>下ヤファ・サルタン「Abd al-Karim ibn Ghalib al-Afifi」(~1800年)
 1780年-03:00|イメン | |||<即位>上ヤファ首長「Umar ibn Salih Al Harhara」(~1800年)
 1780年-03:00|イラク | |||<即位>ハバソ首長「Mahmoud Pasha」(~1782年)
 1780年-03:00|カンダ | |||<即位>ブガンダ王国国王「Jjunju Ssendegeya」(~1796年死去)
 1780年-03:00|ジブチ | |||<即位>ラハト・スルタン「フルハン・サディク・ビン・ハマト」
 1780年-02:00|シリア・アラブ / トルコ | |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Koca Abdi Pasha」(~1781. 3)
 1780年-02:00|エストニア | |||<就任>スウェーデン 最高支配者「スウェーデン」(~1815年)、摂政「スウェーデン女王」
 1780年-02:00|ウクライナ / ロシア | |||<就任>ハリコフ、ウクライナ 総督「Yevdokim Alekseyevich Shcherbinin」(~1782年)
 1780年-02:00|ギリシャ / トルコ | |||<就任>ヨアニナ・クリス(総督)「スレイマン・パシャ」(~1786年)
 1780年-01:00|ハンガリー | |||<就任>ハンガリー政府評議会議長「ヨルジ・フェーゲランタイ伯爵」(~17830814)
 1780年-01:00|イタリア | |||イタリアの生理学者ガルーニがカエル脚の神経で動物電気を発見
 1780年 00:00|セネガル | |||<就任>ワロ統治者(フラ)「ファラ・ベン・タ・テグ・レリ」(~1795年)
 1780年 03:00|ウルグアイ / スペイン | |||<就任>サラメント新植民地スペイン軍司令官「Domingo Chauri」(~1783. 2)
 1780年 04:00|バルバドス / イギリス | |||<就任>イギリス領バルバドス総督「James Cunninghame」(~1782年)
 1780年 04:00|ボリビア / スペイン | |||<就任>コチャバン 総督「フェリクス・ジョセフ・ビジャノボ」(~1783年)
 1780年 04:00|トミニカ / フランス | |||<就任>フランス領トミニカ総督代行「フェイゴン男爵」(~1781年)
 1780年 04:00|BES諸島 / オランダ | |||<就任>ボネール暫定司令官「Christiaan Gerard Dammers」(⇒1784年司令官~1795年)
 1780年 07:00|メキシコ | |||クレベールが「メキシコ古代史」を刊
 1780年1月1日-09:00|日本|京都府京都市|安永8年11月25日|<就任>摂政「九条尚実」
 1780年1月1日-09:00|日本|京都府京都市|安永8年11月25日|<踐祚>119代「光格天皇」/安永9年12月4日即位式(~18170322)
 1780年1月8日 10:30|イラン | |||イラン北西部で地震(M7. 4)死者5万人(10万、20万との説もある)
 1780年1月11日-09:00|日本|岩手県盛岡市|安永8年12月5日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部利雄」(56歳)⇒翌年2月7日、養子「南部利正」が継ぐ(⇒天明4(1784)年5月5日、死去)
 1780年1月16日 04:00|セントビンセント / イギリス / スペイン | |||イギリスのサー・ジョージ・ロートニー軍はサン・ペテロ岬沖で小規模なスペイン戦隊を破った(サン・ペテロ岬の月光の海戦)
 1780年1月20日-09:00|日本 | |||安永8年12月14日|<死去>宮川一笑(91歳)浮世絵師
 1780年1月21日-09:00|日本|群馬県高崎市|安永8年12月15日|<加増>上野高崎藩72000石「松平輝高」+1万石⇒82000石(⇒天明元(1781)年9月25日、死去)
 1780年1月21日-09:00|日本|山形県鶴岡市|安永8年12月15日|<加増>出羽松山藩2万石「酒井忠休」+5000石⇒25000石(⇒天明7(1787)年4月18日、74歳で死去)
 1780年1月24日-09:00|日本|東京都|安永8年12月18日|<死去>平賀源内、大工を殺害したとして投獄され、破傷風のため獄死(52歳、生年享保13(1728))本草学者、蘭学者、浄瑠璃作家、発明家、画家
 1780年1月26日-05:30|イット / イギリス | |||「ガークワート」家はイギリスと攻守同盟を結んだ
 1780年2月-01:00|スペイン / エクアドル | |||アンバト市近郊キチンチャで重税に抗議するインディオの暴動発生/各地に波及する勢いとなり、増税は撤回
 1780年2月 04:00|セントルシア / イギリス | |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「ジョージ・ブリッジス・ロートニー卿」(2回目~1781年)
 1780年2月5日-09:00|日本 | |||安永9年|<刊行>俳人松露庵烏明「松露庵随筆」(去年の沼田辺までの遊行を記す)
 1780年2月5日-09:00|日本|北海道|安永9年|石狩などで天然痘が流行、アイヌの死者647人に及ぶ
 1780年2月5日-07:00|ベトナム | |||大越・泰徳3年|<即位>パントランガ王「Po Tisuntiraidapuram」(1期目~1781年)
 1780年2月12日-09:00|韓国/朝鮮 | |||<就任>朝鮮国領議政「金尚喆」(~17810129)
 1780年2月19日-09:00|日本|香川県高松市|安永9年1月15日|高松藩の学館の造営工事落成し講道館と名付け、藩士を集めて大学を講義
 1780年2月22日-01:00|イタリア | |||<死去>モナ・レージョ公「フランチェスコ3世」
 1780年2月22日-01:00|イタリア | |||<即位>モナ・レージョ公「エルコレ3世」(~17960507退位、ナポレオン・ボナパルトに征服されサルデーニャ共和国に編入~18031014死去)
 1780年2月23日 04:00|グレナダ / セントビンセント / セントルシア / イギリス | |||<就任>南カリブ海諸島内外総督代理「ジョージ・ファーガソン」(~17840106)
 1780年3月1日 06:00|アメリカ | |||ペンシルベニア議会が、奴隷の漸次的解放を規定
 1780年3月6日-09:00|日本|静岡県沼津市|安永9年2月|水野忠友が沼津城完成/静岡県
 1780年3月7日 05:00|ハイチ / フランス | |||<就任>フランスのサント・ミッシェル 総督代行「ジャン・バティスト・ド・テイスト・ド・ランクル」(2回目~4. 25)
 1780年3月7日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|安永9年2月2日|<死去>鍋島宗茂(63歳)前肥前佐賀藩主
 1780年3月14日 06:00|アメリカ / スペイン / イギリス | |||スペイン軍、ウェスト・フロリダのモビル占領
 1780年3月19日-09:00|日本|福井県あわら市|安永9年2月14日|坂井郡北金津町で火事、町家404軒など焼失
 1780年3月26日-01:00|ドイツ | |||<死去>プラーンシュヴァイク＝ウルフェンビュッテル侯「カール1世」
 1780年3月26日-01:00|ドイツ | |||<就任>プラーンシュヴァイク＝ウルフェンビュッテル侯「カール＝ウルヘルム＝フェルディナント」カール1世の息子(~18061110イナ・アウエルシュタットの戦いで戦死)
 1780年3月28日 05:00|バハマ / イギリス | |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「ジョン・ロバート・マクスウェル」(1回目~17820508

1780迄(1631件)

)

1780年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マネティ」「アントニオ・カピッティオニ」
1780年4月5日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|安永9年3月|赤田大仏建立(長谷寺)
1780年4月5日-09:00|日本|静岡県富士宮市|安永9年3月|富士妙蓮寺客殿・表門焼失
1780年4月9日 06:00|ニカラガ/イギリス/スペイン| |||イギリス海軍ルソンが白兵戦を率いてスペイン領ニカラガのバルトラ島のスペイン砲台を占領
1780年4月9日-09:00|日本|香川県高松市|安永9年3月5日|<死去>讃岐高松藩12万石「松平頼真」(38歳)⇒4月27日、弟「松平頼起」が継ぐ(⇒寛政4(1792)年7月28日、死去)
1780年4月11日-05:30|インド| |||ベンガルに中央民事裁判所設置
1780年4月13日-09:00|日本|福井県大野市|安永9年3月9日|大野城下大火、本家171軒など330竈焼失
1780年4月14日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールドコースト総裁「ピーター・ワートマン」
1780年4月16日-09:00|日本| ||安永9年3月12日|<死去>中山高陽、土佐へ向かう船中で(64歳)画家、書家、漢詩人
1780年4月17日 06:00|アメリカ/イギリス/フランス| |||<アメリカ独立戦争:マティニーク島の海戦>西インド諸島沖で英国海軍がフランス海軍を取り逃がす
1780年4月19日-09:00|日本|東京都江東区|安永9年3月15日|<大相撲>安永9年3月場所[江戸深川三十三間堂](~6日間)優勝(西関脇)谷風、6戦全勝、33連勝
1780年4月25日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミング総督「レイノー・ド・ヴィルヴァーヴ・伯爵」(2回目~17810728)
1780年4月25日-09:00|日本|岡山県真庭市|安永9年3月21日|<死去>美作勝山藩23000石「三浦矩次」(34歳)⇒義弟「三浦前次」が継ぐ(⇒文化13(1816)年4月29日、隠居)
1780年4月29日 06:00|ニカラガ/イギリス/スペイン| |||スペイン領ニカラガのサンファン砦のスペイン軍がイギリス軍に降伏
1780年5月4日 00:00|イギリス| |||英エプソム競馬場で初のダービーステークス開催(オックスの牡馬版)
1780年5月5日-09:00|日本|愛媛県大洲市|安永9年4月2日|幕府、大洲藩の申請により南神崎村・同上野分を大洲領とし、替地として大洲領風早郡栗井村・小浜村及び大浦村の大部分を受け取る。時大洲領摂津国武庫郡池尻村・南野村も天領に編入
1780年5月10日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「ジェームズ・ファン・デル・ブイ」(~12.30没)
1780年5月12日 06:00|アメリカ/イギリス| |||サウスカロライナのチャールストン市がヘンリー・クラントン将軍とチャールズ・コンウォリス将軍麾下のイギリス軍の海からの攻撃に陥落
1780年5月23日-09:00|日本|長崎県五島市|安永9年4月20日|<死去>五島盛道(70歳)前肥前福江藩主
1780年5月29日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<ワックスホーの虐殺>米サウスカロライナ州ランカスターで英国軍が大陸軍に完勝
1780年6月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリア総督「Joseph Graf von Brigido」(~1794.10)
1780年6月2日 00:00|イギリス| |||ロンドンでゴードン卿の一揆がおこる
1780年6月15日 06:00|アメリカ| |||マチュー・セツ憲法が批准され、奴隷の即時廃止を規定される
1780年6月17日-09:00|日本|新潟県村上市|安永9年5月15日|<死去>内藤信興(61歳)前越後村上藩主
1780年6月19日-09:00|日本|秋田県秋田市|安永9年5月17日|<死去>小田野直武(32歳)画家、秋田藩士
1780年6月21日-09:00|日本| ||安永9年5月19日|<死去>6代森田勘弥(57歳)歌舞伎役者
1780年6月21日-09:00|日本|東京都千代田区|安永9年5月19日|幕府が、江戸城の出火に備えて詰める城番役を創始
1780年6月28日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルグ総督代行「ゲオルク・アダム・フルスト・フォン・シュタルペンベルク」(~11月)
1780年6月30日-09:00|日本|群馬県安中市|安永9年5月28日|<死去>上野安中藩3万石(老中)「板倉勝清」(75歳)⇒長男「板倉勝暁」が継ぐ(⇒寛政4(1792)年7月28日、死去)
1780年6月30日-09:00|日本|長野県伊那市|安永9年5月28日|<死去>内藤頼由(73歳)前信濃高遠藩主
1780年7月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「イブラヒム・パシャ」(1回目~1781年)
1780年7月 00:00|イギリス| |||ロバート・レイクスが日曜学校を始める
1780年7月2日 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ラブラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ジェロニモ・マヌエル・デ・ルエダ・ス・モリス」(2回目~1782年)
1780年7月2日-09:00|日本| ||安永9年6月|<安永9年関東大水害>関東地方に大雨が降り、渡良瀬川や神流川、烏川などの河川が決壊、武蔵、上総、下総、上野、下野、常陸など、相模、安房(房総半島南部)を除く、ほぼ関東一円が大洪水となり耕地は壊滅、家屋も多く流され江戸では両国橋などが破損
1780年7月4日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<死去>オーストリア領ネーデルラント総督「カール・アレクサンダー・フォン・ロートリンゲン」
1780年7月4日-01:00|オランダ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ネーデルラント総督「マリア・クリスティーナ・フォン・エスターライヒ&アルベルト・ガズミール・フォン・ザクセン＝テシェン」(~1793年)
1780年7月4日-01:00|デンマーク/オランダ/スウェーデン/ロシア| |||スウェーデン、デンマークが、ロシア、オランダとともに第1次武装中立同盟を結ぶ
1780年7月6日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督・司令官代行「トマス・アルバレス・デ・アセバド・オルタス」(1回目~12.10)
1780年7月12日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「James Cunninghame」(~17820619)
1780年7月21日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「アグスティン・デ・ジャウレギ・イ・アルテコア」(~17840406没)
1780年7月23日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「ファン・フェルナンデス・デ・ホバデ・イ・ジャイ・グランダ」(2回目~17810128)
1780年7月25日-09:00|日本|佐賀県小城市|安永9年6月24日|<死去>鍋島直貞(55歳)前肥前小城藩主
1780年8月-04:00|アゼルバイジャン| |||<死去>シャッキ汗国ハン「ムハンマド・フサイン・ハン」

1780迄 (1631件)

1780年8月-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャキ汗国ハン「アブド・アル=カーデイル・ハン」(~17831221死去)
1780年8月1日-09:00|日本|北海道|安永9年7月|蝦夷で疱瘡が流行/647人死亡
1780年8月6日-09:00|日本|東京都千代田区|安永9年7月6日|<昇格>老中格「阿部正允」→老中(~安永9年11月24日)
1780年8月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<アメリカ独立戦争:キャメデンの戦い>南部戦線サウス・カライのキャメデンで英国軍コーンウォリス将軍が大陸軍ゲーツに完勝
1780年8月17日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリウ総督「Antonio Manso」(~1782年)
1780年8月24日-09:00|日本|大分県中津市|安永9年7月24日|<死去>豊前中津藩10万石「奥平昌鹿」(37歳)⇒長男「奥平昌男」が継ぐ(⇒天明6(1786)年3月21日、死去)
1780年8月30日-09:00|日本| ||安永9年8月|<刊行>秋里籬島作・竹原春潮斎画「都名所図会」/ベストセラーとなる
1780年9月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド総督「Reinier de Klerk」
1780年9月2日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Willem Arnold Alting」(~17960816)
1780年9月4日-09:00|日本|京都府福知山市|安永9年8月6日|<交替>丹波福知山藩32000石「朽木綱貞」隠居⇒22日、養子「朽木鋪綱」が継ぐ(⇒天明7(1787)年9月19日、死去)
1780年9月4日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|安永9年8月6日|<交替>播磨赤穂藩2万石「森忠興」隠居⇒弟「森忠賛」が継ぐ(⇒享和元(1801)年5月23日、隠居)
1780年9月10日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<死去>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ジョージ・ジェームズ・ブルレー」
1780年9月10日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ジョージ・ブルレー」(~17811216)
1780年9月11日-09:00|日本|京都府綾部市|安永9年8月13日|<死去>丹波山家藩1万石「谷衛秀」(52歳)⇒次男「谷衛量」が継ぐ(⇒享和元(1801)年9月21日、死去)
1780年9月18日-01:00|アントワープ| |||<就任>アントワープ公国共同大公「ウルヘル司教アン・ト・ガルス・イ・モンテネーロ」(~17830523)
1780年9月19日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ソールズベリー伯「ジェームズ・セシル」
1780年9月19日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ソールズベリー伯「ジェームズ・セシル」先代の息子(⇒17890818ソールズベリー侯~18230613)
1780年9月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ヒルトブルクハウゼン公「エルスト・フリートリヒ3世」
1780年9月23日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ヒルトブルクハウゼン公「フリートリヒ」(~18340929死去)1787年までヨーゼフ・フリートリヒ・フォン・ザクセン=ヒルトブルクハウゼンが摂政を務めた
1780年9月25日-09:00|日本|徳島県|安永9年8月27日|<死去>蜂須賀宗鎮(60歳)元阿波徳島藩主
1780年9月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永9年8月28日|幕府が大坂に鉄座、真鍮座を設置
1780年9月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永9年9月|「野崎村」初演浄瑠璃、竹本座
1780年10月1日-01:00|サマリニャ| |||<就任>サマリニャ共和国執政「コスタンティノ・ボネリ」「フランチェスコ・デ・イ・リヴァ・イ・カザーリ」
1780年10月1日-09:00|日本|新潟県新発田市|安永9年9月4日|<死去>溝口直温(65歳)前越後新発田藩主
1780年10月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<キング・スマウテンの戦い>米ノースカロライナで愛国者軍民兵が英王党派軍民兵に勝利
1780年10月10日 05:00|カリブ海| |||<グレートハリケン>がバルバドス海通過。カリブ海諸島で死者約2万人/史上最悪のハリケン
1780年10月22日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永9年9月25日|<死去>初代三枘大五郎(63歳)歌舞伎役者
1780年10月24日-09:00|日本|大阪府松原市|安永9年9月27日|<死去>河内丹南藩1万石「高木正弼」(40歳)⇒11月24日、婿養子「高木正直」が継ぐ(⇒天明元(1781)年5月26日、死去)
1780年10月25日-09:00|日本|大阪府大阪市|安永9年9月28日|<初演>近松半二、人形浄瑠璃「新版歌祭文」竹本座
1780年10月31日 00:00|イギリス/インド| |||<バタール軍が東インド会社軍を破り、カナダ地方を奪還>
1780年11月-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルク総督「アルバート・カミール・アウグスト・フリンツ・フォン・ザクセン=テッセン」,「マリー=クリスティーヌ・ヨハンナ・ヨーゼファ・アントニア・エルツェルツォーグ・フォン・オーストリア」(1回目~1787年6月)
1780年11月1日-05:30|インド| |||<就任>マラコウ国支配者(ナワブ)「カン・サーヒブ・アサド・ウッラー・カン」(~1784年4月没)
1780年11月3日-09:00|日本|山形県新庄市|安永9年10月7日|<死去>出羽新庄藩68200石「戸沢正産」(23歳)⇒12月7日、弟「戸沢正良」が継ぐ(⇒天明6(1786)年8月16日、死去)
1780年11月3日-05:30|インド/イギリス| |||<マイソール王国首席大臣ハイダル・アリーはイギリスの領土であったアルコトを占領>
1780年11月4日-01:00|スペイン/ペルー| |||ペルーでツパク・アマル(インカ皇孫)による反乱(~17810406)
1780年11月4日-09:00|日本|三重県三重郡菰野町|安永9年10月8日|<交替>伊勢菰野藩11000石「土方雄年」隠居⇒養子「土方雄貞」が継ぐ(⇒天明2(1782)年11月4日、死去)
1780年11月8日 06:00|ニカラガ/イギリス/スペイン| |||イギリス軍のスペイン領ニカラガへの遠征中断、スペイン軍がサンファン砦を再占領/遠征全体で、イギリス軍は2,500名以上の者を死なせた
1780年11月12日-01:00|スペイン/ペルー| |||トウパマル軍、キスピカチ郡に侵入、キハを占領
1780年11月15日-01:00|ボスニアヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「アイド・シリ・カラ・メフメト・パシャ」(~17850513)
1780年11月15日-09:00|日本|東京都港区|安永9年10月19日|<大相撲>安永9年10月場所[江戸芝神明宮](~10日間)優勝(東関脇)鷲ヶ濱,9勝1敗/谷風は西関脇で8勝0敗2預,41連勝
1780年11月18日-01:00|スペイン/ペルー| |||トウパマル討伐のため進攻したカブレラの指揮するクスコ軍,サガラで6千名のトウパカ・アマル軍に包囲され600名が全滅.スペイン側の死者は576名に達する
1780年11月20日-01:00|オランダ/イギリス| |||<対英武装中立同盟加盟国のオランダにイギリスが宣戦布告(第4次英蘭戦争~1984.5.20)>
1780年11月20日-09:00|日本|千葉県富津市|安永9年10月24日|<死去>上総佐貫藩16000石「阿部正賀」(35歳)⇒養子「阿部正実」が継ぐ(⇒寛政4(1793)年11月20日、隠居)
1780年11月20日-09:00|日本|東京都江東区|安永9年10月24日|江戸深川に無宿養育所設置

1780迄(1631件)

1780年11月29日-01:00|オーストリア/チェコ/フランス/ハンガリー/クロアチア/ベルギー/イタリア/オランダ/ルクセンブルグ| |||<死去>オーストリア大公「マリア・テレジア女帝」兼クロアチア王「マリア2世テレサ」兼ハンガリー女王・ボヘミア女王「マリア・テレジア」兼ブルゴニェ公・アルトワ伯「マリー・テレズ」兼ブラバント公・エノー伯・フランドル伯「マリー2世」兼ルクセンブルク公「マリア2世テレサ」天然痘で/63歳(誕生17170513)

1780年11月29日-01:00|オーストリア/チェコ/ハンガリー/クロアチア/フランス/オランダ/ベルギー/ルクセンブルグ| |||<即位>ハンガリー国王「ヨーゼフ2世」兼オーストリア大公・クロアチア王・ボヘミア王「ヨーゼフ2世」兼ブルゴニェ公・アルトワ伯「ジョセフ」兼ブラバント公・エノー伯・フランドル伯「ジョセフ1世」兼ルクセンブルク公「ヨーゼフ」神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世、マリア・テレジアの長男(〜17900220死去48歳)

1780年12月 05:00|ペルー/スペイン| |||トウハマル軍、キスピカン郡に侵入、キハを占領

1780年12月1日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国枢密院議長代行「オーヴェ・ヘーゲ＝ケルト＝ベルク」(〜17840614)

1780年12月2日-01:00|フランス| |||<死去>フランドル伯「マリー2世」

1780年12月2日-01:00|フランス| |||<就任>フランドル伯「ジョセフ1世」(〜17900220死去)

1780年12月2日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト総督代行「イェンス・アドルフ・キエゲ」(〜17880421)

1780年12月2日-09:00|日本|秋田県秋田市|安永9年11月7日|<交替>久保田新田藩(2)2万石「佐竹義忠」隠居⇒養子「佐竹義祇」が継ぐ(⇒寛政5(1793)年9月19日、死去)

1780年12月5日 04:00|セントピント/フランス| |||<就任>フランス領セントピント総督「フィリペール・フランソワ・ルセル・ト・フランシュランド」(〜1781年5月)

1780年12月10日 04:00|リノ/スペイン| |||<就任>リノ総督・司令官「アンブロジョ・デ・ベネデス・メダナ・リニャン・イトレス」(〜17870427死去)

1780年12月11日-09:00|日本| ||安永9年11月16日|<死去>三浦禰良(52歳)俳人

1780年12月11日-09:00|日本|福井県勝山市|安永9年11月16日|<交替>越前勝山藩22000石「小笠原信房」隠居⇒長男「小笠原長教」が継ぐ(⇒寛政11(1799)年3月10日、死去)

1780年12月19日-09:00|日本|埼玉県行田市|安永9年11月24日|<死去>武蔵忍藩10万石(老中)「阿部正允」(65歳)⇒12月27日、従弟「阿部正敏」が継ぐ(⇒天明7(1787)年4月2日、死去)

1780年12月23日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「カーライル伯爵フレデリック・ハワード」(〜17820414)

1780年12月24日-09:00|日本|愛知県田原市|安永9年11月29日|<交替>三河田原藩12000石「三宅康之」隠居⇒三男「三宅康武」が継ぐ(⇒天明5(1785)年9月12日、死去)

1780年12月28日 05:00|ペルー/スペイン| |||トウハマル、クスコから1キロのビチェ山を確保

1780年12月30日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ピーター・フォルクマル」(〜17840312没)